

**Oracle® Essbase**

**Error Message Reference**

リリース 11.1.2.3

### Essbase Error Message Reference, 11.1.2.3

Copyright © 1996, 2013, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

著者: EPM 情報開発チーム

Oracle および Java は Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

#### U.S. GOVERNMENT RIGHTS:

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle America, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション（人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む）への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことにより起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

---

# 目次

---

ドキュメントのアクセシビリティについて .....	5
第 1 章 Essbase エラー・メッセージについての理解 .....	7
第 2 章 1002122 - 1270527: 集約ストレージ・メッセージ .....	11
第 3 章 1003000 - 1003048: データ・ロード・メッセージ .....	23
第 4 章 1006002 - 1006057: データ・キャッシュのメッセージ .....	39
第 5 章 1008001 - 1008152: システム呼出しのメッセージ .....	47
第 6 章 1012000 - 1012750: 計算メッセージ .....	63
第 7 章 1013000 - 1013999: リクエスト・メッセージ .....	89
第 8 章 1014004 - 1014043: ロック・マネージャ・メッセージ .....	91
第 9 章 1019002 - 1019056: データベース・オブジェクト・メッセージ .....	97
第 10 章 1040002 - 1042025: ネットワーク・メッセージ .....	113
第 11 章 1051002 - 1055041: エージェント・メッセージ .....	127
第 12 章 1120000 - 1120002: C のグリッド API メッセージ .....	149
第 13 章 1130203 - 1130613: その他のメッセージ .....	153
付録 A. 参照手順 .....	155
環境変数の設定 .....	155
データベース破損の確認 .....	156
データベース破損の修復 .....	156
バックアップを使用したデータベース・ファイルの置換 .....	157
ユーザー制限プロファイルの確認 .....	157
NETDELAY および NETRETRYCOUNT の設定 .....	158
サーバー・タスクの終了 .....	158
オブジェクトのロック解除 .....	158
オペレーティング・システム権限の判別 .....	159

索引 ..... 161

---

# ドキュメントのアクセシビリティについて

---

Oracle のアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility Program の Web サイト <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=docacc> を参照してください。

## Access to Oracle Support

Oracle サポート・サービスでは、My Oracle Support を通して電子支援サービスを提供しています。詳細情報は <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info> か、聴覚に障害のあるお客様は <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs> を参照してください。



# 1

## Essbaseエラー・メッセージについての理解

このドキュメンテーションでは、一般的な Oracle Essbase のエラー・メッセージと情報メッセージについて、エラーの考えられる原因および考えられる解決策とともに説明します。このリファレンスは、発生する可能性のあるすべてのエラー・メッセージについて説明しているわけではありません。

Oracle Essbase データベース管理者ガイドおよび Oracle Essbase テクニカル・リファレンスも参照してください。

表 1 は、最初の列に使用されているそれぞれのエラー番号の範囲のエラー・メッセージのカテゴリを示しています。エラー・メッセージを受信したときは、この表を使用して、そのエラーが関係している Essbase コンポーネントを識別してください。

表 1 エラー・メッセージのカテゴリ

エラー・メッセージ番号の範囲	エラーを生成したコンポーネント
1001000-1001999	レポート・ライター
1002000-1002999	サーバー一般
1003000-1003999	データ・ロード
1004000-1004999	サーバー一般
1005000-1005999	バックアップ、エクスポート、検証
1006000-1006999	データ・キャッシュ
1007000-1007999	アウトライン再構築
1008000-1008999	システム・コール、ポータブル層、ASD、エージェント
1009000-1009999	ASCII データの復元
1010000-1010999	内部(ブロックの番号付け)
1011000-1011999	内部(ユーティリティ)
1012000-1012999	計算機
1013000-1013999	リクエスト
1014000-1014999	ロック・マネージャ
1015000-1015999	別名テーブル
1016000-1016999	レポート・ライター

エラー・メッセージ番号の範囲	エラーを生成したコンポーネント
1017000-1017999	通貨
1018000-1018999	現在は使用されていません
1019000-1019999	データベース・アーティファクト
1020000-102999	スプレッドシート・エクストラクタ
1021000-1021999	SQL インタフェース
1022000-1022999	セキュリティ
1023000-1023999	パーティション化
1024000-1024999	クエリー・エクストラクタ
1030000-1030999	API
1040000-1040999	ネットワーク一般
1041000-1041999	ネットワーク-名前付きパイプ
1042000-1042999	ネットワーク-TCP
1043000-1049999	現在は使用されていません
1050000-1055999	エージェント
1056000-1059999	現在は使用されていません
1060000-1060999	アウトライン API
106100-1069999	現在は使用されていません
1070000-1070999	インデックス・マネージャ
1071000-1079999	現在は使用されていません
1080000-1080099	トランザクション・マネージャ
1081000-1089999	現在は使用されていません
1090000-1099999	ルール・ファイルの処理
1010000-1019999	現在は使用されていません
1100000-1100999	現在は使用されていません
1110000-1119999	Oracle Hyperion Web Analysis
1120000-1129999	グリッド API
1130000-1139999	その他
1140000-1149999	リンク・レポート・オブジェクト(LRO)
1150000-1159999	アウトライン同期



エラー・メッセージ番号の範囲	エラーを生成したコンポーネント
1160000-1169999	アウトライン変更記録
1170000-1179999	属性
1180000-1189999	ショーケース
1190000-1199999	Oracle Essbase Integration Services
1200000-1200999	計算機フレームワーク



# 2

## 1002122 - 1270527: 集約ストレージ・メッセージ

表 2 に、集約ストレージに関する一般的なサーバー・エラー・メッセージと情報メッセージを示します。

表 2 集約ストレージ・メッセージ 1002122 - 1270517

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1002112	アウトライン[%s]を変換できません。確認に失敗しました	OTL ファイルが破損しています。	正常なバックアップから OTL ファイルをコピーして貼り付け、破損した OTL ファイルを上書きします。アプリケーションとデータベースを起動して、アウトラインを確認します。
1002122	集約ストレージ・アプリケーションでは、essbase.cfg のディスク・ボリューム設定は無視されます	このデータベースに適用される DISKVOLUMES 設定は、essbase.cfg で指定されています。Essbase では、集約ストレージ・データベースのストレージを割り当てるときにディスク・ボリューム設定を使用しないので、この設定は無視されます。  Essbase では、テーブルスペースを使用して、集約ストレージのデータ・ファイルと作業ファイルのデータ・ストレージと取得を最適化します。テーブルスペースは、集約ビューや集約などのデータ・オブジェクトをファイルにマッピングする場所の定義です。	管理サービス・コンソールで、または MaxL を使用して、テーブルスペース・プロパティを定義することで、ストレージを割り当てます。
1003055	集約ストレージ・アプリケーションでは、導出セルに対する更新は無視されます。[%s]個のセルがスキップされました	データ・ソースに、上位集約セルまたは式のあるメンバーのデータ値があります。集約ストレージ・データベースでは、上位セルまたは値がアウトラインの式によって決まるセルにデータをロードできません。	アウトライン上の式によって値が異なることのない、レベル 0 のセルにのみ、データをロードします。
1023057	データベース[%]にはアクティブなユーザーが他にも存在しますが、パーティション定義ファイルを置換できません。詳細はアプリケーション・ログを確認してください  ステータス[1023057]のためトランザクション[%]が中止されました	パーティション定義の作成または置換は、管理アカウント・ユーザーによるデータベースへの排他的アクセスを必要とする管理タスクです。	他のユーザーをログオフします。

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1013101	再構築できません。 データベース[%s]でアクティブになっているユーザーが他にいます	データベースで他のユーザーがアクティブな場合は、そのデータベースを再構築できません。	他のユーザーをログオフします。
1013294、 1241164	集約選択では、停止サイズが 1.0 を超えている必要があります	Essbase で、集約ビューを選択できません。MaxL を使用して指定した、ストレージを停止する値が 1.0 より小さいからです。	1.0 以上のストレージを停止する値を指定します。  停止値はデータベース・サイズで、集約されていないレベル 0 のデータのサイズの倍数で表します。たとえば、停止値が 1.5 の場合、集約によってデータベース・サイズを 50%まで増加できます。1.0 未満の値を指定すると、集約データベースのサイズが元の集約されていないレベル 0 のデータのサイズよりも小さくなることになるため、この値は適切ではありません。
1060145、 1150091	ラベル・メンバーが式を持つことはできません	ラベルのみのメンバーに式が関連付けられています。ラベルのみのメンバーに関連付けられるデータはないので、式を持つ意味がありません。	式を削除します。  ラベルのみのメンバーを、動的階層の非ラベルのみのメンバーに変換します(保管階層には、式を含めることはできません)。
1060147	集約ストレージ・アウトラインには、会計次元および動的階層に、非保管済メンバーまたは内部/外部の式を持つ非レベル 0 メンバーが必要です	会計次元または動的階層の非レベル 0 メンバーに次の特性があります: <ul style="list-style-type: none"><li>● 「ラベルのみ」タグがない。</li><li>● ロールアップする子がない。</li><li>● メンバー式がない。</li></ul>	会計次元および動的階層のすべての非レベル 0 メンバーが「ラベルのみ」とタグ付けされているか、ロールアップする子があるか、メンバー式があることを確認します。
1060149	ラベルのみのメンバーはすべての最上位レベルにスパンしている必要があります。	保管階層では、次のどちらかです: <ul style="list-style-type: none"><li>● ラベルのみのメンバーの親は、「ラベルのみ」としてタグ付けされません。</li><li>● ラベルのみのメンバーと同じレベルのメンバーは、「ラベルのみ」としてタグ付けされません。</li></ul>	ラベルのみのメンバーの親もまた、ラベルのみであることを確認します。  ラベルのみのメンバーと同じレベルのメンバーもまた、ラベルのみであることを確認します。
1060172	集約ストレージ・アウトラインでは、1 つの保管階層に共有メンバーは 1 回のみ許可されています(プロトタイプを含む)。	複数階層が有効である次元にある保管階層には、次のどちらかが含まれます: <ul style="list-style-type: none"><li>● メンバーの非共有インスタンスおよびそのメンバーの共有インスタンス</li><li>● 同じ保管済メンバーの 2 つの共有インスタンス</li></ul>	複数階層での次元にある保管階層に、同じメンバーの共有インスタンス 2 つ、または同じメンバーの非共有インスタンス 1 つと共有インスタンス 1 つが含まれないようにします。

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1060175	複数の階層がある次元の最上位のメンバーは、ラベルとしてタグ付けする必要があります。	「ラベルのみ」タグが、複数の階層がある次元の最上位メンバーから削除されています。最上位のメンバーを複合階層使用可能としてタグ付けすると、そのメンバーは自動的に「ラベルのみ」としてタグ付けされますが、そのタグは削除できません。「ラベルのみ」タグが削除されている場合、アウトラインによる確認が失敗します。	最上位レベル・メンバーを「ラベルのみ」としてタグ付けします。
1060180	プライマリ階層には、保管のタグを付ける必要があります。	複合階層が使用可能で、次元の最初の階層を表すメンバー(階層の最上位メンバー)が保管階層としてタグ付けされていません。Essbase では、この階層を保管階層にする必要があります。	次元の最初の階層である最上位メンバーを保管階層としてタグ付けします。
1150085	OUTLINE SYNC VERIFY: メンバー%s に不正なラベル・タグがあります。ラベルのみのメンバーは、すべての上位レベルにスパンする必要があります。	保管階層では、次のどちらかです: <ul style="list-style-type: none"> <li>ラベルのみのメンバーの親は、「ラベルのみ」としてタグ付けされません。</li> <li>ラベルのみのメンバーと同じレベルのメンバーは、「ラベルのみ」としてタグ付けされません。</li> </ul>	ラベルのみのメンバーの親もまた、ラベルのみであることを確認します。 ラベルのみのメンバーと同じレベルのメンバーもまた、ラベルのみであることを確認します。
1150086	OUTLINE SYNC VERIFY: メンバー%s に誤った集約演算子があります。集約ストレージ・アウトラインでは、ラベルのみのメンバーおよびその子を除き、保管階層のすべてのメンバーに加算(+)集約を指定する必要があります	リリース 7.1 のアウトラインで会計次元以外のメンバーに加算(+)集約演算子がなく、次のタグが付けられていません: <ul style="list-style-type: none"> <li>ラベルのみのメンバー</li> <li>ラベルのみのメンバーの子</li> </ul>	加算(+)集約演算子をメンバーに適用します。 注: リリース 7.1 で作成された集約ストレージ・アウトラインの編集時には、Essbase の以降のリリースを使用している場合でも、リリース 7.1 集約ストレージ・アウトラインでの制限が適用されます。
1150090	OUTLINE SYNC VERIFY: 集約ストレージ・アウトラインでは、会計次元の非レベル 0 のメンバー %s が、非保管済メンバーであるか、内部式または外部式を持っている必要があります	会計次元または動的階層の非レベル 0 メンバーは、「ラベルのみ」としてタグ付けされておらず、メンバー式がなく、集約値ではありません。	会計次元と動的階層のすべての非レベル 0 メンバーが「ラベルのみ」とタグ付けされているか、ロールアップする子が 1 つ以上あるか、メンバー式があることを確認します。
1150091 <a href="#">1060145</a> 、 <a href="#">1150091</a> を参照			
1241164 <a href="#">1013294</a> 、 <a href="#">1241164</a> を参照			

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1270001	メモリー割当てに失敗しました	メモリー不足のため、Essbase で要求された操作を完了できません。	Essbase サーバーのメモリー要件を確認してください。  メモリーをより多く操作するように、オペレーティング・システムを構成します。  必要な場合は、物理メモリーを増やしてください。
1270004	操作を完了できません。集約ストレージのキャッシュ・サイズが不足しています	集約ストレージのキャッシュ・サイズが不足しているため、Essbase で要求された操作を実行できません。	これらのガイドラインを使用して、正しい集約ストレージのキャッシュ・サイズを見積もります。
1270005	致命的なエラー: 集約ストレージ・ファイルの場所[%s]で無効なページが検出されました	データベースが破損している可能性があります。	Oracle Essbase Administration Services または MaxL を使用してアプリケーションを削除し、バックアップ・ファイルからそのアプリケーションを再構築します。アプリケーションをファイル・システムから削除しないでください。  アプリケーションを削除できない場合は、テーブルスペースのディレクトリおよびファイルの場所をすべて削除してから、データを再ロードします。  テーブルスペースのディレクトリ:  ARBORPATH /app/default  ARBORPATH /app/log  ARBORPATH /app/metadata  ARBORPATH /app/temp  Oracle サポートに連絡してください。

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1270006	テーブルスペース[%s]を拡張できませんでした。詳しくは、アプリケーション・ログを参照してください	<p>Essbase でファイルを拡張できず、テーブルスペースのファイルの場所にファイルを作成できません。この問題の考えられる原因は次のとおりです:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ディスク・スペースの不足</li> <li>● ユーザー指定の制限に到達</li> </ul> <p>Essbase では、テーブルスペースを使用して、データ・ファイルと作業ファイルのデータ・ストレージの最適化と取得の最適化を行います。テーブルスペースでは、集約ビューや集約などのデータ・オブジェクトをファイルにマッピングする1つ以上の場所定義を定義します。テーブルスペースでは、各場所で使用可能な最大ファイル・サイズを指定できます。</p> <p>必要に応じて、Essbase では、固定サイズずつディスク・スペースを割り当てます。Essbase でテーブルスペースを拡張できなかった場合、テーブルスペースを拡張できなかった理由を示すメッセージがアプリケーション・ログに出力されます。失敗するたびに、Essbase はテーブルスペースの拡張を再試行します。このエラー・メッセージは、失敗を繰り返した後に表示されます。</p>	<p>このエラーに到達する警告メッセージについてのアプリケーション・ログを検索します。</p> <p>追加のファイルの場所を指定して、アプリケーションの環境を整えます。</p> <p>Oracle サポートに連絡してください。</p>
1270009	テーブルスペースの削除に失敗しました。この特殊なテーブルスペースでは操作を実行できません	<p>削除できないテーブルスペースの削除が指定されています。</p> <p>Essbase によって、変更できない2つのテーブルスペース(ログとメタデータ)が設定されます。このシステム定義のテーブルスペースは削除できません。また、デフォルト・テーブルスペースまたは一時テーブルスペースにデータが含まれている場合は、そのテーブルスペース内のファイルの場所も削除できません。</p>	<p>これがメタデータまたはログのテーブルスペースであるかどうかを調べます。Essbase では、メタデータとログのテーブルスペースを削除できません。</p> <p>テーブルスペースにデータが含まれているかどうかを調べます。Essbase では、データを含んでいるテーブルスペースを削除できません。</p>
1270011	ファイルの場所[%s]の作成に失敗しました。このファイルの場所は、このテーブルスペースですすでに指定されています	<p>リストされたファイルの場所は使用されているので、Essbase でそのファイルの場所を作成できません。</p>	<p>別のファイルの場所を指定します。</p>
1270018	ファイルの場所の作成に失敗しました。パスが長すぎます	<p>テーブルスペースのファイルの場所に指定したパスが長すぎます。</p>	<p>ファイルの場所には、460 バイト以下のパスを指定します。</p>

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1270022	ファイルの拡張に失敗しました。ユーザー制限に達しました	<p>テーブルスペース内のその場所に指定された最大ファイル・サイズに到達したため、Essbase では、リストされたファイルのサイズをさらに増やすことができません。</p> <p>Essbase では、テーブルスペースを使用して、データ・ファイルと作業ファイルのデータ・ストレージの最適化と取得の最適化を行います。テーブルスペースでは、集約ビューや集約などのデータ・オブジェクトをファイルにマッピングする1つ以上の場所定義を定義します。テーブルスペースでは、各場所で使用可能な最大ファイル・サイズを指定できます。</p>	そのテーブルスペースの場所に対する最大ファイル・サイズを増やします。
1270024	[%s](行[%s])で重大なエラーが発生しました。サーバーを終了します	集約ストレージ・アプリケーションが、異常シャットダウンされようとしています。	<p>アプリケーション・ログにあるこれより前のメッセージは、異常シャットダウンの原因を示している場合があります。</p> <p>Oracle サポートに連絡してください。</p>
1270030	処理を続行できません。キューブに集約がありません	データベースに集約ビューがないため、Essbase で集約ビューを消去できません。	次のタスクに進みます。データベースに存在しない集約ビューなので、そのビューを消去する必要はありません。
1270032	指定したビュー・リストが無効であるか、別のアウトラインを使用してビューが選択されています	Essbase でビュー・リストを使用できません。ビューが最後に選択された後に、アウトラインで大幅な変更が行われた可能性があります。ビュー・リストを無効にするアウトラインの変更には、次元数の変更、次元のレベル数の変更などがあります。	<p>アウトラインの変更後に、使用されないビューを削除してください(これは自動的に実行されません)。</p> <p>アウトラインに大きな変更を行った後で、集約ビューの選択を繰り返します。</p>
1270035	テーブルスペースを変更できません。このテーブルスペースは特殊なテーブルスペースです	リストされたログまたはメタデータのテーブルスペースの場所の追加、削除、変更またはそのサイズの変更を行おうとしました。ログまたはメタデータのテーブルスペースの変更は許可されていません。	テーブルスペースの使用のルールを確認します。
1270036	ファイルの場所を追加できません。ファイルの場所のディレクトリ [%s] はすでに存在しています。このディレクトリを他のアプリケーションで使用していない場合は、ディレクトリを削除してから再試行してください。	指定されたファイルの場所にディレクトリがすでに存在します。	<p>別のファイルの場所を選択します。</p> <p>ディレクトリが別のアプリケーションで使用されていないことが確認できている場合は、このディレクトリを削除して、ファイルの場所をもう一度作成します。</p>



メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1270039	ファイルの場所の削除に失敗しました。ファイルの場所にはすでに割当て済のブロックがあります	データベースにデータが含まれている場合は、Essbase でテーブルスペースのファイルの場所を削除できません。	データベースからデータを消去して、ファイルの場所を削除します。
1270040	データ・ロード・バッファ[%s]は存在しません	データ・ロード・バッファは作成されていません。MaxL を使用してデータを集約ストレージ・データベースにロードするときには、バッファ ID を指定する必要があります。  データ・ロード・バッファが破棄されています。データのロード中にディスク・スペースが不足した場合など、データ・ロード・バッファが自動的に破棄されることがあります。バッファは、MaxL の alter database を使用して削除することもできます。	MaxL を使用してデータをロードする場合は、バッファ ID を指定していることを確認します。  データ・ロード・バッファが破棄される原因となる問題が発生した場合は、問題を解決してからデータのロードを再試行します。
1270041	ソート操作中にメモリーが不足しました。集約ストレージのキャッシュ・サイズを増やしてください。	集約ストレージのキャッシュ・サイズが小さすぎます。	集約ストレージのキャッシュ・サイズを増やします。
1270044	キューブに[%s]個を超える集約を指定することができません	上限に到達しているので、Essbase で追加の集約ビューを作成できません。	少ない方の集約ビューを選択します。
1270047	データ・ロード・バッファ[%s]は現在使用中です	データ・ロード・バッファがアクティブなため、Essbase で MaxL コマンド(alter database destroy load_buffer)を実行できません。データ・ロード・バッファは、そのバッファにデータがロードされる時、およびそのバッファからデータをロードするときにアクティブになります。	データのロードが終了するまで待ってから、コマンドをもう一度発行します。
1270049	データ・セットが小さすぎるためこの操作を実行できません	集約ビューに含まれているセルが 1,000 未満です。	集約ビュー内のセルの数を増やしてください。
1270052	ビューを集約できませんでした。詳細は、アプリケーション・ログを参照してください	Essbase で集約ビューを集約できませんでした。	アプリケーション・ログ内の追加エラーまたは警告メッセージによって、問題の原因が示されています。

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1270054	ファイルからバイトを読み取れませんでした: ファイルの終わりが検出されました	データベースが破損している可能性があります。	Administration Services または MaxL を使用してアプリケーションを削除し、バックアップ・ファイルからそのアプリケーションを再構築します。アプリケーションをファイル・システムから削除しないでください。  アプリケーションを削除できない場合は、テーブルスペースのディレクトリおよびファイルの場所をすべて削除してから、データを再ロードします。  テーブルスペースのディレクトリ:  ARBORPATH /app/default  ARBORPATH /app/log  ARBORPATH /app/metadata  ARBORPATH /app/temp  Oracle サポートに連絡してください。
1270057	要求されたファイル・サイズの制限は最大値を超えています。ファイル・サイズの制限は最大値に設定されます	指定されたテーブルスペースのファイル・サイズが最大値を超えているので、Essbase ではそのサイズを受け入れることができません。Essbase ではファイル・サイズの制限は最大値に設定されます。	最大値以下のファイル・サイズの制限を指定します。
1270058	テーブルスペースにファイルの場所が存在しません。	すべてのテーブルスペースのファイルの場所が削除されているので、Essbase からテーブルスペースに書き込めません。	テーブルスペースにファイルの場所を追加します。テーブルスペースからすべてのファイルの場所を削除できますが、データをテーブルスペースに書き込むには 1 つ以上のファイルの場所が必要です。
1270059	指定の最大ディスク・サイズは 8 MB 境界に一致していません。最も近い 8 MB に切り上げられます	テーブルスペースのファイルの場所の最大ディスク・サイズが 8 の倍数でない数に設定されています。Essbase では、8 MB セグメントずつディスク・スペースを割り当てるので、8、16、24、32 などの 8 の倍数が設定として受け入れられます。	操作は必要ありません。Essbase によって自動的に最も近い 8 MB に切り上げられます。

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1270060	指定の最大ファイル・サイズは 8 MB 境界に一致していません。最も近い 8 MB に切り上げられます	テーブルスペースのファイルの場所の最大ファイル・サイズが 8 の倍数でない数に設定されています。Essbase では、8 MB セグメントずつファイルを増やすので、8、16、24、32 などの 8 の倍数が設定として受け入れられます。	操作は必要ありません。Essbase によって自動的に最も近い 8 MB に切り上げられます。
1270063	すべての集約ストレージ・ファイルの再作成を試行します	データ・ファイル(.dat ファイル)が見つかりませんが、Essbase で集約ストレージ・アプリケーションを開始しようとしています。データを含んでいないダミー・データ・ファイルを作成して、アプリケーションを開始できるようにしようとしています。データ・ファイルが破損しているか、誤って削除されたことが原因です。	バックアップ・コピーから元のデータ・ファイルを復元します。 Oracle サポートに連絡してください。
1270069	事前選択ビュー・リストは入力ビューで開始する必要があります。その後に、クエリー・ベースのビュー選択用のすべての既存の集約ビューが続きます	指定されたビュー・リストが次のいずれかの要件を満たしていないので、Essbase で execute aggregate selection MaxL コマンドを実行できません: <ul style="list-style-type: none"> <li>● クエリー・データに基づいてビューを選択しています。使用している集約スクリプト(.csc)ファイルに現在の集約にあるビューの一部が含まれていません。</li> <li>● MaxL では、クエリー・データに基づいてビューを選択しており、using 句にあるビューの一部をリストしていません。</li> </ul>	集約を置換します。 using views 句で、集約にあるすべてのビューをリストしていることを確認します。

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1270070	ページ・ヘッダーのシリアル番号[%s]がフッターの[%s]と一致しません	データベースが破損している可能性があります。	<p>Administration Services または MaxL を使用してアプリケーションを削除し、バックアップ・ファイルからそのアプリケーションを再構築します。アプリケーションをファイル・システムから削除しないでください。</p> <p>アプリケーションを削除できない場合は、テーブルスペースのディレクトリおよびファイルの場所をすべて削除してから、データを再ロードします。</p> <p>テーブルスペースのディレクトリ:</p> <pre>ARBORPATH /app/default</pre> <pre>ARBORPATH /app/log</pre> <pre>ARBORPATH /app/metadata</pre> <pre>ARBORPATH /app/temp</pre> <p>Oracle サポートに連絡してください。</p>

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1270071	ページ・ヘッダーのページ ID [%s]がページの場所と一致しません	データベースが破損している可能性があります。	Administration Services または MaxL を使用してアプリケーションを削除し、バックアップ・ファイルからそのアプリケーションを再構築します。アプリケーションをファイル・システムから削除しないでください。  アプリケーションを削除できない場合は、テーブルスペースのディレクトリおよびファイルの場所をすべて削除してから、データを再ロードします。  テーブルスペースのディレクトリ:  ARBORPATH /app/default  ARBORPATH /app/log  ARBORPATH /app/metadata  ARBORPATH /app/temp  Oracle サポートに連絡してください。
1270082	エラー番号[%s]のシステム・エラーが発生しました: [%s]。  注: 2 番目の[%s]は、オペレーティング・システムでレポートされたエラーの説明で置換されます。	オペレーティング・システムで問題が発生しました。これはオペレーティング・システムのエラーです。	オペレーティング・システムのドキュメンテーションを参照してください。
1270506	アウトラインについて多すぎる警告が生成されました。以降の警告は無視されます	Essbase で表示できるよりも多数の警告がアウトラインによって生成されました。Essbase ではこれ以降の警告は表示されません。	このメッセージを無視してアウトラインを使用し続けます。 Essbase によって、警告を生成するアウトラインの使用が制限されることはありません。  アウトラインを編集して、警告を生成する条件を削除します。
1270517	階層[%s]が複雑すぎます。最大幅のメンバー番号が 64 ビットを超えています。詳しくは、アプリケーション・ログを参照してください	指定された階層のレベル数が多すぎます。	階層にあるレベルの数を減らします。

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1270526	代替階層[共有]は未保管レベルにあるプライマリ階層に付属していません	共有メンバーのプロトタイプをラベルのみのメンバーにすることはできません。	
1270527	属性次元[%s]には、代替階層との無効な関連付けがあります。代替階層では、属性はレベル・ゼロでのみメンバーと関連付けることができます。	プライマリでないかぎり、属性次元は上位の保管階層にタグ付けできません。	

---

# 3

## 1003000 - 1003048: データ・ロード・メッセージ

---

表 3 にデータ・ロードのエラー・メッセージと情報メッセージを示します。

表 3 データ・ロード・メッセージ 1003000 - 1003048

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
<p>1003000</p> <p><b>関連トピック</b></p> <p>1003034</p>	<p>データ・ロード時に不明な項目 itemName が見つかりました。number レコードが完了しました</p>	<p>Essbase によって認識されなかったデータ・ソースにフィールドが検出されました。</p>	<p>データのロード・ログを調べて、問題の特定に役立つ他のメッセージがないか確認します。</p> <p>データ・ソースが有効であることを確認します。レコードがロードされていない場合、最初のレコードが無効であるか、データ・ソース全体が無効です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● データ・ソースが破損していませんか？</li> <li>● データ・ソースが正しい場所にありますか？</li> <li>● データ・ソースのフォーマットは正しいですか？</li> </ul> <p>データ・ロードの失敗の原因となったレコードが有効であることを確認します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 各次元のメンバーがデータ・ソースまたはルール・ファイルで指定されていますか？</li> <li>● レコード内の各メンバー名は有効ですか？</li> <li>● レコードに複数の数値データ・フィールドがありますか？</li> <li>● データのロードの失敗の原因となったレコードを削除して、データのロードを再度実行しようとしたかを確認します。</li> </ul> <p>ルール・ファイルを使用している場合は、ルール・ファイルが有効であることを確認します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ルール・ファイルが正しい場所にありますか？</li> <li>● ルール・ファイルが正しく設定されていますか？</li> <li>● ルール・ファイルを検証できますか？</li> </ul> <p>ESSCMD を使用している場合は、構文が有効であることを確認します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ESSCMD スクリプトのエラー・ログを確認して、不明なアイテムが存在する場所を判別します。</li> <li>● パラメータが正しく、引用符で囲まれていますか?例:</li> </ul> <pre style="text-align: center;">IMPORT 2 "ACTUALS" 4 "Y" 2 "ACTUALS" "Y";</pre> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ロードしているファイルが正しい場所に存在しますか？</li> <li>● Administration Services を使用してデータのロードを実行できますか？</li> </ul>



メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1003001 <b>関連トピック</b> <a href="#">1003015</a>	データ・レコードの同一次元に重複メンバーがあります。numberレコードが完了しました	Essbase で、1つのレコードに1つの次元の複数のメンバーが存在することが検出されました。Essbase では、このレコードをロードせず、スキップして次のレコードに進みます。	データ・ソースが有効であることを確認します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 各レコードに各次元のメンバー名は1つしかないですか?たとえば、時間次元は1つのレコードに1月のみを含むことができます。1つのレコードの重複メンバーが列に含まれている場合、その列を無視します。</li> <li>● 各メンバー名が正しい次元にマッピングされていますか?たとえば、Sample Basic データベースでは、1月は時間次元にマッピングされている必要があります。</li> <li>● メンバー名または別名が他の次元で重複していますか?メンバー名と別名は一意でなければなりません。たとえば、1月は時間次元と市場次元の両方に存在することはできません。他の次元のメンバーまたは別名と名前が同じ場合、メンバーまたは別名が一意になるように、一方の次元のメンバーまたは別名に接頭辞または接尾辞を追加します。</li> <li>● 範囲が正しく設定されていますか?</li> <li>● データソースでは、数値(100 など)を含むすべてのメンバーが引用符で囲まれていますか?</li> <li>● データ・ソースでは、同一の次元からの2つのメンバーは1行で記述されていますか?</li> </ul> ルール・ファイルを使用する場合は、それが有効であることを確認します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 余分なメンバー名がルール・ファイルで無視されていませんか?</li> <li>● 各メンバーが正しい次元に接続されるように、列を移動する必要がありますか?</li> </ul> ESSCMD を使用している場合は、構文が有効であることを確認します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>● ESSCMD スクリプトのエラー・ログを確認して、重複するメンバーが存在する場所を判別します。</li> <li>● パラメータが正しく、引用符で囲まれていますか?例:   <pre style="margin-left: 40px;">IMPORT 2 "ACTUALS" 4 "Y" 2 "ACTUALS" "Y";</pre> </li> <li>● ロードしているファイルが正しい場所に存在しますか?</li> <li>● Administration Services を使用してデータのロードを実行できますか?</li> </ul>

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
			<p>Integration Services を使用している場合は、次の手順を試します:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 共有されている重複メンバーが正しくタグ付けされていることを確認します。</li> <li>● メンバー名が一意であることを確認します。</li> <li>● すべてのメンバーを正しい次元にマッピングします。</li> <li>● 正しい DataDirect ドライバを使用していることを確認します。</li> <li>● -B パラメータにデフォルト以外の値を使用して、Integration Server を起動します。</li> <li>● Integration Services コンソールで、「最初にすべてのメンバーを削除」を選択します。Integration Services シェルでは、OTL_CLEAR=[Y] を使用します。</li> </ul>
1003003	項目 itemName の後、データ・ロードを続行できません。number レコードが完了しました	Essbase によってデータ・ロードが中止されました。このエラー・メッセージは、通常、データ・ロードの失敗理由を示す他のエラー・メッセージの後に表示されます。	<p>データのロード・エラー・ログを調べて、データのロードが失敗した原因を判別します。</p> <p>データ・ロードのエラー・ログがない場合は、エラー・ログを作成してデータのロードを再開するようにロードを設定します。</p> <p>このエラー・メッセージの前に表示されるエラー・メッセージを確認して、状況を判断してください。</p> <p>データ・ソースで、すべてのデータ・フィールドがメンバー名フィールドの後にあることを確認します。ルール・ファイルで、メンバー名ではなく次元名を使用してフィールドを定義していることを確認します。</p>
1003004 関連トピック 1003005	recordNumber レコードが完了しました。対称ファイルの列メンバー数に誤りがあります	Essbase で、データ・ソースの読取り中に予期した数より多いまたは少ない列が検出されました。	<p>データ・ソースが有効であることを確認します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● データ・ソースでは、有効なファイル区切り記号(スペースまたはカンマ)を含むすべてのメンバーが引用符で囲まれていますか?</li> <li>● データ・ソースですべての範囲が正しく設定されていますか?</li> </ul>
1003005 関連トピック 1003004	recordNumber レコードが完了しました。非対称ファイルの列メンバー数に誤りがあります	Essbase で、データ・ソースの読取り中に予期した数より多いまたは少ない列が検出されました。	<p>データ・ソースが有効であることを確認します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● データ・ソースでは、有効なファイル区切り記号(スペースまたはカンマ)を含むすべてのメンバーが引用符で囲まれていますか?</li> <li>● データ・ソースですべての範囲が正しく設定されていますか?</li> </ul>
1003006	recordNumber レコードが完了しました。不明なテキスト・ファイル・タイプです	Essbase でテキスト・ファイルを認識できませんでした。	<p>テキスト・ファイルが有効であることを確認します。</p> <p>複数のレコードがロードされている場合、データ・ソースの範囲が正しくフォーマットされていることを確認します。</p>

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1003007	すべての次元を選択する前にデータ値 numericValue が見つかりました	Essbase で、すべての次元が指定される前に、データ・ソースに数値のデータ値が検出されました。	<p>データ・ソースが有効であることを確認します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 各次元のメンバーがデータ・ソースまたはルール・ファイルで正しく指定されていますか?</li> <li>● レコードの最後が数値データ・フィールドですか?数値データ・フィールドでない場合、データ・ソースまたはルール・ファイルの数値データ・フィールドを移動します。</li> <li>● データソースでは、数値(100 など)を含むすべてのメンバーが引用符で囲まれていますか?</li> <li>● ヘッダーを使用している場合、ヘッダーが正しく設定されていますか?欠落している次元名をヘッダーに追加できます。</li> <li>● データ・ソースに余分のスペースやタブが含まれていませんか?</li> <li>● 更新されたアウトラインは保存されていますか?</li> </ul>
1003008	データ値 numericValue では行に入る値の数が多すぎます。number レコードが完了しました	Essbase で、レコードに、データベースにマッピングできる数よりも多くの数値データ・フィールドが検出されました。	<p>データ・ソースが有効であることを確認します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● データソースでは、数値(100 など)を含むすべてのメンバーが引用符で囲まれていますか?</li> <li>● レコードに余分の数値データ・フィールドがありませんか?ある場合、余分のデータ・フィールドを無視できます。</li> <li>● レコードの最後のフィールドが数値データ・フィールドですか?数値データ・フィールドでない場合、データ・ソースまたはルール・ファイルの数値データ・フィールドを移動します。</li> <li>● データ・ソースの各フィールドは有効ですか?</li> <li>● 各次元がデータ・ソースまたはルール・ファイルで指定されていますか?</li> </ul> <p>ルール・ファイルが有効であることを確認します。</p>
1003010 <b>関連トピック</b> 1003011 1003012 1003013	データ値 numericValue はデータベースの #Missing 値と一致しません。number レコードが完了しました	Essbase で、データ・ソースとデータベースの双方に同じ値が含まれているかを検証しようとしたときに問題が発生しました。	<p>データ・ソースにデータベースと同じ値が含まれていることを確認します。</p> <p>正しいデータ・ソースに対してデータベースを検証していることを確認します。</p> <p>データが不正にロードされたと考えられる場合は、データ・ソースが正しく設定されていることを確認します。</p>

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1003011 関連トピック 1003010 1003012 1003013	データ値 numericValue はデータベースの #Invalid 値と一致しません。number レコードが完了しました	Essbase で、データ・ソースとデータベースの双方に同じ値が含まれているかを検証しようとしたときに問題が発生しました。	データ・ソースにデータベースと同じ値が含まれていることを確認します。 正しいデータ・ソースに対してデータベースを検証していることを確認します。 データが不正にロードされたと考えられる場合は、データ・ソースが正しく設定されていることを確認します。
1003012 関連トピック 1003010 1003011 1003013	データ値 numericValue はデータベースの値を上回っています。number レコードが完了しました	Essbase で、データ・ソースとデータベースの双方に同じ値が含まれているかを検証しようとしたときに問題が発生しました。	データ・ソースにデータベースと同じ値が含まれていることを確認します。 正しいデータ・ソースに対してデータベースを検証していることを確認します。 データが不正にロードされたと考えられる場合は、データ・ソースが正しく設定されていることを確認します。
1003013 関連トピック 1003010 1003011 1003012	データ値 numericValue はデータベースの値を下回っています。number レコードが完了しました	Essbase で、データ・ソースとデータベースの双方に同じ値が含まれているかを検証しようとしたときに問題が発生しました。	データ・ソースにデータベースと同じ値が含まれていることを確認します。 正しいデータ・ソースに対してデータベースを検証していることを確認します。 データが不正にロードされたと考えられる場合は、データ・ソースが正しく設定されていることを確認します。

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1003014	データ・ロード時に不明なメンバー memberName が見つかりました。number レコードが完了しました	Essbase でメンバー名を認識できませんでした。	<p>データ・ソースが有効であることを確認します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>正しいデータ・ソースを使用していますか?</li> <li>データ・ソースに正しくないメンバーがいませんか? いる場合、そのメンバーを削除します。</li> <li>正しいルール・ファイルとともに正しいデータ・ソースをロードしようとしたか?</li> <li>データ・ソースのファイル拡張子は正しいですか? テキスト・ファイルのファイル拡張子は .txt にする必要があります。ルール・ファイルのファイル拡張子は .rul にする必要があります。</li> </ul> <p>ルール・ファイルが有効であることを確認します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>正しいルール・ファイルを使用していますか?</li> <li>ルール・ファイルは正しいアウトラインと接続していますか?</li> <li>ルール・ファイルを検証できますか?</li> </ul> <p>メンバー名が有効であることを確認します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>メンバー名または変数名は、必要に応じて引用符で囲まれていますか?</li> <li>該当するメンバーがアウトラインに存在していますか? 存在していない場合、データのロード中にアウトラインを変更してメンバーを追加するか、アウトライン・エディタでメンバーを追加できます。</li> <li>メンバーがヘッダー・ファイルとテキスト・ファイルの両方で指定されていないことを確認します。</li> </ul> <p>ESSCMD を使用している場合は、ESSCMD 構文が有効であることを確認します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ESSCMD スクリプトのエラー・ログを確認して、不明のメンバー名が存在する場所を判別します。</li> <li>パラメータが引用符で囲まれていますか? 例: <pre>IMPORT 2 "ACTUALS" 4 "Y" 2 "ACTUALS" "Y";</pre></li> <li>パラメータは正しいですか?</li> <li>ロードしているファイルが正しい場所に存在しますか?</li> <li>Administration Services を使用してデータのロードを実行できますか?</li> </ul>

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
			<p>Oracle Essbase Integration Services を使用している場合は、次の条件が満たされていることを確認します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 他の次元に同じ名前のメンバーがいる場合は、メンバー名を一意にするためにメンバー名に接頭辞または接尾辞を追加します。</li> <li>● データのロードを開始する前に、アウトライン構築が正しく行われたことを確認します。</li> </ul>
<p>1003015  <b>関連トピック</b>  <a href="#">1003001</a></p>	<p>メンバー memberName の次元はヘッダー名に定義されたメンバーと同じです。number レコードが完了しました</p>	<p>同じ次元の2つの異なるメンバーが指定されているので、Essbase によってロードが中止されました。同じ次元の一方のメンバーはヘッダー・レコードで指定され、もう一方のメンバーはデータ・ソースのレコードで指定されました。</p>	<p>データ・ソースが有効であることを確認します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 正しいレコードをヘッダー・レコードとして設定しましたか?</li> <li>● ヘッダーで指定するメンバーがデータ・ソースにも存在しますか?存在する場合、ヘッダー・レコードまたはデータ・ソースを変更する必要があります。</li> </ul> <p>ルール・ファイルを使用している場合は、ルール・ファイルが有効であることを確認します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 正しいレコードをヘッダー・レコードとして設定しましたか?</li> <li>● 無視する必要がある余分のメンバー名がルール・ファイルに存在しますか?</li> <li>● ルール・ファイルを検証できますか?</li> <li>● 意図せずにヘッダー・レコードを拒否しましたか?</li> </ul>

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1003022 関連トピック 1003027 1003030	データ・ファイルを開けません	Essbase でデータ・ファイルを開けません。	<p>Essbase でデータ・ファイルが見つかることを確認します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>データ・ファイル名とパス名は正しいですか?スペルに間違いがないか確認します。</li> <li>Essbase サーバーが UNIX を実行しているコンピュータ上にある場合、大文字と小文字は正しいですか?</li> <li>データ・ファイルが指定された場所にありますか?他のユーザーによって移動または削除されていないことを確認します。</li> </ul> <p>Essbase でデータ・ファイルを使用できることを確認します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>データ・ファイルが他のユーザーによってロックされていないかを確認します(158 ページの「オブジェクトのロック解除」を参照してください)。</li> <li>データ・ファイルのファイル拡張子は正しいですか?テキスト・ファイルのファイル拡張子は .txt にする必要があります。ルール・ファイルのファイル拡張子は .rul にする必要があります。</li> <li>データ・ファイルは有効ですか?</li> <li>データ・ファイルをロードしている Essbase データベースに対する正しい権限がありますか?</li> <li>ロード対象のデータ・ファイルに対する正しいオペレーティング・システム権限がありますか?</li> </ul> <p>ESSCMD を使用している場合は、IMPORT コマンドを正しく使用していることを確認します。IMPORT コマンドを発行するときには、次の 4 つのオプションを使用してデータ・ファイルの場所を選択できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><b>1(ローカル/クライアント・オブジェクト):</b> データ・ファイルがクライアントのフォルダにあることを確認します。 データ・ファイルに対する読取りアクセス権があることを確認します。 Essbase サーバーが UNIX プラットフォーム上にある場合、ファイル名は大文字と小文字が区別されるため、大文字と小文字を確認します。</li> <li><b>2(リモート・サーバー・オブジェクト):</b> データ・ファイルに対する読取りアクセス権があることを確認します。 Essbase サーバーが UNIX プラットフォーム上にある場合、ファイル名は大文字と小文字が区別されるため、大文字と小文字を確認します。</li> </ul>

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
			<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>3 (ファイル)</b>: 完全なパス名と完全なファイル名(ファイルのタイプを示す拡張子も含める)を指定したことを確認します。</li> <li>● <b>4 (SQL)</b>: ODBC 接続を確認します。</li> </ul> <p>Essbase サーバーが適切に構成されていることを確認します。</p>
1003023	このデータベースでのロックの実行に必要なアクセス権がありません	データをロードするためにデータベースをロックするのみの権限がありませんでした。	Essbase システム管理者に連絡してください。 ユーザーがシステム管理者である場合は、自身に正しい権限を付与します。
1003024	データ・ロード経過時間: number 秒	Essbase でデータ・ソースのロードにかかった時間の長さ。	該当なし
1003025	DATAERRORLIMIT が numberOfRecords に到達しました。拒否されたレコードはログに記録されません	<p>エラー・ログがいっぱいでした。</p> <p>エラー・メッセージが多すぎてデータのロードまたは次元構築エラー・ログに収まりきれないか、またはログに収まりきれないほど多数のレコードを拒否しています。</p>	<p>データのロードまたは次元構築エラー・ログでエラーを修正してデータのロードを再開します。</p> <p>次の手順に従って、データのロードまたは次元構築エラー・ログで許可されるレコードの最大数を変更してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ESSBASEPATH/bin/ essbase.cfg がサーバー・コンピュータに存在しない場合、テキスト・エディタを使用してそのファイルを作成します。</li> <li>2. ESSBASEPATH/bin/essbase.cfg ファイルの DATAERRORLIMIT 設定を追加するか、または設定値を大きくします。</li> <li>3. Essbase サーバーを停止して再起動します。</li> <li>4. データのロードを再開します。</li> </ol>



メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1003027 関連トピック 1003022 1003030	ファイルを開けません	Essbase でファイルを開けません。	<p>Essbase でファイルが見つかることを確認します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ファイル名とパス名は正しいですか?スペルに間違いがないか確認します。</li> <li>● Essbase サーバーが UNIX プラットフォーム上にある場合、大文字と小文字は正しいですか?</li> <li>● ファイルが指定された場所にありますか?他のユーザーによって移動または削除されていないことを確認します。</li> </ul> <p>Essbase でファイルを使用できることを確認します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● データ・ファイルが他のユーザーによってロックされていませんか(158 ページの「オブジェクトのロック解除」を参照してください)?</li> <li>● ファイルのファイル拡張子は正しいですか? テキスト・ファイルのファイル拡張子は、.txt にする必要があります。ルール・ファイルのファイル拡張子は、.rul にする必要があります。</li> <li>● ファイルは有効ですか?</li> <li>● ファイルをロードしている Essbase データベースに対する正しい権限がありますか?</li> <li>● ロード対象のファイルに対する正しいオペレーティング・システム権限がありますか?</li> </ul> <p>ESSCMD を使用している場合は、IMPORT コマンドを正しく使用していることを確認します。IMPORT コマンドを発行するときには、次の 4 つのオプションを使用してデータ・ファイルの場所を選択できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>1(ローカル/クライアント・オブジェクト):</b> データ・ファイルがクライアント・フォルダ内にあることを確認します。 データ・ファイルに対する読取りアクセス権があることを確認します。 Essbase サーバーが UNIX プラットフォーム上にある場合、ファイル名は大文字と小文字が区別されるため、大文字と小文字を確認します。</li> <li>● <b>2(リモート・サーバー・オブジェクト):</b> データ・ファイルに対する読取りアクセス権があることを確認します。 Essbase サーバーが UNIX プラットフォーム上にある場合、ファイル名は大文字と小文字が区別されるため、大文字と小文字を確認します。</li> </ul>

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
			<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>3 (ファイル):</b> 完全なパス名と完全なファイル名(ファイルのタイプを示す拡張子も含める)を指定したことを確認します。</li> <li>● <b>4 (SQL):</b> ODBC 接続を確認します。</li> </ul> <p>Essbase サーバーが適切に構成されていることを確認します。</p>
1003028	ファイル fileName はパスワードで保護されているため読み取れません	Essbase には、ロード対象のファイルを開くために必要なオペレーティング・システム権限がありません。	ファイルに対する読取り権限があることを確認します。オペレーティング・システムのドキュメンテーションを参照してください。
1003029	スプレッドシート・ファイル fileName でフォーマット・エラーが見つかりました	Essbase でファイルのフォーマット・エラーが検出されました。	Essbase 以外の場所でファイルを開き、そのファイルが有効であることを確認します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>● データのロードが正しく実行されていますか?</li> <li>● ファイルは破損していませんか?</li> <li>● ファイルは空ですか?</li> <li>● Essbase にロードできるファイル・タイプですか?</li> </ul>

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1003030 <b>関連トピック</b> <a href="#">1003027</a> <a href="#">1003022</a>	ファイル fileName をロードできません。詳細はサーバー・ログ・ファイルを参照してください	Essbase でファイルを読み取れません。	<p>Essbase でファイルが見つかることを確認します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ファイル名とパス名は正しいですか?スペルに間違いがないか確認します。</li> <li>● Essbase サーバーが UNIX プラットフォーム上にある場合、大文字と小文字は正しいですか?</li> <li>● ファイルが指定された場所にありますか?他のユーザーによって移動または削除されていないことを確認します。</li> </ul> <p>Essbase でファイルを使用できることを確認します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● データ・ファイルが他のユーザーによってロックされていませんか(158 ページの「<a href="#">オブジェクトのロック解除</a>」を参照してください)?</li> <li>● ファイルのファイル拡張子は正しいですか? テキスト・ファイルのファイル拡張子は、.txt にする必要があります。ルール・ファイルのファイル拡張子は、.rul にする必要があります。</li> <li>● ファイルは有効ですか?</li> <li>● ファイルをロードしている Essbase データベースに対する正しい権限がありますか?</li> <li>● ロード対象のファイルに対する正しいオペレーティング・システム権限がありますか?</li> </ul> <p>ESSCMD を使用している場合は、IMPORT コマンドを正しく使用していることを確認します。IMPORT コマンドを発行するときには、次の4つのオプションを使用してデータ・ファイルの場所を選択できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>1(ローカル/クライアント・オブジェクト):</b> データ・ファイルがクライアント・フォルダ内にあることを確認します。 データ・ファイルに対する読取りアクセス権があることを確認します。 Essbase サーバーが UNIX プラットフォーム上にある場合、ファイル名は大文字と小文字が区別されるため、大文字と小文字を確認します。</li> <li>● <b>2(リモート・サーバー・オブジェクト):</b> データ・ファイルに対する読取りアクセス権があることを確認します。 Essbase サーバーが UNIX プラットフォーム上にある場合、ファイル名は大文字と小文字が区別されるため、大文字と小文字を確認します。</li> </ul>

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
			<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>3 (ファイル)</b>: 完全なパス名と完全なファイル名(ファイルのタイプを示す拡張子も含める)を指定したことを確認します。</li> <li>● <b>4 (SQL)</b>: ODBC 接続を確認します。</li> </ul> <p>Essbase サーバーが適切に構成されていることを確認します。</p>
1003031	算術データのロード中にレコード recordNumber でコミットします	Essbase によって、レコードが Essbase データベースに保存されました。	該当なし
1003032	レコード recordNumber 付近の入力行が長すぎます	Essbase で長すぎて処理できないレコードが検出されました。Essbase では、32,000 を超える文字を含んだレコードを処理できません。	すべてのレコードが改行で区切られていることを確認します。 32,000 を超える文字を含んだレコードがないことを確認します。

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1003034 関連トピック 1003000	データ列に無効なメンバー memberName があります	Essbase でデータ列に数値以外の値が検出されました。データ列には数値のみを入れる必要があります。	<p>データ・ソースが有効であることを確認してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● データ・ソースが破損していませんか?</li> <li>● データ・ソースのフォーマットは正しいですか?</li> </ul> <p>データ・ロードの失敗の原因となったレコードが有効であることを確認します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 各次元のメンバーがデータ・ソースまたはルール・ファイルで指定されていますか?</li> <li>● レコード内の各メンバー名は有効ですか?</li> <li>● レコードに複数の数値データ・フィールドがありますか?ある場合、余分のデータ・フィールドを無視できます。</li> <li>● レコードの最後が数値データ・フィールドですか?数値データ・フィールドでない場合、データ・ソースまたはルール・ファイルの数値データ・フィールドを移動します。</li> <li>● 数値(100 など)を含むすべてのメンバー名が引用符で囲まれていますか?</li> <li>● データのロードの失敗の原因となったレコードを削除して、データのロードを再度実行しようとしたかを確認します。</li> </ul> <p>ルール・ファイルを使用している場合は、ルール・ファイルが有効であることを確認します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ルール・ファイルが正しい場所にありますか?</li> <li>● ルール・ファイル内のヘッダー・レコードは正しく設定されていますか?</li> <li>● ルール・ファイルを検証できますか?</li> <li>● 次元で指定されたすべての次元がデータ・ソースまたはルール・ファイルで指定されていますか?</li> </ul>
1003035	このデータ・ファイルのロードで変更されたデータ値はありません	データ・ロードの結果、Essbase によって Essbase データベースの値は変更されませんでした。	該当なし
1003036	データをロードできません。メンバー名が長すぎます: memberName	Essbase で、長すぎるメンバー名が検出されました。	<p>メンバー名が有効であることを確認します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● メンバー名は 80 バイト未満ですか?</li> <li>● ファイル区切り記号を設定しましたか?</li> <li>● 接頭辞または接尾辞のためにメンバー名が長くなりすぎていませんか?</li> </ul>
1003037	データ・ロードによって numberOfCells 個のセルが更新されました	Essbase によって、表示された数のデータベースのセルが更新されました。	該当なし

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1003038	ノード nodeNumber でデータロード・キューがオーバーフローしました		Oracle サポートに連絡してください。
1003039	データをロードできません。暗黙の共有メンバー memberName には実子がありません	選択されたメンバーは共有されているので、Essbase ではそのメンバーにデータをロードできません。共有メンバーにデータを保管することはできません。	メンバーが共有されていないことを確認します。メンバーは次の場合に共有されます: <ul style="list-style-type: none"> <li>● アウトラインでメンバーに共有のタグ付けをした場合。</li> <li>● メンバーが親で子が1つしかない場合。メンバーに子が1つしかない場合は、親と子が値を共有します。これを暗黙の共有と呼びます。</li> <li>● メンバーに複数の子がいるが、1つの子のみが親に集計される場合。これも暗黙の共有と呼びます。</li> </ul>
1003040	並列データ・ロードが使用可能です。ブロック準備スレッド number、ブロック書込みスレッド number。	並列データ・ロードが使用可能です。	該当なし
1003041	データ・ロック解除経過時間: number 秒	Spreadsheet Add-in で Unlock コマンドが発行された後、すべてのロックを解除するために必要な時間。	該当なし
1003048	Unicode でエンコードされたデータを非 Unicode モードのアプリケーションにロードすることはサポートされていません	Unicode でエンコードされたデータを非 Unicode アプリケーションにロードしようとしていました。	アプリケーションを Unicode モードに移行していることを確認します。

## 4

1006002 - 1006057: データ・  
キャッシュのメッセージ

表 4 にデータ・キャッシュのエラー・メッセージと情報メッセージを示します。

表 4 データ・キャッシュのメッセージ 1006002 - 1006057

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1006002	ページ・ファイルに情報を保管できません	ページ・ファイルにデータを保管するには、Essbase のディスク・スペースが不十分です。	可能であれば、さらにディスク・スペースを追加します。ディスク・スペースを追加できない場合は、ディスク・ボリュームのスパンを検討します。 計算などの操作が完了しなかった場合は、回復手順を実行します。 データベースが破損しているかどうかを確認します(156 ページの「データベース破損の確認」を参照してください)。

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1006004	ページ・ファイルから情報を読み取れません	Essbase でページ・ファイルを読み取れません。	<p>ハードウェアに問題はありませんか?Windows イベント・ログを確認します。これを行う方法がわからない場合は、Windows のドキュメンテーションを参照してください。</p> <p>インデックスおよびページ・ファイルは破損していませんか?ESSCMD で VALIDATE コマンドを発行して、これらを確認します。インデックスおよびページ・ファイルが破損している場合は、次の手順を実行します:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 一時ファイルを削除します。一時ファイルには次のものが含まれています: <ul style="list-style-type: none"> <li>● ARBORPATH/app/appName/databaseName/databaseName.inn</li> <li>● ARBORPATH/app/appName/databaseName/essxxxxx.inn</li> <li>● ARBORPATH/app/appName/databaseName/essxxxxx.pan</li> <li>● ARBORPATH/app/appName/databaseName/databaseName.otn</li> <li>● ARBORPATH/app/appName/databaseName/databaseName.esn</li> <li>● ARBORPATH/app/appName/databaseName/databaseName.tcu</li> </ul> </li> <li>2. Essbase サーバーを再起動します。</li> <li>3. データベースが破損しているかどうかを確認します(<a href="#">156 ページの「データベース破損の確認」</a>を参照してください)。</li> </ol>
1006006	ブロックをメモリーに移動できませんでした。データ・キャッシュが小さすぎます。データ・キャッシュ・サイズを大きくしてください。	Essbase でそのメモリーにブロックを保管できません。	<p>密/疎構成を変更して、ブロック・サイズを小さくします。</p> <p>データ・キャッシュ・サイズを少なくとも 100 ブロックまで増やします。</p> <p>サーバー・コンピュータのメモリーを増やします。</p> <p>データベースが破損しているかどうかを確認します(<a href="#">156 ページの「データベース破損の確認」</a>を参照してください)。</p>



メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1006010	無効なブロック・ヘッダー: ブロックの数が一致しません	Essbase で、ブロック・ヘッダーがブロックの数に一致しません。データベースが破損している可能性があります。停電などの異常事象により Essbase が不正にシャット・ダウンされたため、破損した可能性があります。	データベースを修復するには、次の手順を実行してください:  <ol style="list-style-type: none"> <li>Essbase サーバーを停止します。</li> <li>ARBORPATH/app/appName/databaseName/databaseName.ind ファイルを削除します。</li> <li>Essbase サーバーを起動します。</li> <li>アプリケーションを起動します。</li> <li>データベースが破損しているかどうかを確認します(156 ページの「データベース破損の確認」を参照してください)。</li> </ol>
1006015	データ・バッファ・キャッシュを割り当てるためのメモリーが足りません。 operation は中止されました	メモリーが足りないため、Essbase でリストされた操作を実行できません。	問題を解決するには、次のいずれかを試してください。問題を解決した後、データベースが破損していないかどうかを確認します(156 ページの「データベース破損の確認」を参照してください)。 <ul style="list-style-type: none"> <li>サーバー・コンピュータ上の物理メモリーを確認します。Windows 環境の場合、1 つのデータベースに推奨される最小メモリーは 64 MB です。UNIX 環境の場合、1 つのデータベースに推奨される最小メモリーは 128 MB です。引き続きエラーが発生する場合は、サーバー・コンピュータにより多くのメモリーを追加します。</li> <li>UNIX コンピュータの場合、ユーザー制限プロファイルを確認します(157 ページの「ユーザー制限プロファイルの確認」を参照してください)。</li> <li>データベースのブロック・サイズを確認します。必要に応じて、ブロック・サイズを小さくします。</li> <li>データ・キャッシュの設定を確認します。必要に応じて、データ・キャッシュのサイズを大きくします。</li> <li>Essbase サーバーを再起動します。</li> <li>サーバー・コンピュータを再起動します。</li> </ul>
1006016	無効なブロック・ヘッダー: 不正なブロック・タイプです	Essbase でブロック・ヘッダーを読み取れません。データベースが破損している可能性があります。停電などの異常事象により Essbase が不正にシャット・ダウンされたため、破損した可能性があります。	データベースを修復するには、次の手順を実行してください:  <ol style="list-style-type: none"> <li>Essbase サーバーを停止します。</li> <li>ARBORPATH/app/appName/databaseName/databaseName.ind ファイルを削除します。</li> <li>Essbase サーバーを起動します。</li> <li>アプリケーションを起動します。</li> <li>データベースが破損しているかどうかを確認します(156 ページの「データベース破損の確認」を参照してください)。</li> </ol>

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1006023	データ・キャッシュがいっぱいです。データベース databaseName のデータ・キャッシュ・サイズを大きくしてください。	データ・キャッシュがいっぱいでした。	データ・キャッシュ・サイズを少なくとも 100 ブロックまで増やします。 必要に応じて、ブロック・サイズを小さくします。 十分なメモリーがあることを確認します。 問題を解決した後、データベースが破損していないかどうかを確認します(156 ページの「データベース破損の確認」を参照してください)。
1006025	データ・キャッシュ・サイズ==>number バイト、number データ・ページ	データ・キャッシュのサイズとデータ・ページの数。	該当なし
1006026	データ・ファイル・キャッシュ・サイズ==> number バイト、number データ・ファイル・ページ	データ・ファイル・キャッシュのサイズとデータ・ファイル・ページの数。	該当なし
1006027	データ・キャッシュ・ページを物理メモリーにロックしています。	Essbase により、データ・キャッシュ・ページが物理メモリーにロックされています。	該当なし
1006028	物理メモリー不足のためキャッシュ・メモリーのロックをオフにします。仮想メモリーを使用してデータ・キャッシュの残りを割り当てています。	Essbase により物理メモリーがすべて消費されてしまったため、現在は仮想メモリーを使用しています。	物理メモリーを使用する場合は、コンピュータに物理メモリーを追加します。
1006029	権限不足のためキャッシュ・メモリーのロックをオフにしています。仮想メモリーを使用してデータ・キャッシュの残りを割り当てています。	キャッシュ・メモリーのロックを使用するには、権限が不十分です。	UNIX の場合は、ルート権限を持っていることを確認します。オペレーティング・システムのドキュメンテーションを参照してください。 Windows の場合は、SE_INC_BASE_PRIORITY_NAME 権限を持っていることを確認します。Administrators および Power Users グループのユーザーは、通常はこの権限を持っています。オペレーティング・システムのドキュメンテーションを参照してください。
1006030	データ・ファイル・ページをキャッシュへ移動できませんでした。データ・ファイル・キャッシュが小さすぎます。データ・ファイル・キャッシュ・サイズを大きくしてください。	Essbase で、データ・ファイル・ページをデータ・ファイル・キャッシュに格納できません。	データ・ファイル・キャッシュ・サイズを大きくします。問題を解決した後、データベースが破損していないかどうかを確認します(156 ページの「データベース破損の確認」を参照してください)。

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1006031	データ・ファイル・キャッシュがいっぱいです。データベース <code>databaseName</code> のデータ・ファイル・キャッシュ・サイズを大きくしてください。	リストされたデータベースのデータ・ファイル・キャッシュがいっぱいでした。	データ・ファイル・キャッシュ・サイズを大きくします。 問題を解決した後、データベースが破損していないかどうかを確認します(156 ページの「データベース破損の確認」を参照してください)。
1006032	保管済論理データ・ブロックのサイズ <code>number</code> は無効です。	Essbase でデータ・ブロックを読み取れません。データベースが破損している可能性があります。停電などの異常事象により Essbase が不正にシャット・ダウンされたため、破損した可能性があります。	データベースを修復するには、次の手順を実行してください: 1. Essbase サーバーを停止します。 2. <code>ARBORPATH/app/appName/databaseName/databaseName.ind</code> ファイルを削除します。 3. Essbase サーバーを起動します。 4. アプリケーションを起動します。 5. データベースが破損しているかどうかを確認します(156 ページの「データベース破損の確認」を参照してください)。
1006034	データベース <code>databaseName</code> のデータ・ファイル・キャッシュ・ページのスワップを待機しています。データ・ファイル・キャッシュ・サイズを大きくすればパフォーマンスが向上する可能性があります。	Essbase でページをメモリーにスワップしています。	該当なし スワップを減らしてパフォーマンスを向上させるには、データ・ファイル・キャッシュ・サイズを大きくします。
1006035	エラー <code>errorNumber</code> が見つかりました(データベース <code>databaseName</code> のデータ・ファイル・キャッシュ・フラッシュの完了を待機している間)。		Oracle サポートに連絡してください。 問題を解決した後、データベースが破損していないかどうかを確認します(156 ページの「データベース破損の確認」を参照してください)。
1006036	データベース <code>databaseName</code> のデータ・キャッシュ出力転送バッファは使用できません。		Oracle サポートに連絡してください。 問題を解決した後、データベースが破損していないかどうかを確認します(156 ページの「データベース破損の確認」を参照してください)。
1006037	データベース <code>databaseName</code> のデータ・ページ移動を待機している間にエラーが見つかりました。		Oracle サポートに連絡してください。 問題を解決した後、データベースが破損していないかどうかを確認します(156 ページの「データベース破損の確認」を参照してください)。
1006039	データベース <code>databaseName</code> のデータ・ファイル・ページ移動を待機している間にエラーが見つかりました。		Oracle サポートに連絡してください。 問題を解決した後、データベースが破損していないかどうかを確認します(156 ページの「データベース破損の確認」を参照してください)。

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1006040	データベース databaseName 内のデータ・ブロックをディスクにフラッシュすることができません。		Oracle サポートに連絡してください。 問題を解決した後、データベースが破損していないかどうかを確認します(156 ページの「データベース破損の確認」を参照してください)。
1006041	ファイル fileName からの読取り、messageText。	Essbase で致命的なエラーが発生しました。	Essbase サーバーのログで前のメッセージを確認して、Essbase サーバーがクラッシュした原因を判断します。 問題を解決した後、データベースが破損していないかどうかを確認します(156 ページの「データベース破損の確認」を参照してください)。
1006042	ファイル fileName からの読取りの完了、messageText。	Essbase で致命的なエラーが発生しました。	Essbase サーバーのログで前のメッセージを確認して、Essbase サーバーがクラッシュした原因を判断します。 問題を解決した後、データベースが破損していないかどうかを確認します(156 ページの「データベース破損の確認」を参照してください)。
1006043	ファイル fileName への書込み、messageText。	Essbase で致命的なエラーが発生しました。	Essbase サーバーのログで前のメッセージを確認して、Essbase サーバーがクラッシュした原因を判断します。 問題を解決した後、データベースが破損していないかどうかを確認します(156 ページの「データベース破損の確認」を参照してください)。
1006044	ファイル fileName への書込みの完了、messageText。	Essbase で致命的なエラーが発生しました。	Essbase サーバーのログで前のメッセージを確認して、Essbase サーバーがクラッシュした原因を判断します。 問題を解決した後、データベースが破損していないかどうかを確認します(156 ページの「データベース破損の確認」を参照してください)。
1006045	エラー errorNumber が見つかりました(データベース databaseName のデータ・ファイルの作成または拡張を試行している間)。	Essbase でページ・ファイルのサイズを大きくできません。	可能であれば、さらにディスク・スペースを追加します。ディスク・スペースを追加できない場合は、ディスク・ボリュームのスパンを検討します。 計算などの操作が完了しなかった場合は、回復手順を実行します。 データベースが破損しているかどうかを確認します(156 ページの「データベース破損の確認」を参照してください)。
1006046	ファイル fileName からの読取り、messageText。	Essbase で致命的なエラーが発生しました。	Essbase サーバーのログで前のメッセージを確認して、Essbase サーバーがクラッシュした原因を判断します。 問題を解決した後、データベースが破損していないかどうかを確認します(156 ページの「データベース破損の確認」を参照してください)。

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1006047	ファイル fileName への書込み、messageText。	Essbase で致命的なエラーが発生しました。	Essbase サーバーのログで前のメッセージを確認して、Essbase サーバーがクラッシュした原因を判断します。  問題を解決した後、データベースが破損していないかどうかを確認します(156 ページの「データベース破損の確認」を参照してください)。
1006048	ファイル fileName のファイル・ポインタの設定を試行、messageText。	Essbase で致命的なエラーが発生しました。	Essbase サーバーのログで前のメッセージを確認して、Essbase サーバーがクラッシュした原因を判断します。  問題を解決した後、データベースが破損していないかどうかを確認します(156 ページの「データベース破損の確認」を参照してください)。
1006049	ファイル fileName(データベース databaseName)のデータ・ファイル名を生成できません。	Essbase で致命的なエラーが発生しました。	Essbase サーバーのログで前のメッセージを確認して、Essbase サーバーがクラッシュした原因を判断します。  問題を解決した後、データベースが破損していないかどうかを確認します(156 ページの「データベース破損の確認」を参照してください)。
1006050	トランザクション transactionNumber に対して、messageText。	Essbase で致命的なエラーが発生しました。	Essbase サーバーのログで前のメッセージを確認して、Essbase サーバーがクラッシュした原因を判断します。  問題を解決した後、データベースが破損していないかどうかを確認します(156 ページの「データベース破損の確認」を参照してください)。
1006051	データベース databaseName に対し、入力転送バッファおよび出力転送バッファが解放されました。	リストされたデータベースの入力および出力転送バッファは解放されています。	該当なし
1006052	データベース databaseName のデータ・キャッシュ入力転送バッファは使用できません。	オペレーティング・システムのリソースが不足しています。	Oracle サポートに連絡してください。
1006053	データベース databaseName のデータ・ブロックの初期化を待機している間にエラーが見つかりました。	オペレーティング・システムのリソースが不足しています。	Oracle サポートに連絡してください。
1006054	データベース databaseName のデータ・ファイル・ページの修復を待機している間にエラーが見つかりました。	オペレーティング・システムのリソースが不足しています。	Oracle サポートに連絡してください。
1006055	データベース databaseName のデータ・ファイル・バッファ・プールへのアクセスを待機している間にエラーが見つかりました。	オペレーティング・システムのリソースが不足しています。	Oracle サポートに連絡してください。

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1006056	データベース <code>databaseName</code> のデータ・ファイル・ページの初期化を待機している間にエラーが見つかりました。	オペレーティング・システムのリソースが不足しています。	Oracle サポートに連絡してください。
1006057	データ・ブロック転送に含まれるデータベース <code>databaseName</code> のデータ・ファイル・ページを待機している間に、エラーが見つかりました。	オペレーティング・システムのリソースが不足しています。	Oracle サポートに連絡してください。

## 5

1008001 - 1008152: システム  
呼出しのメッセージ

表 5 にシステム呼出しに関するエラー・メッセージと情報メッセージを示します。

表 5 システム呼出しのメッセージ 1008001 - 1008152

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1008001	メモリーを割り当てられません	Essbase が操作を実行するために十分なメモリーを割り当てられません。	<p>仮想メモリーのサイズが物理メモリーの 2-3 倍であることを確認してください。</p> <p>スワップ・スペースのサイズが RAM の 2-3 倍であることを確認してください。</p> <p>データベースのブロック・サイズを確認します。必要に応じて、ブロック・サイズを小さくします。</p> <p>データ・キャッシュの設定を確認します。必要に応じて、データ・キャッシュのサイズを大きくします。</p> <p>インデックス・キャッシュの設定を確認してください。必要に応じて、インデックス・キャッシュのサイズを大きくしてください。</p> <p>UNIX コンピュータの場合、ユーザー制限プロファイルを確認します(157 ページの「ユーザー制限プロファイルの確認」を参照してください)。</p> <p>セキュリティ・ファイルが破損しているかどうかを確認します。</p> <p>サーバー・コンピュータが HP-UX オペレーティング・システムを実行している場合は、MAXDSIZE を少なくとも 2*(データ・キャッシュ・サイズ+インデックス・キャッシュ・サイズ)に設定してください。</p> <p>データベースが破損しているかどうかを確認します(156 ページの「データベース破損の確認」を参照してください)。</p> <p>サーバー・コンピュータを再起動します。</p> <p>RAM が十分にあることを確認してください。</p>

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1008006	memoryToBeFreed (functionName 中)のメモリーを解放できません		Oracle サポートに連絡してください。
1008009	ポインタが NULL です- 解放は取り消されました: variableName(functionName 中)	Essbase がリストされたメモリーを解放できません。	Oracle サポートに連絡してください。
1008010	読取りに失敗しました	Essbase がクライアント上にある計算スクリプトの読取りを行うことができません。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 再度計算スクリプトを実行してください。</li> <li>2. クライアントを再起動し、計算スクリプトを再実行してください。</li> <li>3. 計算スクリプトをサーバーにコピーし、計算スクリプトを再実行してください。</li> </ol>
1008021	名前付きパイプの作成に失敗しました	Essbase で名前付きパイプを作成できません。	ネットワークのドキュメンテーションを参照してください。
1008022	パイプの作成に失敗しました	Essbase で名前付きパイプを作成できません。	ネットワークのドキュメンテーションを参照してください。
1008023	名前付きパイプの接続に失敗しました	Essbase を名前付きパイプから切断できません。	ネットワークのドキュメンテーションを参照してください。
1008024	名前付きパイプの切断に失敗しました	Essbase を名前付きパイプから切断できません。	ネットワークのドキュメンテーションを参照してください。
1008025	名前付きパイプの検査に失敗しました	Essbase が名前付きパイプの検査を行うことができません。	ネットワークのドキュメンテーションを参照してください。
1008028	パイプ読取りエラーです	Essbase が名前付きパイプから読取りを行うことができません。	<p>Essbase サーバーが実行中かどうかを確認してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● Essbase サーバーが動作していない場合は、Essbase サーバーを再起動します。</li> <li>● Essbase サーバーがクラッシュしている場合は、異常シャットダウンのための手順を実行します。</li> <li>● Essbase サーバーがフリーズしている場合は、Essbase サーバーを停止して異常シャットダウンのための手順を実行します。標準の方法で Essbase サーバーを停止できない場合は、タスクを終了します(158 ページの「サーバー・タスクの終了」を参照してください)。</li> </ul>



メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1008029	パイプ書き込みエラーです	Essbase が名前付きパイプへの書き込みを行うことができません。	ネットワークのドキュメンテーションを参照してください。
1008030	パイプを開けませんでした	Essbase が名前付きパイプを開けませんでした。	ネットワークのドキュメンテーションを参照してください。
1008031	パイプを閉じられませんでした	Essbase が名前付きパイプを閉じられませんでした。	ネットワークのドキュメンテーションを参照してください。
1008036	誤った数のバイトがパイプに書き込まれました	Essbase が名前付きパイプへの書き込みを終了できません。	ネットワークのドキュメンテーションを参照してください。
1008037	「次を検索」に失敗しました	Essbase がシーケンス内の次のファイルを検索できません。	これは、Essbase がコピーまたはロード中などで複数のファイルを処理している場合に発生する可能性があります。どのファイルが見つからないかを判別できる場合は、それをバックアップから復元してください。
1008039	「検索を閉じる」に失敗しました	Essbase がシーケンス内の次のファイルを閉じられませんでした。	これは、Essbase がコピーまたはロード中などで複数のファイルを処理している場合に発生する可能性があります。どのファイルに問題があるかを判別できる場合は、それをバックアップから復元してください。
1008089	エージェントからのデータの受信時にエラーが発生しました	Essbase でエージェントからデータを受信できません。	Essbase サーバーが実行中かどうかを確認してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>● Essbase サーバーが動作していない場合は、Essbase サーバーを再起動します。</li> <li>● Essbase サーバーがクラッシュしている場合は、異常シャットダウンのための手順を実行します。</li> <li>● Essbase サーバーがフリーズしている場合は、Essbase サーバーを停止して異常シャットダウンのための手順を実行します。標準的な方法を使用して Essbase サーバーを停止できない場合は、タスクを終了して(158 ページの「サーバー・タスクの終了」を参照してください)、Essbase サーバーを再起動してください。</li> </ul>

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1008090	エージェントからのデータの受信がタイム・アウトになりました	Essbase でエージェントからデータを受信できません。	Essbase サーバーが実行中かどうかを確認してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>● Essbase サーバーが動作していない場合は、Essbase サーバーを再起動します。</li> <li>● Essbase サーバーがクラッシュしている場合は、異常シャットダウンのための手順を実行します。</li> <li>● Essbase サーバーがフリーズしている場合は、Essbase サーバーを停止して異常シャットダウンのための手順を実行します。標準的な方法を使用して Essbase サーバーを停止できない場合は、タスクを終了して(158 ページの「サーバー・タスクの終了」を参照してください)、Essbase サーバーを再起動してください。</li> </ul>
1008091	エージェントへのデータの送信時にエラーが発生しました	Essbase でエージェントにデータを送信できません。	Oracle サポートに連絡してください。
1008092	エージェントへのデータの送信がタイム・アウトになりました	Essbase でエージェントにデータを送信できません。	Oracle サポートに連絡してください。
1008093	変換のデータ型が無効です。		Oracle サポートに連絡してください。
1008099	HALLOC: メモリー割当てが重複している可能性があります! variableName (functionName 中)		Oracle サポートに連絡してください。
1008100	HFREE: ポインタはすでに解放されています! variableName (functionName 中)		Oracle サポートに連絡してください。
1008101	HFREE: メモリーが上書きされる可能性があります! variableName (functionName 中)	元のメモリー割当てが、同じポインタへの新しい割り当てによって上書きされました。	Oracle サポートに連絡してください。

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1008106	例外エラー・ログ errorLogName.XCP の作成中	Essbase が異常シャットダウンの直前に例外ログを生成しています。	<p>例外ログを参照して、シャットダウンの原因を調べてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● サーバーがクラッシュする場合、ログは <code>HYPERION_HOME/logs/essbase</code> に書き込まれます。ログの名前は <code>log00001.xcp</code> のようになります。</li> <li>● アプリケーションがクラッシュしてアプリケーション名が不明な場合、ログは <code>HYPERION_HOME/logs/essbase/app</code> に書き込まれます。ログの名前は <code>log00001.xcp</code> のようになります。</li> <li>● アプリケーションがクラッシュしてアプリケーション名がわかっている場合、ログは <code>HYPERION_HOME/logs/essbase/app/appName</code> に書き込まれます。ログの名前は <code>sample/log00001.xcp</code> のようになります。</li> <li>● データベースがクラッシュしてデータベース名が不明な場合、ログは <code>HYPERION_HOME/logs/essbase/app/appName</code> に書き込まれます。ログの名前は <code>app/sample/log00001.xcp</code> のようになります。</li> <li>● データベースがクラッシュしてデータベース名がわかっている場合、ログは <code>HYPERION_HOME/logs/essbase/app/appName/databasename</code> に書き込まれます。ログの名前は <code>app/sample/basic/log00001.xcp</code> のようになります。</li> </ul> <p>データベースが破損しているかどうかを確認します(156 ページの「データベース破損の確認」を参照してください)。</p> <p>Oracle サポートに連絡してください。</p>

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1008107	例外エラー・ログが完了しました。テクニカル・サポートに連絡してこのファイルを提出してください	Essbase がエラー・ログの生成を終了し、シャットダウンします。	<p>例外ログを参照して、シャットダウンの原因を調べてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● サーバーがクラッシュする場合、ログは <code>HYPERION_HOME/logs/essbase</code> に書き込まれます。ログの名前は <code>log00001.xcp</code> のようになります。</li> <li>● アプリケーション名がクラッシュしてアプリケーション名が不明な場合、ログは <code>HYPERION_HOME/logs/essbase/app/</code> に書き込まれます。ログの名前は <code>app/log00001.xcp</code> のようになります。</li> <li>● アプリケーションがクラッシュしてアプリケーション名がわかっている場合、ログは <code>HYPERION_HOME/logs/essbase/app/appName/</code> に書き込まれます。ログの名前は <code>app/sample/log00001.xcp</code> のようになります。</li> <li>● データベースがクラッシュしてデータベース名が不明な場合、ログは <code>HYPERION_HOME/logs/essbase/app/appName/</code> に書き込まれます。ログの名前は <code>app/sample/log00001.xcp</code> のようになります。</li> <li>● データベースがクラッシュしてデータベース名がわかっている場合、ログは <code>HYPERION_HOME/logs/essbase/app/appName/databasename</code> に書き込まれます。ログの名前は <code>app/sample/basic/log00001.xcp</code> のようになります。</li> </ul> <p>データベースが破損しているかどうかを確認します(156 ページの「データベース破損の確認」を参照してください)。</p> <p>Oracle サポートに連絡してください。</p>

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1008108	Essbase 内部論理エラー logicErrorNumber	Essbase で論理エラーが発生し、異常シャット・ダウンします。	<p>Essbase サーバーが動作していることを確認します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● Essbase サーバーが動作していない場合は、Essbase サーバーを再起動します。</li> <li>● Essbase サーバーがクラッシュしている場合は、異常シャットダウンのための手順を実行します。</li> <li>● Essbase サーバーがフリーズしている場合は、Essbase サーバーを停止して異常シャットダウンのための手順を実行します。標準の方法で Essbase サーバーを停止できない場合は、タスクを終了します(158 ページの「サーバー・タスクの終了」を参照してください)。</li> </ul> <p>データベースが破損しているかどうかを確認します(156 ページの「データベース破損の確認」を参照してください)。</p> <p>ネットワークとコンピュータ・ハードウェアが正しく実行されていることを確認してください。</p> <p>仮想メモリのサイズが物理メモリの 2-3 倍であることを確認してください。それでも十分でない場合は、サーバー・コンピュータのメモリーを増やしてください。</p> <p>ブロック・サイズを確認してください。</p> <p>データ・キャッシュが少なくとも 100 ブロックを保持できることを確認してください。</p> <p>インデックス・キャッシュ・サイズが推奨される範囲内であることを確認してください。</p>
1008109	pointerName (functionName 中)のメモリーは再割当てできません	Essbase で、リストされた関数にメモリーを再割当てできません。	メモリーが十分にあることを確認してください。

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1008110	メモリーを割り当てられません。詳細はアプリケーション・ログを参照してください。	Essbase でメモリーを割り当てられません。	<p>Essbase コンピュータに十分なリソースがあることを確認します。システム要件については『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System インストール概要』を確認してください。リレーショナル・データベースなどのリソース集中型のアプリケーションを同じコンピュータで実行している場合、そのリソース集中型のアプリケーションが Essbase に必要なリソースを使用している可能性があります。</p> <p>メモリーが十分にあることを確認してください。</p> <p>タイトル・バーの「X」をクリックして Essbase サーバーのウィンドウを閉じないでください。</p> <p>Essbase サーバーを再起動した後で、データベースが破損しているかどうかを確認します(156 ページの「データベース破損の確認」を参照してください)。</p> <p>appName.log を参照してください。</p>
1008111	pointerName (functionName 中)のメモリーは再割当てできません。詳細はアプリケーション・ログを参照してください。	Essbase でメモリーを再割当てできません。	<p>Essbase コンピュータに十分なリソースがあることを確認します。システム要件については『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System インストール概要』を確認してください。リレーショナル・データベースなどのリソース集中型のアプリケーションを同じコンピュータで実行している場合、そのリソース集中型のアプリケーションが Essbase に必要なリソースを使用している可能性があります。</p> <p>メモリーが十分にあることを確認してください。</p> <p>タイトル・バーの「X」をクリックして Essbase サーバーのウィンドウを閉じないでください。</p> <p>Essbase サーバーを再起動した後で、データベースが破損しているかどうかを確認します(156 ページの「データベース破損の確認」を参照してください)。</p> <p>appName.log を参照してください。</p>
1008112	メモリー割当てエラー・コード: 0/S エラー= errorCode、0/S 戻りコード= errorNumber	Essbase がメモリーを割り当てられませんでした。	<p>メモリーが十分にあることを確認してください。</p> <p>オペレーティング・システムのドキュメンテーションで、オペレーティング・システムのエラー・コードと戻りコードを参照してください。</p>

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1008113	メモリー再割当てエラー・コード: O/S エラー= errorCode、O/S 戻り コード= errorNumber	Essbase がメモリー を再割当てできま せんでした。	メモリーが十分にあることを確認して ください。  オペレーティング・システムのドキュ メンテーションで、オペレーティング・ システムのエラー・コードと戻りコー ドを参照してください。
1008114	仮想メモリーの number バイトの割 当て要求。使用中の仮想メモリー のパーセンテージは number%です。	要求された仮想メ モリーのバイトと Essbase によって現 在使用されている 仮想メモリーの パーセンテージ。	該当なし
1008115	合計物理メモリーは number バイト です。使用可能な物理メモリーは number バイトです。	物理メモリーの合 計バイトと使用可 能な物理メモリー のバイト。	該当なし
1008116	合計スワップ・スペースは number バイトです。使用可能なスワッ プ・スペースは number バイトで す。	スワップ・スペー スの合計バイトと 使用可能なスワッ プ・スペースのバ イト。	該当なし
1008117	合計仮想メモリーは number バイト です。使用可能な仮想メモリーは number バイトです。	仮想メモリーの合 計バイトと使用可 能な仮想メモリー のバイト。	該当なし
1008118	メモリー・ページ・サイズは number バイトです。割当ての細分 度は number バイトです。	メモリー・ペー ジ・サイズの合計 バイトと、メモ リーが割り当てら れているサイズ。	該当なし
1008119	メモリー・ページ・サイズは number バイトです	メモリー・ペー ジ・サイズの合計 バイト。	該当なし
1008120	pointerName (functionName 中)の物理 メモリーは割当てできません	Essbase がリストさ れた関数に物理メ モリーを割り当て られません。	物理メモリーが十分にあることを確認 してください。
1008121	pointerName (functionName 中)の物理 メモリーは再割当てで割り当てら れません	Essbase がリストさ れた関数に物理メ モリーを再割当て できません。	物理メモリーが十分にあることを確認 してください。

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1008122	pointerName (functionName 中)の割当て済メモリはロックできません	Essbase が必要なメモリをロックできません。	<p>エージェントに正しいオペレーティング・システム権限が割り当てられていることを確認してください(159 ページの「オペレーティング・システム権限の判別」を参照してください)。</p> <p>Essbase コンピュータに十分なリソースがあることを確認します。システム要件については『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System インストール概要』を確認してください。リレーショナル・データベースなどのリソース集中型のアプリケーションを同じコンピュータで実行している場合、そのリソース集中型のアプリケーションが Essbase に必要なリソースを使用している可能性があります。</p> <p>ロックするメモリが有効であることを確認してください。オペレーティング・システムのドキュメンテーションを参照してください。</p>
1008123	pointerName (functionName 中)の割当て済メモリは再割当てでロックできません	Essbase が必要なメモリをロックできません。	<p>エージェントに正しいオペレーティング・システム権限が割り当てられていることを確認してください(159 ページの「オペレーティング・システム権限の判別」を参照してください)。</p> <p>Essbase コンピュータに十分なリソースがあることを確認します。システム要件については『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System インストール概要』を確認してください。リレーショナル・データベースなどのリソース集中型のアプリケーションを同じコンピュータで実行している場合、そのリソース集中型のアプリケーションが Essbase に必要なリソースを使用している可能性があります。</p> <p>ロックするメモリが有効であることを確認してください。オペレーティング・システムのドキュメンテーションを参照してください。</p>
1008124	割当て量不足のため、pointerName (functionName 中)の割当て済メモリはロックできません	Essbase にメモリをロックするために十分な物理メモリがありません。	Essbase サーバーのメモリ要件を確認してください。必要に応じて、物理メモリを増やしてください。
1008125	権限不足のため、pointerName (functionName 中)の割当て済メモリはロックできません	Essbase にメモリをロックするための正しいオペレーティング・システム権限が割り当てられていません。	エージェントに正しいオペレーティング・システム権限が割り当てられていることを確認してください(159 ページの「オペレーティング・システム権限の判別」を参照してください)。



メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1008126	割当て量不足のため、pointerName (functionName 中)の割当て済メモリは再割当てでロックできません	Essbase にメモリをロックするために十分な物理メモリがありません。	Essbase サーバーのメモリ要件を確認してください。必要に応じて、物理メモリを増やしてください。
1008127	権限不足のため、pointerName (functionName 中)の割当て済メモリは再割当てでロックできません	Essbase にメモリをロックするために正しいオペレーティング・システム権限が割り当てられていません。	エージェントに正しいオペレーティング・システム権限が割り当てられていることを確認してください(159 ページの「オペレーティング・システム権限の判別」を参照してください)。
1008128	pointerName (functionName 中)の物理メモリは割り当てられません。詳細はアプリケーション・ログを参照してください。	Essbase にメモリをロックするために十分な物理メモリがありません。	<p>必要に応じて、キャッシュ・サイズを小さくしてください。</p> <p>Essbase コンピュータに十分なリソースがあることを確認します。システム要件については『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System インストール概要』を確認してください。リレーショナル・データベースなどのリソース集中型のアプリケーションを同じコンピュータで実行している場合、そのリソース集中型のアプリケーションが Essbase に必要なリソースを使用している可能性があります。</p> <p>サーバー・コンピュータを再起動します。</p> <p>Essbase サーバーの物理メモリ要件を確認してください。必要に応じて、物理メモリを増やしてください。</p> <p>appName.log を参照してください。</p>
1008129	pointerName (functionName 中)の物理メモリは再割当てで割り当てられません。詳細はアプリケーション・ログを参照してください。	Essbase にメモリをロックするために十分な物理メモリがありません。	<p>必要に応じて、キャッシュ・サイズを小さくしてください。</p> <p>Essbase コンピュータに十分なリソースがあることを確認します。システム要件については『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System インストール概要』を確認してください。リレーショナル・データベースなどのリソース集中型のアプリケーションを同じコンピュータで実行している場合、そのリソース集中型のアプリケーションが Essbase に必要なリソースを使用している可能性があります。</p> <p>サーバー・コンピュータを再起動します。</p> <p>Essbase サーバーの物理メモリ要件を確認してください。必要に応じて、物理メモリを増やしてください。</p> <p>appName.log を参照してください。</p>

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1008130	pointerName の割当て済メモリはロックできません。詳細はアプリケーション・ログを参照してください。	Essbase が必要なメモリをロックできません。	<p>エージェントに正しいオペレーティング・システム権限が割り当てられていることを確認してください(159 ページの「オペレーティング・システム権限の判別」を参照してください)。</p> <p>Essbase コンピュータに十分なリソースがあることを確認します。システム要件については『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System インストール概要』を確認してください。リレーショナル・データベースなどのリソース集中型のアプリケーションを同じコンピュータで実行している場合、そのリソース集中型のアプリケーションが Essbase に必要なリソースを使用している可能性があります。</p> <p>ロックするメモリが有効であることを確認してください。</p> <p>appName.log を参照してください。</p>
1008131	pointerName (functionName 中)の割当て済メモリは再割当てで割り当てられません。詳細はアプリケーション・ログを参照してください。	Essbase が必要なメモリをロックできません。	<p>エージェントに正しいオペレーティング・システム権限が割り当てられていることを確認してください(159 ページの「オペレーティング・システム権限の判別」を参照してください)。</p> <p>Essbase コンピュータに十分なリソースがあることを確認します。システム要件については『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System インストール概要』を確認してください。リレーショナル・データベースなどのリソース集中型のアプリケーションを同じコンピュータで実行している場合、そのリソース集中型のアプリケーションが Essbase に必要なリソースを使用している可能性があります。</p> <p>ロックするメモリが有効であることを確認してください。</p> <p>appName.log を参照してください。</p>
1008132	割当て量不足のため、pointerName (functionName 中)の割当て済メモリはロックできません。詳細はアプリケーション・ログを参照してください。	Essbase にメモリをロックするために十分な物理メモリがありません。	<p>Essbase サーバーのメモリ要件を確認してください。必要に応じて、物理メモリを増やしてください。</p> <p>appName.log を参照してください。</p>

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1008133	権限不足のため、pointerName (functionName 中)の割当て済メモリーはロックできません。詳細はアプリケーション・ログを参照してください。	Essbaseに必要なメモリーをロックするための正しいオペレーティング・システム権限が割り当てられていません。	<p>エージェントに正しいオペレーティング・システム権限が割り当てられていることを確認してください(159 ページの「オペレーティング・システム権限の判別」を参照してください)。</p> <p>Essbase コンピュータに十分なリソースがあることを確認します。システム要件については『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System インストール概要』を確認してください。リレーショナル・データベースなどのリソース集中型のアプリケーションを同じコンピュータで実行している場合、そのリソース集中型のアプリケーションが Essbase に必要なリソースを使用している可能性があります。</p> <p>appName.log を参照してください。</p>
1008134	割当て量不足のため、pointerName (functionName 中)の割当て済メモリーは再割当てでロックできません。詳細はアプリケーション・ログを参照してください。	Essbase にメモリーをロックするために十分な物理メモリーがありません。	<p>必要に応じて、キャッシュ・サイズを小さくしてください。</p> <p>Essbase コンピュータに十分なリソースがあることを確認します。システム要件については『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System インストール概要』を確認してください。リレーショナル・データベースなどのリソース集中型のアプリケーションを同じコンピュータで実行している場合、そのリソース集中型のアプリケーションが Essbase に必要なリソースを使用している可能性があります。</p> <p>サーバー・コンピュータを再起動します。</p> <p>Essbase サーバーの物理メモリー要件を確認してください。必要に応じて、物理メモリーを増やしてください。</p> <p>appName.log を参照してください。</p>

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1008135	権限不足のため、pointerName (functionName 中)の割当て済メモリーは再割当てでロックできません。詳細はアプリケーション・ログを参照してください。	Essbase に必要なメモリーをロックするための正しいオペレーティング・システム権限が割り当てられていません。	エージェントに正しいオペレーティング・システム権限が割り当てられていることを確認してください(159 ページの「オペレーティング・システム権限の判別」を参照してください)。  Essbase コンピュータに十分なリソースがあることを確認します。システム要件については『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System インストール概要』を確認してください。リレーショナル・データベースなどのリソース集中型のアプリケーションを同じコンピュータで実行している場合、そのリソース集中型のアプリケーションが Essbase に必要なリソースを使用している可能性があります。  appName.log を参照してください。
1008136	pointerName (functionName 中)のロックされたメモリーを解放できません	Essbase でメモリーを解放できません。メモリーを解放する関数に無効なポインタが渡されたためと考えられます。	Oracle サポートに連絡してください。
1008137	pointerName (functionName 中)のメモリーを再割当て時に解放できません	Essbase でメモリーを解放できません。メモリーを解放する関数に無効なポインタが渡されたためと考えられます。	Oracle サポートに連絡してください。
1008138	pointerName (functionName 中)のメモリーを再割当て時に解放できません。詳細はアプリケーション・ログを参照してください。	Essbase でメモリーを解放できません。メモリーを解放する関数に無効なポインタが渡されたためと考えられます。	appName.log を参照してください。  Oracle サポートに連絡してください。
1008139	pointerName (functionName 中)の境界合せ済メモリーは割り当てられません	Essbase にはリストされたポインタにメモリーを割り当てるための十分な仮想メモリーがありません。	Essbase サーバーの仮想メモリー要件を確認してください。必要に応じて、仮想メモリーを増やして Essbase サーバーを再起動してください。
1008140	pointerName (functionName 中)の境界合せ済メモリーを解放できません	Essbase でメモリーを解放できません。メモリーを解放する関数に無効なポインタが渡されたためと考えられます。	Oracle サポートに連絡してください。

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1008141	pointerName (functionName 中)の境界合せ済メモリは再割当てで割り当てられません	Essbase にはリストされたポインタにメモリを割り当てるための十分な仮想メモリがありません。	Essbase サーバーの仮想メモリ要件を確認してください。必要に応じて、仮想メモリを増やして Essbase サーバーを再起動してください。
1008142	pointerName (functionName 中)の境界合せ済メモリを再割当て時に解放できません	Essbase でメモリを解放できません。メモリを解放する関数に無効なポインタが渡されたためと考えられます。	Oracle サポートに連絡してください。
1008143	pointerName (functionName 中)の境界合せ済メモリは割り当てられません。詳細はアプリケーション・ログを参照してください。	Essbase にはリストされたポインタにメモリを割り当てるための十分な仮想メモリがありません。	Essbase サーバーの仮想メモリ要件を確認してください。必要に応じて、仮想メモリを増やして Essbase サーバーを再起動してください。 appName.log を参照してください。
1008144	Essbase サーバーの仮想メモリ要件を確認してください。必要に応じて、仮想メモリを増やして Essbase サーバーを再起動してください。	Essbase にはリストされたポインタにメモリを割り当てるための十分な仮想メモリがありません。	Essbase サーバーの仮想メモリ要件を確認してください。必要に応じて、仮想メモリを増やして Essbase サーバーを再起動してください。 appName.log を参照してください。
1008145	pointerName (functionName 中)の境界合せ済メモリを再割当て時に解放できません。詳細はアプリケーション・ログを参照してください。	Essbase でメモリを解放できません。メモリを解放する関数に無効なポインタが渡されたためと考えられます。	appName.log を参照してください。 Oracle サポートに連絡してください。
1008146	pointerName (functionName 中)の割当て済メモリはロック解除できません	Essbase でメモリを解放できません。メモリを解放する関数に無効なポインタが渡されたためと考えられます。	Oracle サポートに連絡してください。
1008147	pointerName (functionName 中)のメモリは割り当てられません	Essbase にはリストされたポインタにメモリを割り当てるための十分な仮想メモリがありません。	Essbase サーバーの仮想メモリ要件を確認してください。必要に応じて、仮想メモリを増やして Essbase サーバーを再起動してください。
1008148	pointerName (functionName 中)のメモリは割り当てられません。詳細はアプリケーション・ログを参照してください。	Essbase にはリストされたポインタにメモリを割り当てるための十分な仮想メモリがありません。	Essbase サーバーの仮想メモリ要件を確認してください。必要に応じて、仮想メモリを増やして Essbase サーバーを再起動してください。 appName.log を参照してください。

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1008149	異常シャットダウン要求を受け取りました。アプリケーションを強制的にシャットダウンしてもよろしいですか? [1-はい、2-いいえ]	Essbase Server サーバーを誤ってシャット・ダウンしようとしています。	<p>可能であれば、Essbase サーバーの停止を正しく行ってください。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>2 と入力して、Essbase サーバーの停止を正しく行ってください。</li> <li>Essbase サーバーを正しく停止できない場合は、1 と入力して Essbase サーバーを停止します。</li> <li>これが機能しない場合は、タスクを終了してください(158 ページの「サーバー・タスクの終了」を参照してください)。</li> <li>Essbase サーバーを停止した後、異常シャットダウンのための手順を実行してください。</li> </ol>
1008150	異常シャットダウン要求が中止されました。アプリケーションは処理を続行します	管理者が、おそらくメッセージ 1008149 に答えないことによって、異常シャットダウン要求を中止しました。	
1008151	システムがビジーです。アプリケーションは異常シャットダウン要求を再試行します。	Essbase サーバーがインデックスへの書き込みなどの重要なタスクを実行しています。	タスクが完了すると、Essbase サーバーが再度シャット・ダウンを試みます。
1008152	システムがまだビジーです。異常シャットダウン要求を中止します。後で再度試してください。	Essbase サーバーがインデックスへの書き込みなどの重要なタスクを実行しています。Essbase サーバーは異常シャットダウン要求を中止してこのタスクを終了します。	<p>可能であれば、数分待ってから Essbase サーバーの停止を正しく行ってください。Essbase サーバーを正しく停止できない場合は、タスクを終了してください(158 ページの「サーバー・タスクの終了」を参照してください)。</p> <p>Essbase サーバーを停止した後、異常シャットダウンのための手順を実行してください。</p>

## 6

## 1012000 - 1012750: 計算メッセージ

表 6 に計算に関するエラー・メッセージと情報メッセージを示します。

表 6 計算メッセージ 1012000 - 1012750

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1012000	無効な構文- CALC コマンド invalidCommandName ではありません	Essbase で、計算スクリプトに有効な計算コマンドではないコマンドが検出されました。	計算コマンドが正しいことを確認します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 計算コマンドのスペルは正しいですか?</li> <li>● 計算コマンド内のすべての変数のスペルは正しいですか?</li> <li>● 計算コマンドは有効ですか?</li> </ul>
1012001	計算スクリプト構文 calculationCommandWithErrors が無効です	Essbase で、計算スクリプトに構文エラーが検出されました。	計算スクリプトが有効であることを確認します。 Oracle Essbase データベース管理者ガイドの計算スクリプトの構文に関する説明も参照してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 引用符で囲む必要のあるものを引用符で囲んでいますか?</li> <li>● 計算スクリプト・エディタで計算スクリプトの構文を確認できますか?</li> <li>● スペースも含めて、すべてのメンバー名は正しいですか?メンバー名にスペースがある場合は、そのメンバー名を引用符で囲む必要があります。</li> <li>● すべての式の構文は正しいですか?</li> <li>● SET など、計算動作を定義するコマンドの構文は正しいですか?</li> </ul>

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1012004 関連トピック 1012005	メンバー名 memberName が無効です	Essbase で、計算スクリプトに無効なメンバー名が検出されました。	<p>メンバー名が有効であることを確認します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 該当するメンバーはアウトラインにまだ存在していますか?このエラーは、通常、メンバーはアウトラインから削除されているが、計算スクリプトから削除されていない場合に発生します。メンバーがアウトラインに存在しない場合は、計算スクリプトからそのメンバーへのすべての参照を削除します。</li> <li>● スペースも含めて、メンバー名のスペルは正しいですか?</li> <li>● メンバー名に、スペース、ピリオドなどの特殊文字または数字のみが含まれている場合は、メンバー名が引用符で囲まれていることを確認します。</li> <li>● メンバー名を入力するかわりに、正しいアウトラインと計算スクリプトを関連付けてから、計算スクリプト・エディタを使用してメンバー名を生成してください。</li> </ul>
1012005 関連トピック 1012004	次元名 dimensionName が無効です	Essbase で、計算スクリプトに無効な次元名が検出されました。	<p>次元名が有効であることを確認します。</p> <p>該当する次元はアウトラインにまだ存在していますか?このエラーは、通常、次元はアウトラインから削除されているが、計算スクリプトから削除されていない場合に発生します。次元がアウトラインに存在しない場合は、計算スクリプトからその次元とそのメンバーへのすべての参照を削除します。</p> <p>スペースも含めて、次元名のスペルは正しいですか?</p> <p>次元名に、スペースなどの特殊文字が含まれている場合は、次元名が引用符で囲まれていることを確認します。</p> <p>次元名を入力するかわりに、正しいアウトラインと計算スクリプトを関連付けてから、計算スクリプト・エディタを使用して次元名を生成してください。</p>
1012009	変数名 variableName が長すぎます	Essbase で、長すぎる変数名が検出されました。変数名は 32 バイト以下である必要があります。	<p>変数名を検索して、32 バイト以下にしてください。</p> <p>次元名が有効であることを確認します。</p> <p>変数を使用する前に、変数を正しく宣言していることを確認します。</p>
1012010	変数名 variableName が再宣言されました	1 つの計算スクリプトで変数が複数回宣言されました。	計算スクリプトを確認して、余分な変数の宣言を削除します。変数を使用する前に、変数を正しく宣言していることを確認します。



メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1012011	変数名 variableName はメンバー名と競合しています	リストされた変数に割り当てられた名前がアウトラインのメンバー名に一致しません。	変数に一意の名前を割り当てます。変数名は 32 バイト以下にする必要があります。Essbase の命名ルールに従う必要があります。変数を使用する前に、変数を正しく宣言していることを確認します。
1012012	配列変数の範囲指定子 dimensionName は次元ではありません	配列変数のサイズを決定する計算スクリプト内の次元は、有効な次元ではありませんでした。	次元名が有効であることを確認します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 該当する次元はアウトラインに存在していますか?</li> <li>● スペースも含めて、次元のスペルは正しいですか?メンバーを入力するかわりに、正しいアウトラインと計算スクリプトを関連付けてから、計算スクリプト・エディタを使用してメンバー名を生成してください。</li> <li>● 次元名に、スペースなどの特殊文字が含まれている場合は、次元名が引用符で囲まれていることを確認します。</li> </ul> <p>計算スクリプトで次元名が [dimensionName] のように大カッコで囲まれていることを確認します。</p> <p>計算スクリプト内の ARRAY コマンドが有効であることを確認します。</p>
1012013	計算スクリプト・エラー- 予期しないファイルの終わりに到達しました	計算スクリプトにコメントの始まりを示す記号 /* が含まれていましたが、対となるコメントの終わりを示す記号 */ が含まれていませんでした。	コメントの末尾にコメントの終わりを示す記号 */ を追加してください。
1012015	制限付き計算では CALC ALL は使用できません	Essbase で、FIX-ENDFIX コマンド・ブロック内に CALC ALL コマンドが検出されました。	FIX-ENDFIX コマンド・ブロック内で CALC ALL コマンドを使用しないようにしてください。CALC ALL コマンドは、データベース全体を計算しますが、FIX コマンドは、データベースの一部のみを計算します。
1012016 関連トピック 1012017	次元メンバー memberName を制限付きメンバー memberName を使用して計算できません	計算スクリプトに、計算を同じ次元内の別のメンバーに制限した後でメンバーを計算しようとする計算が含まれていました。	FIX ステートメントでメンバーの位置が正しいことを確認します。メンバーを指定する場合、そのメンバーのみを計算できます。たとえば、次の FIX ステートメントは売上メンバーを対象としていますが、別のメンバーである利益を計算しようとするため、この FIX ステートメントは正しくありません: <pre>FIX(Sales) Profit; ENDFIX</pre> <p>次の FIX ステートメントは正しいです:</p> <pre>FIX (Sales) Sales; ENDFIX</pre>

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1012017 関連トピック 1012016	次元 dimensionName を制限付きメンバー memberName を使用して計算できません	計算スクリプトに、計算を同じ次元の特定のメンバーに制限した後で次元を計算しようとする計算が含まれていました。	FIX ステートメントで次元の位置が正しいことを確認します。メンバーを指定する場合、同じ次元にあるそのメンバーのみを計算できます。たとえば、次の FIX ステートメントは、メジャー次元の一部である売上メンバーを対象としていますが、メジャー次元全体を計算しようとするため、この FIX ステートメントは正しくありません:  FIX(Sales) CALC DIM Measures; ENDFIX
1012018	AGG コマンドで次元 dimensionName が再宣言されました	1 つの AGG コマンドで次元名が複数回宣言されました。	計算スクリプトを確認して、余分な次元名の宣言を削除してください。
1012019	計算スクリプトのブロック区切り文字 delimiterName は対になっていません delimiterName	計算スクリプトに左カッコまたは右カッコがありません。	計算スクリプトを確認して、足りないカッコを補うか、または余分なカッコを削除してください。
1012021	計算スクリプト・コマンド calculationScriptCommand は不完全です	リストされた計算スクリプト・コマンドは不完全でした。	計算スクリプト・コマンドで、関連するすべてのデータを指定していることを確認します。  ● ENDFIX コマンドのない FIX コマンドまたは ENDLOOP コマンドのない LOOP コマンドなど、開いているフロー制御コマンドはありませんか?  ● セミコロンが欠落していませんか?  ● 始まりのカッコすべてに対応する終わりのカッコがありますか?
1012023	密次元 dimensionName への集約は現在サポートされていません	Essbase では、密次元に対して AGG コマンドを使用できません。	計算スクリプトを確認して、密のタグの付いた次元で AGG コマンドを使用していないことを確認します。
1012024	次元 dimensionName を制限付きメンバー memberName で集約できません	計算スクリプトに、計算を同じ次元の特定のメンバーに制限した後で次元を集約しようとする計算が含まれています。	FIX ステートメントで次元の位置が正しいことを確認します。メンバーを指定する場合、そのメンバーのみを集約できます。たとえば、次の FIX ステートメントは売上メンバーを対象としていますが、次元であるメジャーを集約しようとするため、この FIX ステートメントは正しくありません:  FIX(Sales) AGG(Measures); ENDFIX  次の FIX ステートメントは正しいです:  FIX (Sales) AGG (Sales); ENDFIX

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1012025	このデータベースに設定されている通貨データベースはありません	Essbase で、通貨データベースが必要な計算を実行しようとしたが、通貨データベースが存在しませんでした。	<p>メイン・データベースが通貨データベースにリンクしていることを確認します。</p> <p>メイン・データベースが通貨データベースに接続できることを確認します。最初に、次の2つの手順を試します:</p> <p>アプリケーションを停止して再起動します。</p> <p>メイン・データベースが通貨データベースにリンクしていることを確認します。</p> <p>これらの手順で解決しない場合は、アプリケーションとメイン・データベースで次の手順を実行します:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. アプリケーションとメイン・データベースを停止します。</li> <li>2. メイン・データベース ARBORPATH/app/appName/databaseName/databaseName.db ファイルの名前を別の名前に変更します。</li> <li>3. 新規アプリケーションとデータベースを作成します。</li> <li>4. 手順3で作成した databaseName.db ファイルを手順1で停止したアプリケーションとデータベースに移動します。</li> <li>5. 手順1で停止したアプリケーションを再起動します。</li> </ol>
1012026	commandName コマンドを指定可能な対象は CURPARTITION メンバーのみです	Essbase で、CURPARTITION 次元に属していないメンバーを指定しようとした。	CCONV コマンドを使用する場合は、FIX コマンドに指定するすべてのメンバーが CURPARTITION 次元に属していることを確認します。
1012027	CURPARTITION とタグ付けされた次元はありません。commandName コマンドを指定可能なメンバーは存在しません	Essbase で、CURPARTITION 次元のメンバーを FIX で指定しようとしたが、CURPARTITION 次元がデータベースに定義されていません。	Essbase で、CURPARTITION 次元のメンバーを FIX で指定しようとしたが、CURPARTITION 次元がデータベースに定義されていません。
1012028	commandName コマンドは CURPARTITION メンバーに指定する必要があります	Essbase では、通貨パーティションが定義されていない場合、CCONV コマンドを使用できません。	CCONV コマンドを使用する場合は、FIX コマンドに指定するすべてのメンバーが CURPARTITION 次元に属していることを確認します。
1012029	DCOPY コマンドのターゲット範囲 range は無効です	DATACOPY コマンドで、ソース範囲のメンバー数とターゲット範囲のメンバー数が一致しません。	ソース範囲のメンバー数(コピー元のメンバーのセット)がターゲット範囲のメンバー数(コピー先のメンバーのセット)と一致することを確認します。DATACOPY コマンドが正しいことを確認します。

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1012030	DATACOPY コマンド command はそれ自体にデータをコピーできません	DATACOPY コマンドは、ソース範囲のメンバーの範囲をターゲット範囲にコピーするときに使用しません。DATACOPY コマンドを使用して、ソース範囲のメンバーの範囲をそのソース範囲にコピーすることはできません。	DATACOPY コマンドが正しい範囲をコピーするように設定されていることを確認します。ソース範囲とターゲット範囲を比較して、DATACOPY コマンドでデータをソース範囲にコピーしようとしていないことを確認します。
1012031	DATACOPY コマンド command は Range Fix と競合しています	Essbase で、指定した範囲外のメンバーの範囲をコピーしようとしていました。	DATACOPY 範囲と FIX 範囲を一致させるか、または DATACOPY 範囲を FIX 範囲のサブセットにして互換可能なものにします。
1012032	CURPARTITION をタグ付けすると、DATACOPY コマンド command が使用できるのは通貨パーティション全体のコピーのみになります	Essbase で、DATACOPY とともに FIX コマンドを使用して通貨パーティションをコピーしようとしていましたが、これは禁止されています。	通貨パーティションをコピーする場合は、DATACOPY コマンドで FIX コマンドを使用していないことを確認します。DATACOPY コマンドは、通貨パーティション全体をコピーするときに使用します。
1012033	通貨換算はこのサーバーでは使用できません。CALC コマンド commandName はサポートされていません	このコマンドは、通貨換算アプリケーションを使用している場合にのみ使用できます。	
1012034	変数 variableName は宣言されていません	計算スクリプトで使用された変数は宣言されていません。	変数を使用する前に、変数を正しく宣言していることを確認します。
1012035	変数 variableName は VAR 型にする必要があります	リストされた変数は ARRAY 型ではなく VAR 型にする必要があります。	変数を正しく宣言していることを確認します。
1012036	計算スクリプトのブロック・コマンド blockCommandName は blockEndCommandName で終了しません	Essbase で、閉じられていないブロック・コマンドが検出されました。	各 FIX コマンドを ENDFIX コマンドで閉じていることを確認します。各 LOOP コマンドを ENDLOOP コマンドで閉じていることを確認します。
1012037	kindOfShare 共有メンバー sharedMemberName のカスタム計算はできません	Essbase で、共有メンバーに対して式を計算しようとしていました。	共有メンバーにデータは格納されないため、共有メンバーには式を添付できません。メンバーのストレージ・プロパティが共有として明示的にタグ付けされているか、メンバーが暗黙的に共有されているので、リストされたメンバーは共有されていないことを確認します。

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1012038	定数 constantName が変数 variableName に割り当てられましたがこの定数は数値ではありません	Essbase で、数値でない値をリストされた変数に割り当てようとした。リストされた変数は数値のみを受け入れることができます。	変数を正しく宣言していることを確認します。
1012039	定数 constantName が配列変数 arrayVariableName に割り当てられましたがこの定数は数値ではありません	Essbase で、数値でない値をリストされた配列変数に割り当てようとした。リストされた配列変数は数値のみを受け入れることができます。	配列変数の割当てを正しく行ったかを確認します。
1012040	配列変数 arrayVariableName に割り当てられた初期定数が多すぎます	Essbase によって配列に割り当てようとした値の数が、関連次元のメンバー数を超えています。	ARRAY コマンドを正しく使用していることを確認します。 正しい次元に値を割り当てていることを確認します。
1012041	memberName は有効な通貨タイプ・メンバーではありません	Essbase で、CurType 次元に属していないメンバーを使用して通貨タイプを指定しようとした。	CCONV 関数を正しく使用していること、通貨データベースが正しく設定されていることを確認します。リストされたメンバーが通貨タイプ・メンバーとして定義されていることを確認します。
1012042	代替変数 substitutionVariableName は存在しません	計算スクリプトではリストされた代替変数を見つけられません。	代替変数を正しく作成していることを確認します。代替変数を正しいレベルで作成したことを確認してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>● データベース・レベルで作成した代替変数は、そのデータベース内のすべての計算スクリプトに対して使用できます。</li> <li>● アプリケーション・レベルで作成した代替変数は、そのアプリケーション内のすべての計算スクリプトに対して使用できます。</li> <li>● サーバー・レベルで作成した代替変数は、Essbase サーバーのすべての計算スクリプトに対して使用できます。</li> </ul>

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1012043	この計算スクリプトでは仮想メンバー memberName の計算はできません	計算スクリプトで動的計算メンバーの値を設定しようとしたか、または動的計算メンバーの計算を要求しようとした。	動的計算メンバーは、クエリーがメンバーの値を要求した場合にクエリー時に計算されます。計算スクリプトで計算することはできません。動的計算メンバーが式の左側でないことを確認します。たとえば、Qtr1 は動的計算なので、次の式は正しくありません：  Qtr1 = Jan + Feb + Mar;  Qtr1 が動的計算である場合、次の式も正しくありません：  vbb Qtr1;  Year が動的計算ではなく、Qtr1 と Qtr2 が動的計算の場合は、次の式は正しいです：  Year = Qtr1 + Qtr2;
1012044	ビットマップからの変換時の固定メンバー・カウント number が無効です		Oracle サポートに連絡してください。
1012045	関数 functionName ではビットマップを固定メンバーに変換できません		Oracle サポートに連絡してください。
1012046	関数 functionName では MEMNOR を MEMNO に変換できません		Oracle サポートに連絡してください。
1012047	属性次元 attributeDimensionName での集約は現在サポートされていません	Essbase で、AGG コマンドを使用してリストされた属性次元を計算しようとした。	AGG コマンドを使用して、属性次元を計算していないことを確認します。属性次元にはデータが保管されません。属性次元は、クエリーがメンバーの値を要求した場合にクエリー時に計算されます。
1012048	属性次元 attributeDimensionName での Calc Dim は現在サポートされていません	Essbase で、CALC DIM コマンドを使用してリストされた属性次元を計算しようとした。	CALC DIM コマンドを使用して、属性次元を計算していないことを確認します。属性次元にはデータが保管されません。属性次元は、クエリーがメンバーの値を要求した場合にクエリー時に計算されます。
1012049	属性次元メンバー memberName のデータを消去できません	Essbase で、リストされた属性次元からデータを消去しようとした。	属性次元にはデータが保管されません。属性次元は、クエリーがメンバーの値を要求した場合にクエリー時に計算されます。属性次元または属性次元のメンバーからデータを消去することはできません。
1012050	属性次元メンバー memberName で DATACOPY を実行できません	Essbase で、DATACOPY コマンドを使用してリストされた属性次元にデータをコピーしようとした。	DATACOPY コマンドを使用して、データを属性次元にコピーしていないことを確認します。属性次元にはデータが保管されません。属性次元は、クエリーがメンバーの値を要求した場合にクエリー時に計算されます。

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1012051	バッチ計算エラー。FIX ステートメントには次元 dimensionName からの動的計算メンバーを指定することはできません	Essbase で、動的計算メンバーを指定しようとした。	動的計算とタグ付けされたメンバーを指定していないことを確認します。動的計算メンバーにはデータが保管されません。属性次元は、クエリーがメンバーの値を要求した場合にクエリー時に計算されます。リストされたメンバーを指定するには、メンバーを動的計算から保管に変更します。
1012052	計算でエラーが検出された後はブロック固定を解除できません	計算によって変更されたデータ・ブロックが不整合な状態で残されていました。	データベースを停止して再起動するか、Oracle サポートに連絡します。Essbase では、すべての値を前の状態に戻すか、エラーの前に計算された値を保持します。Essbase による取消しの処理は、Essbase のカーネル分離レベル設定によって異なります。
1012053	計算はユーザーによって取り消されました	ユーザーは計算の実行中に「取消し」を押しました。Essbase では、すべての値を前の状態に戻すか、取消し前に計算された値を保持します。	Essbase による取消しの処理は Essbase のカーネル分離レベル設定によって異なります。
1012054	バッチ計算エラー。次元 dimensionName での計算が必要なすべてのメンバーは、2 パス計算および動的計算です	Essbase で、保管済メンバーを含んでいない次元を指定しようとした。	計算スクリプトで指定する次元の 1 つ以上のメンバーが保管とタグ付けされていることを確認します。1 つ以上の保管済メンバーが 2 パスとタグ付けされていないことを確認します。
1012055	式 inside FIX の結果は空集合になります。操作が中断されました	Essbase で、存在しないメンバーまたはメンバー・セットを指定しようとした。	計算スクリプトで指定するメンバーが有効であることを確認します。計算スクリプトで関数によって決定されたメンバー・セットを指定する場合、その関数が少なくとも 1 つのメンバーを戻すことを確認します。次の計算スクリプトは、1 月がレベル 0 メンバーなので正しくありません。1 月に子がないのに、計算スクリプトは 1 月の子を指定しようとしています：  FIX(@CHILDREN (January))    CALC DIM (Product); ENDFIX  Qtr1 はレベル 0 メンバーではないので、次の計算スクリプトは正しいです：  FIX(@CHILDREN (Qtr1))    CALC DIM (Product); ENDFIX
1012061	CALC コマンド commandName を使用できるのは CALC メンバー式のみです	Essbase でリストされたコマンドを実行できません。	IF コマンドと ELSE コマンドはメンバー式内で使用する必要があります。このコマンドは、計算スクリプトでは使用できません。
1012062	代替変数名 variable name が最大長 (number of characters 文字) を超えています	代替変数の名前が、許容される文字数を超えています。	変数の名前を変更して、文字の最大長を超えないようにします。

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1012063	非 Unicode 構成のアプリケーションでは、代替変数で UTF-8 エンコードされたデータを処理できません	Unicode でエンコードされたデータを非 Unicode アプリケーションで処理しようとした。	アプリケーションを Unicode モードに移行していることを確認します。
1012106	Calc String 関数 functionName の後には '(' を付ける必要があります	リストされた関数には左カッコ "(" が必要です。	関数名の後に左カッコを挿入し、関数パラメータをカンマで区切り、右カッコを挿入します。関数の構文を確認してください。
1012121	メンバー memberName の計算文字列 memberFormula のロード中にエラーが見つかりました。無視されました	1 つ以上の構文エラーが見つかったため、Essbase でメンバーに添付された式をコンパイルできませんでした。	構文エラーのリストについては、アプリケーション・ログ( <a href="#">HYPERION_HOME/logs/essbase/app/appName/appName.log</a> )を参照してください。構文エラーを訂正します。計算スクリプト・コマンドの構文を確認します。
1012134	世代番号 number は整数にする必要があります	Essbase で、整数でない世代番号が検出されました。	すべての世代の番号が整数であることを確認します。
1012135	レベル番号 number は整数にする必要があります	Essbase で、整数でないレベル番号が検出されました。	すべてのレベルの番号が整数であることを確認します。
1012136	名前付き世代 generationName は定義されていません	Essbase で、データベースで定義されていない世代名が検出されました。	データベースで世代名が正しく定義されていることを確認します。
1012137	名前付きレベル levelName は定義されていません	Essbase で、データベースで定義されていないレベル名が検出されました。	データベースでレベル名が正しく定義されていることを確認します。



メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1012139	会計次元に memberType メンバーはありません	リストされたメンバー・タイプは、勘定科目とタグ付けされた次元にはありませんでした。	<p>CALC FIRST、CALC LAST、CALC AVERAGE または CALC TWOPASS コマンドを使用している場合、アウトラインに勘定科目とタグ付けされた次元があり、勘定科目とタグ付けされた次元が次のメンバーを含んでいることを確認します:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● CALC FIRST コマンドを使用している場合、会計次元には期首のタイム・バランスのタグが付いたメンバーがなければなりません。</li> <li>● CALC LAST コマンドを使用している場合、会計次元には期末のタイム・バランスのタグが付いたメンバーがなければなりません。</li> <li>● CALC AVERAGE コマンドを使用している場合、会計次元には平均のタイム・バランスのタグが付いたメンバーがなければなりません。</li> <li>● CALC TWOPASS コマンドを使用している場合、会計次元には2パスというタグの付いたメンバーがなければなりません。</li> </ul>
1012141	一致文字 stringToMatch が不正です	@MATCH 関数で指定されたパターンが無効でした。	@MATCH 関数の構文を確認して、問題箇所を訂正します。
1012142	入力した inputValue は有効な世代/レベル名でも世代/レベル番号でもありません	Essbase で、無効な世代/レベル番号または世代/レベル名が検出されました。	すべての世代またはレベルの番号が整数であること、またはすべての世代またはレベルの名前が有効であることを確認します。メンバーの命名ルールと同じルールに従います。
1012143	@MATCH 検索文字列 stringToSearchFor は必ず二重引用符で囲む必要があります	リストされた文字列は引用符で囲まれていないので、Essbase で検索できませんでした。	@MATCH コマンド構文を確認します。

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1012500	要求された計算スクリプト calcScriptName は見つかりませんでした	Essbase でリストされた計算スクリプトを開けませんでした。	Essbase で計算スクリプトを見つけることができることを確認します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 計算スクリプト名とパスは正しいですか?スペルに間違いがないか確認します。</li> <li>● 計算スクリプトをUNIX プラットフォームで使用する場合、大文字と小文字は正しいですか?</li> <li>● 計算スクリプトが指定された場所にありますか?他のユーザーによって移動または削除されていないことを確認します。</li> </ul> Essbase で計算スクリプトを使用できることを確認します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 他のユーザーまたはアプリケーションで計算スクリプトが使用されていませんか?</li> <li>● 計算スクリプトのファイル拡張子は正しいですか?計算スクリプトのファイル拡張子は .csc にする必要があります。</li> <li>● 計算スクリプトは有効ですか?</li> <li>● 計算している Essbase データベースに対して権限が正しく設定されていますか?</li> </ul>
1012501	計算機の内部エラー。入力タイプ inputTypes は無効です	Essbase で計算スクリプトを読み取れませんでした。	クライアントが計算スクリプトの場所を Essbase サーバーに正しく渡していることを確認します。
1012550	計算の合計経過時間: number 秒	Essbase で計算の実行にかかった時間の長さ。	該当なし
1012551	データベース databaseName の通貨を currencyType に変換していません	Essbase でリストされたデータベースの通貨タイプを変換していません。	該当なし
1012552	rangeOfCells のデータをコピーしています	Essbase でリストされたセルの範囲のデータをコピーしています。	該当なし
1012553	rangeOfCells(固定メンバー memberNames)のデータをコピーしています	Essbase でリストされたセルの範囲のデータをコピーしています。	該当なし
1012554	partitionName パーティションのデータを消去しています	Essbase でリストされたパーティションのデータを消去しています。	該当なし

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1012555	partitionName パーティション(固定メンバー memberNames)のデータを消去しています	Essbase でリストされたパーティションのデータを消去しています。	該当なし
1012556	計算はユーザー userName によって取り消されました	リストされたユーザーが完了前に計算を取り消しました。	該当なし Essbase では、すべての値を前の状態に戻すか、取消し前に計算された値を保持します。Essbase による取消しの処理は、Essbase のカーネル分離レベル設定によって異なります。
1012557	partitionName パーティションのすべてのデータ・ブロックを消去しています	Essbase でリストされたパーティションのデータを消去しています。	該当なし
1012558	partitionName パーティション(固定メンバー memberNames)のすべてのデータ・ブロックを消去しています	Essbase でリストされたパーティションのデータを消去しています。	該当なし
1012559	partitionName パーティションの上位データ・ブロックを消去しています	Essbase でリストされたパーティションの上位レベル・データ・ブロックからデータを消去しています。	該当なし
1012560	partitionName パーティション(固定メンバー memberNames)の上位データ・ブロックを消去しています	Essbase でリストされたパーティションの上位レベル・データ・ブロックからデータを消去しています。	該当なし
1012561	partitionName パーティションの非入力データ・ブロックを消去しています	Essbase でリストされたパーティションの非入力データ・ブロックからデータを消去しています。	該当なし
1012562	partitionName パーティション(固定メンバー memberNames)の非入力データ・ブロックを消去しています	Essbase でリストされたパーティションの非入力データ・ブロックからデータを消去しています。	該当なし

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1012563	浮動小数点エラー errorType によって計算は中止されました	Essbase で、オーバーフロー、アンダーフローまたはゼロによる除算などの浮動小数点エラーが検出されたため、計算は取り消されました。	<ol style="list-style-type: none"> <li>浮動小数点エラーを訂正してください。            オーバーフロー・エラーは、2つの非常に大きい数を乗算しようとしたときに結果が大きくなりすぎてコンピュータ・ハードウェアが対応できない場合に発生します。            アンダーフロー・エラーは、非常に小さい数を非常に大きい数で除算しようとしたときに結果が小さくなりすぎてコンピュータ・ハードウェアが対応できない場合に発生します。            ゼロによる除算エラーは、1つのメンバーをゼロとなる他のメンバーで除算しようとしたときに発生します。</li> <li>データ値を前の状態に戻してください。            Essbase では、すべての値を前の状態に戻すか、取消し前に計算された値を保持します。Essbase による取消しの処理は Essbase カーネルの分離レベル設定によって異なります。</li> <li>計算を再度実行してください。</li> </ol>
1012564	浮動小数点エラーによって計算は中止されました	Essbase で、オーバーフロー、アンダーフローまたはゼロによる除算などの浮動小数点エラーが検出されたため、計算は取り消されました。	<ol style="list-style-type: none"> <li>浮動小数点エラーを訂正してください。            オーバーフロー・エラーは、2つの非常に大きい数を乗算しようとしたときに結果が大きくなりすぎてコンピュータ・ハードウェアが対応できない場合に発生します。            アンダーフロー・エラーは、非常に小さい数を非常に大きい数で除算しようとしたときに結果が小さくなりすぎてコンピュータ・ハードウェアが対応できない場合に発生します。            ゼロによる除算エラーは、1つのメンバーをゼロとなる他のメンバーで除算しようとしたときに発生します。</li> <li>データ値を前の状態に戻してください。            Essbase では、すべての値を前の状態に戻すか、取消し前に計算された値を保持します。Essbase による取消しの処理は Essbase カーネルの分離レベル設定によって異なります。</li> <li>計算を再度実行してください。</li> </ol>

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1012566	ループの開始--次のコマンドを number 回ループしています	Essbase で、計算スクリプト・コマンドをリストされた回数ループしています。	該当なし
1012567	ループの終了--上記のコマンドは実際には number 回ループしました	計算スクリプトで指定されたループは、Essbase でリストされた回数実行されました。	該当なし
1012568	ブロックのコミット間隔が number ブロックに調整されました	Essbase サーバーによって、パフォーマンスを最適化するためにブロックのコミット間隔が変更されました。	該当なし
1012569	メンバー memberName の式(または、そのメンバーからの後方依存)によって、強制的に逐次モードで計算を実行します	リストされたメンバーの式では、並列モードではなく逐次モードで計算を実行する必要があります。	該当なし 並列モードで計算を実行するには、式を削除するか、メンバーに動的計算のタグ付けをしてください。
1012570	次元 dimensionName が循環従属関係または再帰従属関係を伴う場合は、強制的に逐次モードで計算を実行します	リストされた次元に、並列モードではなく逐次モードで計算を実行する必要がある従属関係が含まれています。	該当なし 並列モードで計算を実行するには、式を削除するか、メンバーに動的計算のタグ付けをしてください。
1012571	変数または@XREF 関数を伴う式がある場合は、強制的に逐次モードで計算を実行します	計算は、並列モードではなく逐次モードで実行されます。	該当なし @XREF 関数を伴う変数を使用する式または計算スクリプトは、逐次モードで計算する必要があります。
1012600	メンバー memberName は欠落値、無効な値、またはゼロ付近の値で除算を試行しました(このメッセージは再表示されません)	リストされたメンバーを計算するときに、Essbase でゼロまたは欠落した値などの無効な値で除算を実行しようとした。	リストされたメンバーを計算した式または計算スクリプトを確認して、計算で使用したすべての値が有効であることを確認します。
1012667	サーバーに通貨換算オプションがありません。計算スクリプト・コマンド[CCONV]は無視されました	Essbase サーバーに通貨換算オプションがありません。	このコマンドは、通貨換算アプリケーションを使用している場合にのみ使用できます。
1012668	memberNames を固定メンバー memberNames で計算しています	Essbase で計算しているメンバーおよび固定されているメンバー。	該当なし
1012669	memberNames を計算中	Essbase で計算しているメンバー。	該当なし

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1012670	memberNames を固定メンバー memberName で集約しています	Essbase で集約しているメンバーおよび固定されているメンバー。	該当なし
1012671	memberNames を集約中	Essbase で集約しているメンバー。	該当なし
1012672	計算機情報メッセージ: messageInformation	Essbase でアクションを実行しています。要求に従って情報がログに記録されます。たとえば、SET MSG コマンドを使用する場合、計算に関する詳細はログに記録されます。	該当なし
1012674	計算に割り当てられたハッシュ・メモリー number を使い果たしました。ハッシュ・テーブルはオフになりました。essbase.cfg ファイルの CalcHashTblMemLimit を増やしてください。	Essbase にハッシュ・メモリーがなくなりました。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ESSBASEPATH/bin/ essbase.cfg がサーバー・コンピュータに存在しない場合、テキスト・エディタを使用してそのファイルを作成します。</li> <li>2. サーバー・コンピュータ上の essbase.cfg ファイルで、CALCHASHTBLMEMORY の値を追加するか、または大きくします。</li> <li>3. Essbase サーバーを停止して再起動します。</li> <li>4. 計算を再度実行してください。</li> </ol>
1012675	その計算に対するブロックのコミット間隔は number です	一度にコミットされるブロックの数。	該当なし
1012676	メンバー memberName は@POWER/@FACTORIAL 関数を実行しようとしています。引数が範囲外です。結果はバージョン 6.0 以前とは異なる場合があります(このメッセージは再表示されません)	値が大きすぎるため、Essbase で@POWER 関数または@FACTORIAL 関数を計算できません。	式または計算スクリプトが2の1,000,000乗などの非常に大きい値を要求していないことを確認します。
1012677	逐次計算中	Essbase サーバーは、計算スクリプトの計算を並列ではなく逐次に行っています。	計算を並列モードで実行することを要求した場合、HYPERION_HOME/logs/essbase/app/appName/appName.log を調べます。
<b>関連トピック</b>			
<a href="#">1012569</a>			
<a href="#">1012570</a>			
<a href="#">1012571</a>			

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1012678	number スレッドで並列計算中	Essbase サーバーは、リストされたスレッド数を使用して、計算スクリプトの計算を並列で実行しています。	該当なし CALCPARALLEL 構成設定または SET CALCPARALLEL 計算スクリプト・コマンドを使用して、スレッドの数を設定できます。リストされた数が CALCPARALLEL を使用して設定した値と異なる場合は、計算機によって、データベースの並列処理の最適な度合いとして、リストされた数が使用されます。
1012679	計算タスク・スケジュール number	同時に実行できるタスクの数。 これは、並列計算で期待できるパフォーマンス改善を示しています。数が大きいほど、より多くの並列計算を実行できます。	該当なし リストされた数が CALCPARALLEL 構成設定または SET CALCPARALLEL 計算スクリプト・コマンドを使用して指定したスレッドの数よりも小さい場合、並列計算によって大きいパフォーマンス改善を得ることはできません。
1012680	number タスク次元を使用して並列化しています。	Essbase で並列計算に使用しているタスク次元の数。 タスク次元の数がリストされた数よりも少ない場合、「計算機キャッシュの使用によってタスク次元に減少が発生しました」が表示されます。	該当なし タスク次元の数を設定するには、CALCPARALLEL 構成設定または SET CALCPARALLEL 計算スクリプト・コマンドを使用します。
1012681	空のタスク number	計算を含んでいないタスクの数。 空のタスクの数は、並列計算から得ることができるパフォーマンス改善に影響します。空のタスクの最適な数は 0 です。	該当なし
1012682	複数ビットマップ・モード計算機のキャッシュ・メモリーの使用率がビットマップの制限値 number を超えようとしています。制限値を無視するには、\$ESSBASEPATH/bin/essbase.cfg の MultipleBitmapMemCheck を TRUE に設定しないようにします。	計算機キャッシュ・メモリーによって、許可された値より大きいビットマップが使用されようとなりました。このため、Essbase によって計算が中止されました。	より大きいビットマップで計算を続行するには、サーバー・コンピュータ上の ESSBASEPATH/bin/essbase.cfg ファイルの MULTIPLEBITMAPCHECK を FALSE に設定します。

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1012683	複数ビットマップ・モード計算機のキャッシュ・メモリーの使用率がビットマップの制限値 number を超えました。制限値を適用するには、\$ESSBASEPATH/bin/essbase.cfg の MultipleBitmapMemCheck を TRUE に設定します。	計算機キャッシュ・メモリーでは、許可された値より大きいビットマップを使用しています。	これを防ぐには、サーバー・コンピュータ上の ESSBASEPATH/bin/essbase.cfg ファイルの MULTIPLEBITMAPCHECK を TRUE に設定します。
1012684	複数ビットマップ・モード計算機のキャッシュ・メモリーの使用率は、number ビットマップに制限されています。	計算機キャッシュで Essbase が使用できるビットマップの数。	該当なし
1012700	動的計算プロセッサはヒープの number を超えるブロックを割り当てられません。CalcLockBlock の設定値を大きくしてから再試行してください。	Essbase で計算を実行するために必要なブロック数を割り当てられません。	Essbase で計算に割り当てることができるブロックの数を増やします: <ol style="list-style-type: none"> <li>Essbase で割り当てることができるブロックの最大数を少なくとも 500 に設定します:  <ol style="list-style-type: none"> <li>ESSBASEPATH/bin/ essbase.cfg がサーバー・コンピュータに存在しない場合、テキスト・エディタを使用してそのファイルを作成します。</li> <li>サーバー・コンピュータ上の essbase.cfg ファイルで、CALCLOCKBLOCKHIGH を 500 に設定します。</li> <li>Essbase サーバーを停止して再起動します。</li> </ol> </li> <li>計算スクリプトの先頭に SET LOCKBLOCK HIGH コマンドを追加します。</li> <li>CALCLOCKBLOCKHIGH 設定で指定されたすべてのブロックを保持できる十分な大きさにデータ・キャッシュを設定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>ブロック・サイズを決定します。</li> <li>データ・キャッシュ・サイズを設定します。</li> </ul> </li> </ol>
1012701	動的計算中に ESM ブロックでもヒープ・ブロックでもない不明なブロックのタイプが見つかりました。Essbase の内部エラーです。Hyperion にご連絡ください。		Oracle サポートに連絡してください。
1012702	動的計算プロセッサのブロック配列のブロックが正しくマークされていません。Essbase の内部エラーです。Hyperion にご連絡ください。		Oracle サポートに連絡してください。



メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1012703	動的計算時の不明な計算タイプ calculationType です。デフォルトの集約/式/タイム・バランス操作のみが処理されます。		Oracle サポートに連絡してください。
1012704	動的計算プロセッサはこの計算で number を超える ESM ブロックをロックできません。CalcLockBlock 設定値を大きくしてから再試行してください(データ・キャッシュの設定が小さいことがこの問題の原因である可能性もあります。データ・キャッシュ・サイズの設定を確認してください)。	Essbase で計算を実行するために必要なブロックをロックできませんでした。	Essbase で計算に割り当てることができるブロックの数を増やします: <ol style="list-style-type: none"> <li>Essbase で割り当てることができるブロックの最大数を少なくとも 500 に設定します。 <ol style="list-style-type: none"> <li>ESSBASEPATH/bin/essbase.cfg がサーバー・コンピュータに存在しない場合、テキスト・エディタを使用してそのファイルを作成します。</li> <li>サーバー・コンピュータ上の essbase.cfg ファイルで、CALCLOCKBLOCKHIGH を 500 に設定します。</li> <li>Essbase サーバーを停止して再起動します。</li> </ol> </li> <li>計算スクリプトの先頭に SET LOCKBLOCK HIGH コマンドを追加します。</li> <li>CALCLOCKBLOCKHIGH 設定で指定されたすべてのブロックを保持できる十分な大きさにデータ・キャッシュを設定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>ブロック・サイズを決定します。</li> <li>データ・キャッシュ・サイズを設定します。</li> </ul> </li> </ol>
1012706	動的計算時に Esm ブロックをコピーする必要があります。Esm ブロックが見つかりません。Essbase の内部エラーです。Hyperion にご連絡ください。		Oracle サポートに連絡してください。
1012708	仮想時系列 timePeriod 取得の最新期間が設定されていません	Essbase で最新時間間隔がないまま、時系列データを取得しようとしました。	取得ツールで最新時間間隔メンバー名を設定してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>Essbase Spreadsheet Add-in の場合は、「最新時系列」オプションを指定します。『Oracle Essbase Spreadsheet Add-in ユーザー・ガイド』を参照してください。</li> <li>レポート・ライターの場合は、LATEST コマンドを使用します。</li> </ul>

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1012709	仮想時系列の最新期間の設定 timePeriod は時間次元のレベル 0 メンバーではありません	Essbase で最新時間間隔を取得しようとしたが、アウトラインの時間メンバーがレベル 0 ではありません。	期間累計値の計算に使用する期間が、時間のタグが付いた次元のレベル 0 メンバーであることを確認します。
1012710	動的に計算された一番上のブロックを計算するには Essbase が number Essbase カーネル・ブロックを取得する必要があります。	疎次元に従って動的計算を実行するために Essbase が取得する必要があるブロックの数。	該当なし この情報は、動的計算のタグが付いた疎次元のメンバーに対して検索を実行するときのパフォーマンスを予測するために使用できます。
1012711	partitionName パーティションの動的計算保管データ・ブロックを消去しています	Essbase でリストされたパーティションのデータ・ブロックを消去しています。	該当なし
1012712	partitionName パーティション(固定メンバー memberNames)の動的計算保管データ・ブロックを消去しています	Essbase でリストされたパーティションのデータ・ブロックを消去しています。	該当なし
1012713	2 パス・メンバー memberName は Dynamic Calc とタグ付けされていません。	リストされたメンバーは 2 パスとタグ付けされていますが、動的計算とタグ付けされていません。このメンバーは会計次元のメンバーではありません。	該当なし 通常、すべての 2 パス・メンバーに動的計算のタグを付けて、会計次元に置くことをお勧めします。
1012714	標準メンバー memberName は動的計算メンバー memberName に依存します。	リストされた標準メンバーは、その値を計算するときに動的計算メンバーに依存します。リストされたメンバーは、動的計算メンバーの親であるか、式で動的計算メンバーを使用する可能性があります。	動的計算メンバーに依存する標準メンバーを計算するために、バッチ計算中にリストされた動的計算メンバーを計算しているので、リストされたメンバーを動的計算とタグ付けする意味はなくなります。 リストされた動的計算メンバーを保管とタグ付けするか、または独立した標準メンバーを動的計算とタグ付けすることを検討してください。

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1012715	標準メンバー memberName は透過パーティションのメンバー memberName に依存します。このメンバーを動的にするか、その従属を複製することを検討してください。	リストされたメンバーは、透過パーティションのメンバーを使用して計算されます。	ソース・データベースの透過パーティションの値を使用してターゲット・データベースのメンバーを計算すると、計算の終了に時間がかかることがあります。計算速度を速くするには、次のいずれかの方法を使用します: <ul style="list-style-type: none"> <li>● ターゲット・データベースで、メンバーに動的計算のタグを付けます。</li> <li>● ソース・データベースで、ターゲット・メンバーの計算に必要なメンバーを上位メンバーにロールアップします。ソース・データベースの上位メンバーを複製パーティションに入れます。</li> </ul>
1012716	リモート領域 regionDefinition はまだ正しく検証されていません。計算は続行できません。	Essbase で、検証されていないリモート・パーティション領域が検出されました。	パーティション定義を開いて検証します。必要に応じて、エラーを訂正します。
1012717	リモート・ビットマップ・キャッシュは on/off です	ビットマップ・キャッシュのステータス(オンまたはオフ)。	該当なし ビットマップ・キャッシュをオンまたはオフにするかは、Essbase サーバーによって決定されます。ユーザーはこの設定を変更できません。
1012718	動的時系列の最新間隔 settingName には時系列メンバー memberName よりも高い世代のメンバーが設定されています	最新間隔は時系列メンバーよりも高い世代にあります。	アウトラインで、5月などの最新間隔設定が Q-T-D(四半期累計値)などの時系列メンバーよりも低く設定されていることを確認します。
1012727	動的計算キャッシュ・サニティが失敗しました		Oracle サポートに連絡してください。

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1012733	動的計算キャッシュ圧縮バッファがいっぱいです	動的計算キャッシュ・バッファがいっぱいになりました。	<p>動的計算キャッシュ圧縮バッファは、ESSBASEPATH/bin/essbase.cfg ファイルの DYNALCCACHEWAITFORBLK と DYNALCCACHEBLKRELEASE を TRUE に設定した場合にのみ使用できます。この問題を修正するには、次の手順を実行します:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ESSBASEPATH/bin/ essbase.cfg がサーバー・コンピュータに存在しない場合、テキスト・エディタを使用してそのファイルを作成します。</li> <li>2. サーバー・コンピュータ上の essbase.cfg ファイルで、DYNALCCACHECOMPRBLKBUFSIZE の値を大きくします。</li> <li>3. サーバー・コンピュータ上の essbase.cfg ファイルで、DYNALCCACHEWAITFORBLK と DYNALCCACHEBLKRELEASE を FALSE に設定します。</li> <li>4. Essbase サーバーを停止して再起動します。</li> </ol>
1012734	動的計算キャッシュからのブロックの待機中にタイム・アウトしました。	動的計算キャッシュでブロックが使用可能になるのを Essbase が待機していましたが、キャッシュがいっぱいでした。	<p>同時クエリーの数を減らして、キャッシュがいっぱいになるのを防ぎます。Essbase で動的計算キャッシュのブロックを待機する時間を増やします:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ESSBASEPATH/bin/ essbase.cfg がサーバー・コンピュータに存在しない場合、テキスト・エディタを使用してそのファイルを作成します。</li> <li>2. サーバー・コンピュータ上の essbase.cfg ファイルで、DYNALCCACHEBLKTIMEOUT の値を追加するか、または大きくします。</li> <li>3. Essbase サーバーを停止して再起動します。</li> </ol> <p>クエリーが動的計算キャッシュで使用可能なブロックを待機しないように指定します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ESSBASEPATH/bin/ essbase.cfg がサーバー・コンピュータに存在しない場合、テキスト・エディタを使用してそのファイルを作成します。</li> <li>2. サーバー・コンピュータ上の essbase.cfg ファイルで、DYNALCCACHEWAITFORBLK を FALSE に設定します。</li> <li>3. Essbase サーバーを停止して再起動します。</li> </ol>

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1012735	動的計算キャッシュから割り当てた際に、スレッド同期でエラーが発生しました。		Oracle サポートに連絡してください
1012736	データベース databaseName の Dyn.Calc.Cache には最大 number ブロックを保持できます。	リストされたデータベースの動的計算キャッシュで保持できるブロックの最大数です。	<p>該当なし</p> <p>動的計算キャッシュのブロックの数を変更するには、次の手順を実行してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ESSBASEPATH/bin/ essbase.cfg がサーバー・コンピュータに存在しない場合、テキスト・エディタを使用してそのファイルを作成します。</li> <li>2. サーバー上の essbase.cfg ファイルで、DYNCALCCACHEMAXSIZE を追加または変更します。</li> <li>3. Essbase サーバーを停止して再起動します。</li> </ol>

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1012737	データベース <code>databaseName</code> の <code>Dyn.Calc.Cache</code> がいっぱいになると、 <code>action</code> が発生します。	<p>動的計算キャッシュがいっぱいになると、Essbase によって次のアクションが実行されます:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <code>essbase.cfg</code> ファイルの <code>DYNCALCCACHEWAIT FORBLK</code> が <code>TRUE</code> の場合、Essbase は動的計算キャッシュで現在のクエリーのデータ・ブロックを保管および計算するのを待機します</li> <li>● <code>ESSEBASEPATH/bin/essbase.cfg</code> ファイルの <code>DYNCALCCACHEWAIT FORBLK</code> が <code>FALSE</code> の場合、Essbase では <code>DYNCALCCACHEONLY</code> を確認します <ul style="list-style-type: none"> <li>○ <code>DYNCALCCACHEONLY</code> が <code>TRUE</code> の場合、Essbase によってエラー・メッセージが生成されます</li> <li>○ <code>DYNCALCCACHEONLY</code> が <code>FALSE</code> の場合、Essbase では動的計算キャッシュの外部のメモリーで現在のクエリーのデータ・ブロックを保管および計算します</li> </ul> </li> </ul>	該当なし
1012738	データベース <code>databaseName</code> の <code>Dyn.Calc.Cache</code> は空きブロックの待機中に <code>number</code> 秒でタイム・アウトします。	<code>DYNCALCCACHEBLKTIME OUT</code> の現在の値。	該当なし

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1012739	データベース <code>databaseName</code> の <code>Dyn.Calc.Cache</code> が空きブロックの待機中にタイム・アウトすると、 <code>action</code> が発生します。	<p>指定された待機期間を過ぎると、Essbaseによって次のアクションが実行されず:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <code>ESSBASEPATH/bin/essbase.cfg</code> ファイルの <code>DYNCALCCACHEBLKRELEASE</code> が <code>TRUE</code> の場合、Essbaseによって非アクティブのブロックが一時的に個別の圧縮ブロック・バッファに保管され、動的計算キャッシュに使用可能なスペースが確保されます。</li> <li>● <code>ESSBASEPATH/bin/essbase.cfg</code> ファイルの <code>DYNCALCCACHEBLKRELEASE</code> が <code>FALSE</code> の場合、Essbaseによって、ブロックの別セットに対するスペースが動的計算キャッシュに確保されません。そのため、Essbaseでは <code>DYNCALCCACHEONLY</code> を確認します <ul style="list-style-type: none"> <li>○ <code>DYNCALCCACHEONLY</code> が <code>TRUE</code> の場合、Essbaseによってエラー・メッセージが生成されます</li> <li>○ <code>DYNCALCCACHEONLY</code> が <code>FALSE</code> の場合、Essbaseでは動的計算キャッシュの外部のメモリーで現在のクエリーのデータ・ブロックを保管および計算します。</li> </ul> </li> </ul>	該当なし

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1012740	データベース databaseName の Dyn.Calc.Cache は圧縮解放ブロックを保管するために number バイトのサイズのバッファを使用します。	DYNCALCCACHECOMPRB LKBUFSIZE の現在の値。	該当なし
1012741	動的計算キャッシュ以外への割当ては許可されていません	DYNCALCCACHEONLY の現在の値は TRUE です。	該当なし
1012742	属性計算の 2 パス計算でメンバー memberName がスキップされました	リストされたメンバーは、2 パス計算時にスキップされました。リストされたメンバーにメンバー式がないか、またはリストされたメンバーに実行時依存関係があります。実行時依存関係には、@CURRMBR、@PARENT、@PARENTVAL、@MDPARENTVAL、@ANCEST、@ANCESTVAL および@MDANCESTVAL があります。	該当なし
1012750	「取得およびロック」操作は属性セルではサポートされていません	Essbase では、リレーショナル・パーティションに属するセルを更新できません。	更新するセルがリレーショナル・パーティションに属していないことを確認します。



## 7

## 1013000 - 1013999: リクエスト・メッセージ

表 7

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1013009	管理者が一時的にユーザー・コマンドを使用できなくしています。	このメッセージは、データベースの再構築中、またはサーバー上のアプリケーション/データベースのコピー中に表示されます。  キューブの再構築中は、キューブの整合性を保つ必要があり、アクセスが許可されていないため、コマンドが制限されます。  アプリケーションをコピーするには、Essbase のセキュリティ・ファイルが読取り/書込みモードであることが必要なため、プロセスが完了するまで他のアプリケーションにアクセスできません。	アプリケーション設定で、「コマンドを許可」または「更新を許可」オプションが選択されていないことを確認してください。
1013136	ログイン ID が無効です。 - 再度ログインしてください。	EsbOtlRestructure VB API 関数を使用したアウトラインの再構築はエラーの原因になります。  この関数を使用するには、アウトライン・オブジェクトが含まれている指定したアプリケーションまたはデータベース(あるいはその両方)に対して、適切なレベルのアクセス権限を持っている必要があります。	アウトラインを含む指定したアプリケーションまたはデータベースに対する、アプリケーション・デザイナー権限またはデータベース・デザイナー権限(ESB_PRIV_APPDESIGN または ESB_PRIV_DBDESIGN)を持っていることを確認してください。



## 8

## 1014004 - 1014043: ロック・マネージャ・メッセージ

表 8 にロック・マネージャのエラー・メッセージと情報メッセージを示します。

表 8 ロック・マネージャ・メッセージ 1014004 - 1014043

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1014004	ロックされていないメンバーは更新できません	メンバーはロックされていないので、Essbase で更新できません。	他のアクティブ・ユーザーのプロセスが終了するまで数分待ってから、操作を再試行してください。  他のユーザーがファイルをロックしていないかどうかを確認します(158 ページの「オブジェクトのロック解除」を参照してください)。  NETDELAY と NETRETRYCOUNT の値を増やします(158 ページの「NETDELAY および NETRETRYCOUNT の設定」を参照してください)。
1014018	メンバーは現在別のトランザクションがロックしています	メンバーは別のユーザーによってロックされているので、Essbase で更新できません。	他のアクティブ・ユーザーのプロセスが終了するまで数分待ってから、操作を再試行してください。  他のユーザーがファイルをロックしていないかどうかを確認します(158 ページの「オブジェクトのロック解除」を参照してください)。  このエラーが頻繁に発生する場合は、ユーザーが Essbase から正しくログオフしていることを確認します。
1014025	読取り専用モードのデータベースを更新してバックアップすることはできません	データベースは読取り専用モードなので、Essbase で更新できません。	BEGINARCHIVE コマンドで始まり、ENDARCHIVE コマンドで終わるアーカイブ・プロセスが終了するまで待ちます。  アーカイブ・プロセスが終了したら、管理者は必ず ENDARCHIVE コマンドを発行してください。  ESSCMD を使用している場合は、アーカイブ・プロセスが完了してから次のプロセスが開始されるようにするため、スリープ・コマンドを追加する必要があります。

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1014026	要求されたロックは現在別のトランザクションによって保留されています。現在待機はできません。	オブジェクトは現在別のトランザクションによってロックされているので、Essbase でロックできません。	<p>他のアクティブ・ユーザーのプロセスが終了するまで数分待ってから、操作を再試行してください。</p> <p>他のユーザーがファイルをロックしていないかどうかを確認します(158 ページの「<a href="#">オブジェクトのロック解除</a>」を参照してください)。</p> <p>自動的に待機して、操作を再試行するように Essbase を設定します。</p> <p>このエラーが頻繁に発生する場合は、ユーザーが Essbase から正しくログオフしていることを確認します。</p>
1014027	トランザクション transactionHandle はトランザクション transactionHandle でデッドロックされています。	Essbase で、2 人以上のユーザーが同時に同じ 2 つのブロックを反対の順序でロックしようとしているので、トランザクションを完了できません。たとえば、user1 はブロック 1、ブロック 2 の順にアクセスしようとし、user2 はブロック 2、ブロック 1 の順にアクセスしようとした。	<p>2 人のユーザーが同時に同じブロックで計算を実行していないことを確認します。</p> <p>このエラーが頻繁に発生する場合は、「更新モード」オプションを選択解除するようにスプレッドシート・ユーザーに指示します。『Oracle Essbase Spreadsheet Add-in ユーザー・ガイド』を参照してください。</p>
1014028	トランザクション transactionHandle はトランザクション transactionHandle を待機しています。	Essbase で、現在のトランザクションがデッドロックされたトランザクションを待機しているため、トランザクションを完了できません。	<p>2 人のユーザーが同時に同じブロックで計算を実行していないことを確認します。</p> <p>このエラーが頻繁に発生する場合は、「更新モード」オプションを選択解除するようにスプレッドシート・ユーザーに指示します。『Oracle Essbase Spreadsheet Add-in ユーザー・ガイド』を参照してください。</p>

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1014031 <b>関連トピック</b> <a href="#">1014032</a>	Essbase は指定された待機時間内にロックされませんでした。	Essbase によってユーザー指定の待機時間内にオブジェクトをロックできませんでした。	<p>他のアクティブ・ユーザーのプロセスが終了するまで数分待ってから、操作を再試行してください。</p> <p>Essbase で自動的にロックを待機する時間を増やします。</p> <p>他のユーザーがファイルをロックしていないかどうかを確認します(158 ページの「<a href="#">オブジェクトのロック解除</a>」を参照してください)。</p> <p>NETDELAY と NETRETRYCOUNT の値を増やします(158 ページの「<a href="#">NETDELAY および NETRETRYCOUNT の設定</a>」を参照してください)。</p> <p>このエラーが頻繁に発生する場合は、計算が完了する前にユーザーが複雑な計算を開始しておらず、Essbase からログオフしていないことを確認します。</p> <p>Essbase サーバーを停止して再起動します。その後、データベースが破損しているかどうかを確認します(156 ページの「<a href="#">データベース破損の確認</a>」を参照してください)。</p> <p>スプレッドシート・ユーザーがオブジェクトをロックしているためにこのエラーが発生する場合は、次の手順に従って、LOCKTIMEOUT の値を大きくしてください。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ESSBASEPATH/bin/essbase.cfg がサーバー・コンピュータに存在しない場合、テキスト・エディタを使用してそのファイルを作成します。</li> <li>2. サーバー・コンピュータ上の ESSBASEPATH/bin/essbase.cfg ファイルで、LOCKTIMEOUT の値を追加するか、または大きくします。</li> <li>3. Essbase サーバーを停止して再起動します。</li> </ol>

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1014032 関連トピック 1014031	Essbase はロックされませんでした。Essbase は指定された待機時間まで試行します。	Essbase でオブジェクトをロックできませんでした。このメッセージは、オブジェクトがロックされるまで、またはユーザー指定の待機時間に到達するまで 30 秒ごとに繰り返されます。	<p>他のアクティブ・ユーザーのプロセスが終了するまで数分待ってから、操作を再試行してください。</p> <p>他のユーザーがファイルをロックしていないかどうかを確認します(158 ページの「<a href="#">オブジェクトのロック解除</a>」を参照してください)。</p> <p>NETDELAY と NETRETRYCOUNT の値を増やします(158 ページの「<a href="#">NETDELAY および NETRETRYCOUNT の設定</a>」を参照してください)。</p> <p>このエラーが頻繁に発生する場合は、計算が完了する前にユーザーが複雑な計算を開始しておらず、Essbase からログオフしていないことを確認します。</p> <p>Essbase サーバーを停止して再起動します。その後、データベースが破損しているかどうかを確認します(156 ページの「<a href="#">データベース破損の確認</a>」を参照してください)。</p> <p>スプレッドシート・ユーザーがオブジェクトをロックしているためにこのエラーが発生する場合は、次の手順に従って、LOCKTIMEOUT の値を大きくしてください。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ESSBASEPATH/bin/essbase.cfg がサーバー・コンピュータに存在しない場合、テキスト・エディタを使用してそのファイルを作成します。</li> <li>2. サーバー・コンピュータ上の ESSBASEPATH/bin/essbase.cfg ファイルで、LOCKTIMEOUT の値を追加するか、または大きくします。</li> <li>3. Essbase サーバーを停止して再起動します。</li> </ol>
1014033	ロック・マネージャ・イベントを割り当てられませんでした。operation は中止されました	メモリー不足のため、Essbase でロック・マネージャ・イベントを割り当てることができません。	サーバー・コンピュータ上の物理メモリーを確認します。Windows 環境の場合、1つのデータベースに推奨される最小メモリーは 64 MB です。UNIX 環境の場合、1つのデータベースに推奨される最小メモリーは 128 MB です。引き続きエラーが発生する場合は、サーバー・コンピュータにより多くのメモリーを追加します。
1014034	ロック・マネージャ・イベントを作成できませんでした。operation は中止されました		Oracle サポートに連絡してください。

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1014035	ロック・マネージャ・ウェイト・ノードを割り当てできませんでした。operation は中止されました	メモリー不足のため、Essbase でロック・マネージャ・ウェイト・ノードを割り当てることができません。	サーバー・コンピュータ上の物理メモリーを確認します。Windows 環境の場合、1つのデータベースに推奨される最小メモリーは 64 MB です。UNIX 環境の場合、1つのデータベースに推奨される最小メモリーは 128 MB です。引き続きエラーが発生する場合は、サーバー・コンピュータにより多くのメモリーを追加します。
1014036	ロック要求はブロックされますが待機はできません。	このトランザクションでロックしようとしているブロックは別のトランザクションによってロックされています。現在、Essbase は待機を許可しないように構成されているので、現在のトランザクションはブロックをロックするために待機できません。	ブロックをロックするために指定された時間待機するように Essbase を設定します。
1014039	データベース databaseName は読取り専用モードに設定されているため、書込み操作を実行できません。	リストされたデータベースは、管理者がデータベースをバックアップする目的で BEGINARCHIVE コマンドを発行したために、読取り専用モードになっています。	BEGINARCHIVE コマンドで始まり、ENDARCHIVE コマンドで終わるアーカイブ・プロセスが終了するまで待ちます。アーカイブ・プロセスが終了したら、ENDARCHIVE コマンドを発行してください。
1014040	現在のスレッドのハンドルを取得できませんでした。operation は中止されました		Oracle サポートに連絡してください。
1014041	現在のスレッドの基本優先度を取得できませんでした。operation は中止されました		Oracle サポートに連絡してください。
1014042	現在のスレッドの高優先度を取得できませんでした。operation は中止されました		Oracle サポートに連絡してください。
1014043	データベース databaseName でロックを解除している間にエラーが発生しました。	Essbase で書込みロックが解除されるのを待機している間にエラーが発生しました。	Oracle サポートに連絡してください。





# 9

## 1019002 - 1019056: データベース・オブジェクト・メッセージ

表 9 にデータベース・オブジェクトのエラー・メッセージと情報メッセージを示します。

表 9 データベース・オブジェクト・メッセージ 1019002 - 1019056

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
<p>1019002</p> <p><b>関連トピック</b></p> <p><a href="#">1019003</a></p>	<p>fileName が見つかりません。または開けません</p>	<p>Essbase でリストされたファイルが見つかりません。リストされたファイルがない場合は Essbase を実行できません。データベースのデータは、異常シャットダウンが原因で破損している可能性があります。</p>	<p>ファイルが存在することを確認します。ファイルが存在しない場合、バックアップからファイルを復元します。</p> <p>ファイルとディレクトリに対する正しいオペレーティング・システム権限があることを確認します。</p> <p>ESSCMD を使用している場合は、ファイル名とパスが正しいことを確認します。UNIX の場合は、大文字と小文字が正しいことも確認します。</p> <p>十分なディスク・スペースがあることを確認します。UNIX の場合は、ルート・パーティションに十分なスペースがあることを確認します。</p> <p>ファイルが <code>essbase.sec</code> の場合、破損しているかどうかを確認します。</p> <p>UNIX の場合、ユーザー制限プロファイルを確認します(<a href="#">157 ページの「ユーザー制限プロファイルの確認」</a>を参照してください)。</p> <p>アプリケーションを、ファイル・システム・コントロール(Windows エクスプローラまたは <code>cp</code> あるいは <code>rm</code> コマンド)を使用してコピーまたは削除した場合は、元の名前でダミー・アプリケーションを作成し、Essbase を使用してアプリケーションを正しくコピーまたは削除します。</p> <p>ファイルがルール・ファイルである場合は、そのファイルが正しいアウトラインと関連付けられていることを確認します。</p> <p>アプリケーションを停止して再起動します。</p> <p>Essbase サーバーを停止して再起動します。</p> <p>リストされたファイルが ARBORPATH/app/appName/ databaseName/databaseName.db である場合は、ファイルをバックアップに置き換えます(<a href="#">157 ページの「バックアップを使用したデータベース・ファイルの置換」</a>を参照してください)。</p> <p>リストされたファイルが ARBORPATH/app/appName/ databaseName/databaseName.ind である場合は、データ・ファイルを削除して再ロードします。データ・</p>

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
			<p>ファイルを削除すると、データベースのすべてのデータが削除されるので、データベースを再ロードして再計算する必要があります。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Essbase サーバーを停止します。</li> <li>2. databaseName.ind、Essxxx.ind、Essxxx.pag、databaseName.esm および databaseName.tct ファイルを削除します。</li> <li>3. Essbase サーバーを再起動します。</li> <li>4. データベースをリロードし、再計算します。</li> <li>5. データベースが破損しているかどうかを確認します(<a href="#">156 ページの「データベース破損の確認」</a>を参照してください)。</li> </ol>

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1019003 <b>関連トピック</b> <a href="#">1019002</a>	fileName の情報を読み取れません	Essbase でリストされたファイルから読み取れません。	<p>リストされたファイルが存在することを確認します。ファイルが存在しない場合、バックアップからファイルを復元します。</p> <p>アプリケーションを、ファイル・システム・コントロール(Windows のエクスプローラまたは cp あるいは rm コマンド)を使用してコピーまたは削除した場合は、元の名前でダミー・アプリケーションを作成し、Essbase を使用してアプリケーションを正しくコピーまたは削除します。</p> <p>十分なディスク・スペースがあることを確認します。</p> <p>他のユーザーがファイルをロックしていないかどうかを確認します(<a href="#">158 ページの「オブジェクトのロック解除」</a>を参照してください)。</p> <p>Essbase Spreadsheet Add-in を使用している場合は、取得バッファ・サイズを少なくとも 50 KB に増やします。</p> <p>データベースが破損しているかどうかを確認します(<a href="#">156 ページの「データベース破損の確認」</a>を参照してください)。</p> <p>リストされたファイルが ARBORPATH/App/appName/ databaseName/databaseName.db である場合は、ファイルをバックアップに置き換えます(<a href="#">157 ページの「バックアップを使用したデータベース・ファイルの置換」</a>を参照してください)。</p> <p>リストされたファイルが ARBORPATH/app/appName/ databaseName/databaseName.ind である場合は、バックアップからファイルを復元してみます。復元できない場合は、データ・ファイルを削除して再ロードします。データ・ファイルを削除すると、データベースのすべてのデータが削除されるので、データベースを再ロードして再計算する必要があります。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>Essbase サーバーを停止します。</li> <li>databaseName.ind、Essxxx.ind、Essxxx.pag、databaseName.esm および databaseName.tct ファイルを削除します。</li> <li>Essbase サーバーを再起動します。</li> </ol>

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
			4. データベースをリロードします。 5. データベースを再計算します。

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1019004	<p>情報をファイル fileName に書き込めません。errno は operatingSystemErrorNumber です。</p>	<p>Essbase でリストされたファイルに書き込めません。</p>	<p>リストされたファイルが存在することを確認します。ファイルが存在しない場合、バックアップからファイルを復元します。</p> <p>十分なディスク・スペースがあることを確認します。</p> <p>次の環境変数が正しく設定されていることを確認します(155 ページの「環境変数の設定」を参照してください):</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ESSBASEPATH (PC および UNIX)</li> <li>● PATH (PC および UNIX)</li> <li>● LD_LIBRARY_PATH (UNIX のみ)</li> </ul> <p>UNIX コンピュータの場合、ユーザー制限プロファイルを確認します(157 ページの「ユーザー制限プロファイルの確認」を参照してください)。</p> <p>データ圧縮を使用してページ・ファイルのサイズを制限していることを確認します。</p> <p>リストされたファイルが ARBORPATH/app/appName/ databaseName/databaseName.db である場合は、ファイルをバックアップに置き換えます(157 ページの「バックアップを使用したデータベース・ファイルの置換」を参照してください)。</p> <p>リストされたファイルが ARBORPATH/app/appName/ databaseName/databaseName.ind である場合は、バックアップからファイルを復元してみます。復元できない場合は、データ・ファイルを削除して再ロードします。データ・ファイルを削除すると、データベースのすべてのデータが削除されるので、データベースを再ロードして再計算する必要があります。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Essbase サーバーを停止します。</li> <li>2. databaseName.ind、Essxxx.ind、Essxxx.pag、databaseName.esm および databaseName.tct ファイルを削除します。</li> <li>3. Essbase サーバーを再起動します。</li> <li>4. データベースをリロードします。</li> <li>5. データベースを再計算します。</li> </ol>

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1019005	fileName を読み取れません。認識されないフォーマットです	Essbase でリストされたファイルを読み取れません。	<p>可能な場合は、バックアップからファイルを復元します。</p> <p>リストされたファイルが ARBORPATH/app/appName/ databaseName/databaseName.db である場合は、ファイルをバックアップに置き換えます(157 ページの「バックアップを使用したデータベース・ファイルの置換」を参照してください)。</p> <p>リストされたファイルが ARBORPATH/app/appName/ databaseName/databaseName.ind である場合は、バックアップからファイルを復元してみます。復元できない場合は、データ・ファイルを削除して再ロードします。データ・ファイルを削除すると、データベースのすべてのデータが削除されるので、データベースを再ロードして再計算する必要があります。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Essbase サーバーを停止します。</li> <li>2. databaseName.ind、Essxxx.ind、Essxxx.pag、databaseName.esm および databaseName.tct ファイルを削除します。</li> <li>3. Essbase サーバーを再起動します。</li> <li>4. データベースをリロードします。</li> <li>5. データベースを再計算します。</li> </ol>
1019006	fileName を読み取れません。前のバージョンで作成されています	Essbase でリストされたファイルを読み取れません。	<p>データベースが破損しているかどうかを確認します(156 ページの「データベース破損の確認」を参照してください)。</p> <p>リストされたファイルは破損している可能性があります。可能な場合は、バックアップからファイルを復元します。</p>
1019007	fileName を読み取れません。タイプが名前と一致しません	リストされたファイルのタイプがファイルのコンテンツと一致しません。リストされたファイルは破損している可能性があります。	<p>データベースが破損しているかどうかを確認します(156 ページの「データベース破損の確認」を参照してください)。</p> <p>リストされたファイルは破損している可能性があります。可能な場合は、バックアップからファイルを復元します。</p>

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1019008	appName のアプリケーション定義の読取り中です	Essbase でリストされたアプリケーションのアプリケーション定義を読み取っています。	該当なし
1019009	databaseName のデータベース定義の読取り中です	Essbase でリストされたデータベースのデータベース定義を読み取っています。	該当なし
1019010	appName のアプリケーション定義の書込み中です	Essbase でリストされたアプリケーションのアプリケーション定義を書き込んでいます。	該当なし
1019011	databaseName のデータベース定義の書込み中です	Essbase でリストされたデータベースのデータベース定義を書き込んでいます。	該当なし
1019012	データベース databaseName のアウトラインの読取り中です	Essbase でリストされたデータベースのアウトライン定義を読み取っています。	該当なし
1019013	データベース databaseName のアウトラインの書込み中です	Essbase でリストされたデータベースのアウトラインをディスクに書き込んでいます。	該当なし
1019014	データベース databaseName の情報を書き込めません	Essbase ではリストされたデータベースが見つかりません。	データベース名が正しいことを確認します。 データベースが指定した場所に存在することを確認します。
1019015	データベース databaseName のデータベース・アウトラインはすでにロードされています	リストされたデータベースのデータベース・アウトラインはロードされています。	データベースを 2 回以上ロードしようとしないでください。
1019017	データベース databaseName のパラメータの読取り中です	Essbase でリストされたデータベースのパラメータを読み取っています。	該当なし
1019018	データベース databaseName のパラメータの書込み中です	Essbase でリストされたデータベースのパラメータを書き込んでいます。	該当なし
1019019	データベース databaseName のデータ・ファイル空きスペース情報の読取り中です	Essbase でリストされたデータベースの空きスペースを読み取っています。	該当なし 空きスペース情報は ARBORPATH/ app/appName/databaseName/ databaseName.ind ファイルに保管されています。空きスペースが大量に存在する場合、空きスペース情報の読取りに時間がかかる可能性があります。



メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1019020	データベース databaseName の空きスペース情報の書き込み中です	Essbase でリストされたデータベースの空きスペースを書き込んでいます。	該当なし 空きスペース情報は、データベースがシャットダウンされたとき、データベースが読取り専用モードに設定されたとき、およびデータベースが回復されたときにディスクに書き込まれます。
1019021	databaseName のデータベース・マッピングの読取り中です	Essbase でリストされたデータベースのデータベース情報を読み取っています。	該当なし
1019022	databaseName のデータベース・マッピングの書き込み中です。	Essbase でリストされたデータベースのデータベース情報を書き込んでいます。	該当なし
1019024	データベース databaseName のアウトライン・トランザクションの読取り中です	Essbase で ARBORPATH/app/appName/databaseName/databaseName.otn ファイルからアウトライン更新を読み取っています。	該当なし
1019025	データベース databaseName のルール・オブジェクトからのルールの読取り中です	Essbase でリストされたデータベースのルール・ファイルを読み取っています。	該当なし
1019026	不明のメンバー memberName が文字列 string の処理中に見つかりました	Essbase ではリストされた文字列がアウトラインのメンバーとして認識されません。	メンバー名が有効であることを確認します。メンバー名はルール・ファイルにあります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 正しいルール・ファイルを使用していますか?</li> <li>● ルール・ファイルは正しいアウトラインと接続していますか?</li> <li>● ルール・ファイルを検証できますか?</li> <li>● メンバー名または変数名は、必要に応じて引用符で囲まれていますか?</li> <li>● 該当するメンバーがアウトラインに存在していますか?存在していない場合、次元構築中にアウトラインを変更してメンバーを追加するか、アウトライン・エディタでメンバーを追加できません。</li> <li>● メンバーがルール・ファイルでヘッダーとして指定されていないことを確認します。</li> </ul>

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1019028	ディスク・スペースがなくなりました。情報をファイル fileName に書き込めません	Essbase にディスク・スペースがないため、リストされたファイルに書き込めません。	十分なディスク・スペースがあることを確認します。
1019031	fileName を書き込めません。データベースはバックアップのため読取り専用モードになっています	Essbase でリストされたファイルに書き込めません。データベースが読取り専用モードになっています。	BEGINARCHIVE コマンドで始まり、ENDARCHIVE コマンドで終わるアーカイブ・プロセスが終了するまで待ちます。アーカイブ・プロセスが終了したら、管理者は必ず ENDARCHIVE コマンドを発行してください。  ESSCMD を使用している場合は、アーカイブ・プロセスが完了してから次のプロセスが開始されるようにするため、スリープ・コマンドを追加する必要があります。  ESSCMD を使用していて問題が解決しない場合は、UNLOADAPP コマンドを使用してメモリーからアプリケーションを削除し、LOADAPP コマンドを発行してメモリーにアプリケーションを再ロードした後、データベースが読取り専用モードでないことを確認します。
1019032	fileName を書き込めません。データベースはアーカイブのため読取り専用モードになっています	Essbase でリストされたファイルに書き込めません。データベースが読取り専用モードになっています。	BEGINARCHIVE コマンドで始まり、ENDARCHIVE コマンドで終わるアーカイブ・プロセスが終了するまで待ちます。アーカイブ・プロセスが終了したら、管理者は必ず ENDARCHIVE コマンドを発行してください。  ESSCMD を使用している場合は、アーカイブ・プロセスが完了してから次のプロセスが開始されるようにするため、スリープ・コマンドを追加する必要があります。  ESSCMD を使用していて問題が解決しない場合は、UNLOADAPP コマンドを使用してメモリーからアプリケーションを削除し、LOADAPP コマンドを発行してメモリーにアプリケーションを再ロードした後、データベースが読取り専用モードでないことを確認します。
1019034	データベース databaseName のアウトライン変更ログの読取り中です	Essbase で ARBORPATH/ app/appName/ databaseName/ databaseName.oc1 ファイルからアウトライン変更を読み取っています。	該当なし

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1019035	データベース databaseName のアウトライン変更ログの書き込み中です	Essbase でアウトライン変更を ARBORPATH/app/appName/databaseName/databaseName.oc1 ファイルに書き込んでいます。	該当なし
1019036	次元番号 number はデータベース databaseName では無効です	Essbase では、アウトラインの各次元に次元インデックス番号を割り当てます。割り当てられた次元インデックス番号が有効ではありません。番号が、アウトラインの次元数よりも大きい可能性があります。	データベースが破損しているかどうかを確認します(156 ページの「データベース破損の確認」を参照してください)。 アウトライン・ファイルが破損している場合、バックアップから復元します。
1019037	メンバー番号 memberName はデータベース databaseName では無効です	Essbase では、各次元の各メンバーにメンバー・インデックス番号を割り当てます。割り当てられたメンバー・インデックス番号が有効ではありません。番号が、次元のメンバー数よりも大きい可能性があります。	データベースが破損しているかどうかを確認します(156 ページの「データベース破損の確認」を参照してください)。 必要に応じて、バックアップからアウトライン・ファイルを復元します。
1019038	DB ファイルが欠落しています。	Essbase で ARBORPATH/app/appName/databaseName/databaseName.db ファイルが見つかりません。	ARBORPATH/app/appName/databaseName/databaseName.db が存在する場合、その名前を databaseNameOld.db に変更します。databaseName.dbb バックアップ・ファイルを databaseName.db に変更します。 databaseName.db が存在しない場合、databaseName.dbb ファイルを databaseName.db に変更します。 databaseName.dbb が存在しない場合、バックアップから databaseName.db ファイルを復元します。
1019039	ファイル fileName に書き込めません。オブジェクトのタイプ type が無効なためです。Essbase のインストールおよび構成が正しく行われていることを確認してください。	Essbase でリストされたファイルに書き込めません。	Essbase が正しくインストールされていることを確認します。必要な場合は、Essbase を再インストールします。

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1019040	アプリケーションのシャット・ダウン中であるためファイル fileName に書き込めません	アプリケーションが終了中のため、Essbase でリストされたファイルに書き込めません。	<p>この問題の再発を防ぐため、Essbase からログオフして、Essbase を正しくシャットダウンしてください。</p> <p>ログオフしてシャットダウンするには、次のすべての手順を試します:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ユーザーとして、Administration Services または Spreadsheet Add-in を終了します。</li> <li>2. 前の手順で解決しない場合は、管理者にユーザーを切断してもらいます。</li> <li>3. 前の手順で解決しない場合は、ロックされたオブジェクトのロックを解除して(158 ページの「オブジェクトのロック解除」を参照してください)、データベースをアンロードし、データベースを停止して、再度ユーザーの切断を試行します。</li> <li>4. 前の手順で解決しない場合は、管理者に「エージェント」ウィンドウでユーザーをログアウトしてもらいます。</li> <li>5. 前の手順で解決しない場合は、「エージェント」ウィンドウからアプリケーションを停止します。</li> <li>6. 前の手順で解決しない場合は、タスクを終了します(158 ページの「サーバー・タスクの終了」を参照してください)。</li> <li>7. 前の手順で解決しない場合は、サーバー・マシンを再起動します。</li> </ol>

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1019041 <b>関連トピック</b> <a href="#">1019004</a>	情報をファイル fileName に書き込めません。adWriteObject は EssbaseErrorNumber を戻します。詳細はサーバー・ログ・ファイルを参照してください。	Essbase でリストされたファイルに書き込めません。	<p>HYPERION_HOME/logs/essbase/app/appName/appName.log で、リストされた Essbase エラー番号に関する情報を確認します。</p> <p>ファイルが存在することを確認します。ファイルが存在しない場合、バックアップからファイルを復元します。</p> <p>十分なディスク・スペースがあることを確認します。</p> <p>次の環境変数が正しく設定されていることを確認します(155 ページの「<a href="#">環境変数の設定</a>」を参照してください):</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ESSBASEPATH (PC および UNIX)</li> <li>● PATH (PC および UNIX)</li> <li>● LD_LIBRARY_PATH (UNIX のみ)</li> </ul> <p>UNIX コンピュータの場合、ユーザー制限プロファイルを確認します(157 ページの「<a href="#">ユーザー制限プロファイルの確認</a>」を参照してください)。</p> <p>データ圧縮を使用してページ・ファイルのサイズを制限していることを確認します。</p> <p>リストされたファイルが ARBORPATH/app/appName/databaseName/databaseName.db である場合は、ファイルをバックアップに置き換えます(157 ページの「<a href="#">バックアップを使用したデータベース・ファイルの置換</a>」を参照してください)。</p> <p>リストされたファイルが ARBORPATH/app/appName/databaseName/databaseName.ind である場合は、バックアップからファイルを復元してみます。復元できない場合は、データ・ファイルを削除して再ロードします。データ・ファイルを削除すると、データベースのすべてのデータが削除されるので、データベースを再ロードして再計算する必要があります。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Essbase サーバーを停止します。</li> <li>2. databaseName.ind、Essxxx.ind、Essxxx.pag、databaseName.esm および databaseName.tct ファイルを削除します。</li> <li>3. Essbase サーバーを再起動します。</li> </ol>

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
			4. データベースをリロードします。 5. データベースを再計算します。
1019042	ファイル・ポインタをファイル fileName の指定した場所に移動できません。errno は operatingSystemError です。		Oracle サポートに連絡してください。
1019043	データベース databaseName のアウトライン・プール作成中にエラーが発生しました	Essbase でアウトライン・メモリー・プールを作成できません。アウトライン・メモリー・プールはメモリーにアウトライン・アイテムを保管します。	サーバー・コンピュータに十分なメモリーがあることを確認します。
1019044	データベース databaseName のアウトライン・プールでのメモリー割当て中にエラーが発生しました	Essbase でアウトライン・メモリー・プールを作成できません。アウトライン・メモリー・プールはメモリーにアウトライン・アイテムを保管します。	サーバー・コンピュータに十分なメモリーがあることを確認します。
1019045	データベース databaseName のパーティション定義ファイルの読み取り中です	Essbase でリストされたデータベースのパーティション定義ファイルを読み取っています。	該当なし
1019046	アウトライン・バッファは number を超えるホールを処理できません		Oracle サポートに連絡してください。
1019047	アウトライン・バッファ・エラー。ホール位置 number がバッファ内の number と一致しません		Oracle サポートに連絡してください。
1019048	アウトライン・バッファ書き込みエラー。書き込まれたバイト数 number がホール・サイズ number と一致しません		Oracle サポートに連絡してください。
1019049	アウトライン・バッファ・エラー。number ホールの入ったバッファを断片化したアウトライン・ファイルにフラッシュできません		Oracle サポートに連絡してください。
1019050	アウトライン・バッファ・エラー。ファイル位置 number が書き込まれたバイト数 number と一致しません		Oracle サポートに連絡してください。
1019051	アウトライン・バッファを使用した adReadStruct の合計経過時間: number 秒	アウトライン・バッファの読み取りにかかった時間。	該当なし

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1019052	アウトライン・バッファを使用した adOtlReadOutline の合計経過時間: number 秒	アウトライン・データをメモリーに読み取るときにかかった時間。	該当なし
1019053	アウトライン・バッファを使用した adOtlWriteOutline の合計経過時間: number 秒	アウトライン・データの書込みにかかった時間。	該当なし
1019054	メンバー memberName の無効な名前付き属性オペコードです	リストされた属性メンバーに定義されたタイプが無効です。	すべての属性メンバーが、テキスト、数値、ブール、日付のいずれか1つのタイプを使用していることを確認します。
1019056	オブジェクト・ファイル・パス path は長すぎます。	リストされたパスは長すぎます。	リストされたパスが 1025 バイトよりも小さいことを確認します。





# 10

## 1040002 - 1042025: ネットワーク・メッセージ

表 10 にネットワークのエラー・メッセージと情報メッセージを示します。

表 10 ネットワーク・メッセージ 1040002 - 1042025

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1040002	この要求に提供された引数が多すぎます	送信するバッファの数がセッションの開始時に予測されたバッファの数に一致しません。このセッションで送信すると予測されたバッファの数が正しいことをネットワーク・レイヤーで確認します。	これは内部エラーです。Oracle サポートに連絡してください。
1040003	データ型の長さが指定されていません	ネットワークは、バッファ・タイプに基づいてネットワーク・バッファの長さを判別できません。ネットワーク・レイヤーで、バッファの長さを明示的に指定します。	これは内部エラーです。Oracle サポートに連絡してください。
1040004	構造体型が無効です。サーバー・プロセスとクライアント・プロセスとの間にアプリケーション・プロトコル・エラーが存在する可能性があります。	Essbase で、データ型が正しくないデータが検出されました。	クライアント・コンピュータとサーバー・コンピュータが同じリリースの ODBC を実行していることを確認します。NETDELAY と NETRETRYCOUNT の値を増やします(158 ページの「NETDELAY および NETRETRYCOUNT の設定」を参照してください)。
1040006	メッセージ・データベースが指定されていません	Essbase に定義されたメッセージ・データベースがありません。	これは内部エラーです。Oracle サポートに連絡してください。
1040007	通常の操作に必要なメッセージ・データベース fileName を見つけられません。PATH と ESSBASEPATH 変数が正しいディレクトリを指していることを確認してください。databaseName が ESSBASEPATH/bin ディレクトリに存在していることを確認してください	Essbase で、メッセージ・データベース・ファイル ESSBASEPATH/bin/essbase.mdb が見つかりません。	PATH と ESSBASEPATH および環境変数(155 ページの「環境変数の設定」を参照してください)が正しく設定されていることを確認します。 ネットワークが正しく起動され実行されていることを確認します。 ファイル記述子の制限値(157 ページの「ユーザー制限プロファイルの確認」を参照してください)を 1024 ファイルに設定することをお勧めします。

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1040008	データベース fileName のメッセージの読取り中にエラーが発生しました。fileName は破損しているか、バージョンが違う可能性があります。使用しているファイルの Essbase バージョン・レベルが、.exe ファイルや、dll ファイルと同じであることを確認してください	Essbase でメッセージ・データベース・ファイル ESSBASEPATH/bin/ essbase.mdb を読み取れません。	正しいリリースのメッセージ・データベース・ファイル ESSBASEPATH/bin/essbase.mdb を使用していることを確認します。不明な場合は、Essbase を再インストールします。
1040010	変換のデータ型が無効です。	Essbase で、メッセージ文字列を作成するときに無効なデータ型が検出されました。	これは内部エラーです。Oracle サポートに連絡してください。
1040011	NULL ネットワーク・コンテキストがメッセージ関数に渡されました	Essbase に、メッセージの作成に使用する有効なネットワーク・コンテキストがありません。	これは内部エラーです。Oracle サポートに連絡してください。
1040012	構造体型が無効です	Essbase でデータ構造体の情報を読み取れません。	これは内部エラーです。Oracle サポートに連絡してください。
1040013	構造体フィールド・タイプが無効です	Essbase でデータ構造体内部のフィールドを読み取れません。	Essbase サーバーと Essbase クライアントが正しくインストールされていることを確認します。
1040014	RegOpenKeyEx()は失敗しました	Essbase で、レジストリにホスト名が見つかりません。	レジストリが正しく設定されていることを確認します。Windows のドキュメンテーションを参照してください。
1040015	RegQueryInfoKey()は失敗しました	Essbase でレジストリ・キーを取得できません。	レジストリが正しく設定されていることを確認します。Windows のドキュメンテーションを参照してください。
1040016	RegEnumValue()は失敗しました	Essbase でレジストリから値を取得できません。	レジストリが正しく設定されていることを確認します。Windows のドキュメンテーションを参照してください。
1040017	ホスト名がありません	Essbase で、指定されたホスト名が見つかりません。	ホスト名が正しいことを確認します。
1040018	adNetIsLocalHost()のホスト名が不良です	Essbase でホスト名が見つかりません。	ホスト名が正しいことを確認します。
1040019	メッセージ・コード message; メッセージ・テキストはサーバー・ログを参照してください	リストされたエラーが発生しました。	発生したエラーの詳細についてアプリケーションと Essbase サーバーのログを確認します。リストされたエラーは Essbase エラーではありません。オペレーティング・システムのドキュメンテーションまたはネットワークのドキュメンテーションを参照してください。

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1041000	ネットワーク・エラー message: 名前付きパイプを作成できません	リストされたエラーが原因で、Essbase で名前付きパイプを作成できません。	リストされたエラーは Essbase エラーではありません。ネットワークのドキュメンテーションを参照してください。
1041002	ネットワーク・エラー: 接続待機中にタイム・アウトしました。エラー・コード:message	Essbase は名前付きパイプに接続できません。	<p>クライアント・コンピュータとサーバー・コンピュータの ESSBASEPATH/bin/essnet.dll ファイルが一致しているかどうかを確認します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ESSBASEPATH/bin/essnet.dll ファイルが一致していない場合、ネットワーク・プロトコルを再インストールします。ネットワーク・プロトコルとして必ず名前付きパイプを選択してください。『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System インストール概要』を参照してください。</li> <li>● ESSBASEPATH/bin/essnet.dll ファイルが一致する場合、ネットワークのドキュメンテーションを参照してください。</li> </ul> <p>NETDELAY と NETRETRYCOUNT の値を増やします(158 ページの「NETDELAY および NETRETRYCOUNT の設定」を参照してください)。</p>
1041003	ネットワーク・エラー message: 名前付きパイプを切断できません	Essbase を名前付きパイプから切断できません。	これは Essbase エラーではありません。ネットワークのドキュメンテーションを参照してください。
1041004	ネットワーク・エラー message: データを送信できません	Essbase で名前付きパイプを使用してネットワーク上にデータを送信できません。	<p>NETDELAY と NETRETRYCOUNT の値を増やします(158 ページの「NETDELAY および NETRETRYCOUNT の設定」を参照してください)。</p> <p>インデックス・キャッシュ・サイズ、データ・キャッシュ・サイズおよびブロック・サイズを確認し、それらが推奨される範囲内であることを確認します。</p>

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1041005	ネットワーク・エラー message: ネットワーク API は名前付きパイプからのデータ受信中にタイム・アウトしました。essbase.cfg ファイルの NetRetryCount または NetDelay あるいはその両方の値を大きくしてください。クライアントとサーバーが異なるコンピュータに存在する場合は、このファイルの更新を両方のコンピュータで行ってください。クライアントを再起動して、もう一度実行してください。	Essbase ネットワーク API は、名前付きパイプからデータを受信する前にタイム・アウトしました。	NETDELAY と NETRETRYCOUNT の値を増やします(158 ページの「NETDELAY および NETRETRYCOUNT の設定」を参照してください)。
1041006	ネットワーク・エラー: メッセージ受信の待機中にタイム・アウトしました	Essbase は名前付きパイプからデータを受信する前にタイム・アウトしました。	NETDELAY と NETRETRYCOUNT の値を増やします(158 ページの「NETDELAY および NETRETRYCOUNT の設定」を参照してください)。
1041007	ネットワーク・エラー: namedPipe の接続情報を検索できません	Essbase で名前付きパイプが見つかりません。	名前付きパイプを作成します。ネットワークのドキュメンテーションを参照してください。
1041008	ネットワーク・エラー: サーバースerverComputerName に Essbase が見つかりません。名前付きパイプを使用して serverComputerName にアクセスできるか、Essbase Agent がサーバー上で稼働しているか確認してください	Essbase Spreadsheet Add-in などの Essbase クライアントが Essbase サーバーに接続できません。	<p>インストールが正しいことを確認します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● インストール時にプロトコルとして名前付きパイプを選択しましたか?</li> <li>● 正しいリリースの ESSBASEPATH/bin/essnetw.dll を使用していますか? 不明な場合、ネットワーク・プロトコルを再インストールします。ネットワーキング・プロトコルとして必ず名前付きパイプを選択してください。『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System インストール概要』を参照してください。</li> </ul> <p>Essbase サーバーが正しく実行されていることを確認します。必要な場合は、Essbase サーバーを停止して再起動します。</p>
1041009	ネットワーク・エラー: サーバースerverName に接続できません	Essbase API によって <b>OpenOutline</b> 関数を完了できません。	<p>Essbase サーバーが動作していることを確認します。</p> <p>ネットワークが動作していることを確認します。</p> <p>クライアントが Essbase サーバーに接続できることを確認します。</p> <p>EssOtlOpenOutline と EssOtlVerifyOutline からの戻り値を確認します。</p>

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1041011	ネットワーク・エラー message: InitializeSecurityDescriptor が失敗しました	Essbase で名前付きパイプのセキュリティ記述子を初期化および設定できません。	これは Essbase エラー・メッセージではありません。オペレーティング・システムのドキュメンテーションとネットワークのドキュメンテーションを参照してください。
1041012	ネットワーク・エラー message: SetSecurityDescriptorDacl が失敗しました	Essbase で名前付きパイプのセキュリティ記述子を初期化および設定できません。	これは Essbase エラー・メッセージではありません。オペレーティング・システムのドキュメンテーションとネットワークのドキュメンテーションを参照してください。
1041013	ネットワーク・エラー: データの送信中にタイム・アウトしました	Essbase は名前付きパイプにデータを送信する前にタイム・アウトしました。	Essbase サーバーが動作していることを確認します。 ネットワークが動作していることを確認します。 NETDELAY と NETRETRYCOUNT の値を増やします(158 ページの「NETDELAY および NETRETRYCOUNT の設定」を参照してください)。
1041014	ネットワーク・エラー: 名前付きパイプの NodeName を essbase.cfg に登録しておく必要があります	NODENAME 設定が ESSBASEPATH/bin/essbase.cfg ファイルで指定されていません。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ESSBASEPATH/bin/essbase.cfg がサーバー・コンピュータの ESSBASEPATH/bin ディレクトリに存在しない場合、テキスト・エディタを使用してそのファイルを作成します。</li> <li>2. ESSBASEPATH/bin/essbase.cfg ファイルで、NODENAME を設定します。</li> <li>3. Essbase サーバーを停止して再起動します。</li> </ol>
1042002	ネットワーク・エラー message: ソケットを終了できません	Essbase でソケットを閉じられません。	ソケットを手動で閉じます。ネットワークのドキュメンテーションを参照してください。

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1042003	ネットワーク・エラー message: serverName をホスト・ファイルで検索できません	Essbase でサーバー・コンピュータ名を検索できません。	<p>NETDELAY と NETRETRYCOUNT の値を増やします(158 ページの「NETDELAY および NETRETRYCOUNT の設定」を参照してください)。</p> <p>サーバー・コンピュータとクライアント・コンピュータが同じネットワーク・プロトコルを実行していますか?</p> <p>TCP/IP または名前付きパイプをネットワーク・プロトコルとして使用していますか?Essbase ではこの2つのネットワーク・プロトコルしかサポートしていません。</p> <p>ネットワーク・プロトコルが正しくインストールされていますか?『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System インストール概要』を参照してください。</p> <p>ネットワーク・インタフェース・カードが搭載されていないスタンドアロン・コンピュータを使用していますか?『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System インストール概要』を参照してください。</p> <p>サーバー名を正しく入力していますか? 入力ミスはありませんか?</p> <p>HOSTS ファイルは正しいですか?</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>Windows:</b> HOSTS ファイルにサーバー名のエントリがあるかどうかを確認します。エントリがない場合、追加します。たとえば、IP アドレスが 127.0.0.1 で aspen という名前のサーバーを追加するには、次の行を HOSTS ファイルに追加します: <pre> 127.0.0.1 aspen </pre> </li> <li>● <b>UNIX:</b> .rhosts ファイルにサーバー名のエントリがあるかどうかを確認します。エントリがない場合、追加します。たとえば、IP アドレスが 127.0.0.1 で aspen という名前のサーバーを追加するには、次の行を .rhosts ファイルに追加します: <pre> 127.0.0.1 aspen </pre> </li> </ul> <p>.rhosts ファイルがパスに含まれていることを確認します。</p>

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1042004	ネットワーク・エラー message: ローカル・ソケットを作成できません	Essbase クライアントは TCP/IP ソケットを作成できません。	正しいリリースの ESSBASEPATH/bin/essnetw.dll と ESSBASEPATH/bin/winsock.dll を使用していることを確認します。不明な場合は、Essbase クライアントを再インストールします。  Essbase クライアントを再インストールしても問題が解決しない場合は、ネットワークのドキュメンテーションでリストされたメッセージ・テキストを参照してください。

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1042006	ネットワーク・エラー message: serverName に接続できません。TCP/IP による Essbase Agent への接続待機中にクライアントがタイムアウトしました。ネットワーク接続を確認してください。サーバーとポートの値が正しいことも確認してください。	Administration Services からサーバー・コンピュータは見つかりましたが、Essbase サーバーに接続できません。	<p>正しいサーバー・コンピュータに接続していますか?入力ミスはありませんか?</p> <p>リストされたコンピュータで Essbase サーバーが動作していますか?</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● Essbase サーバーが動作していない場合は、Essbase サーバーを再起動します。</li> <li>● Essbase サーバーがクラッシュしている場合は、異常シャットダウンのための手順を実行します。</li> <li>● Essbase サーバーがフリーズしている場合は、Essbase サーバーを停止して異常シャットダウンのための手順を実行します。標準の方法で Essbase サーバーを停止できない場合は、タスクを終了します(158 ページの「サーバー・タスクの終了」を参照してください)。</li> </ul> <p>ネットワーク・プロトコルがサーバー・コンピュータとクライアント・コンピュータに正しくインストールされていますか?『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System インストール概要』を参照してください。</p> <p>Essbase サーバーのポートが開いていて、動作していますか?動作していない場合、デフォルト以外のポートを指定します。</p> <p>NETDELAY と NETRETRYCOUNT の値を増やします(158 ページの「NETDELAY および NETRETRYCOUNT の設定」を参照してください)。</p> <p>ESSCMD を使用している場合、(別名ではなく)正しいサーバー名を使用し、サーバー名、ユーザー名およびパスワードが引用符で囲まれているかを確認します。たとえば、Max という名前のユーザーで ASPEN というサーバーにログオンするには、次のコマンドを使用します:</p> <pre>LOGIN "ASPEN" "Max" "PASSWORD";</pre>
1042007	ネットワーク・エラー message: 接続をリスニングできません	サーバー・コンピュータの TCP/IP ソケットが応答しません。	これは Essbase メッセージではありません。オペレーティング・システムのドキュメンテーションとネットワークのドキュメンテーションを参照してください。



メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1042008	ネットワーク・エラー message: 接続を許可できません	サーバー・コンピュータはクライアントからの要求をこれ以上は受け入れられません。	これは Essbase メッセージではありません。オペレーティング・システムのドキュメンテーションとネットワークのドキュメンテーションを参照してください。
1042009	ネットワーク・エラー message: ホスト・サーバー・ソケットを作成できません	サーバー・コンピュータは TCP/IP ソケットを作成できません。	<p>ネットワーク・プロトコルがサーバー・コンピュータとクライアント・コンピュータに正しくインストールされていますか? TCP/IP がネットワーク・アダプタにバインドされていますか? 『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System インストール概要』を参照してください。</p> <p>HOSTS ファイルは正しいですか?</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>Windows:</b> HOSTS ファイルにサーバー名のエン트리があるかどうかを確認します。エントリがない場合、追加します。たとえば、IP アドレスが 127.0.0.1 で aspen という名前のサーバーを追加するには、次の行を HOSTS ファイルに追加します: <p style="text-align: right;">127.0.0.1 aspen</p> </li> <li>● <b>UNIX:</b> .rhosts ファイルにサーバー名のエン트리があるかどうかを確認します。エントリがない場合、追加します。たとえば、IP アドレスが 127.0.0.1 で aspen という名前のサーバーを追加するには、次の行を .rhosts ファイルに追加します: <p style="text-align: right;">127.0.0.1 aspen</p> </li> </ul> <p>.rhosts ファイルがパスに含まれていることを確認します。</p>

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1042010	ネットワーク・エラー message: ポート number のホスト・サーバー・ソケットをバインドできません	Essbase でリストされたポートのサーバー・ソケットをバインドできません。	<p>リストされたコンピュータで Essbase サーバーが動作していますか?</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● Essbase サーバーが動作していない場合は、Essbase サーバーを再起動します。</li> <li>● Essbase サーバーがクラッシュしている場合は、異常シャットダウンのための手順を実行します。</li> <li>● Essbase サーバーがフリーズしている場合は、Essbase サーバーを停止して異常シャットダウンのための手順を実行します。標準の方法で Essbase サーバーを停止できない場合は、タスクを終了します(158 ページの「サーバー・タスクの終了」を参照してください)。</li> </ul> <p>別のアプリケーションが Essbase ポートを使用していますか? Essbase エージェントは、着信要求を TCP/IP ポート 1423 でリスニングします。Essbase サーバーを開始する前に別のアプリケーションがそのポートを割り当てている場合は、Essbase サーバーで要求を処理できません。必要な場合は、サーバー・コンピュータを再起動して、他のアプリケーションより先に Essbase サーバーを開始します。</p>
1042011	ネットワーク・エラー message: ソケットを閉じられません	Essbase でソケットを閉じられません。	ソケットを手動で閉じます。ネットワークのドキュメンテーションを参照してください。
1042012	ネットワーク・エラー message: データを送信できません	Essbase で名前付きパイプを使用してネットワーク上にデータを送信できません。	<p>NETDELAY と NETRETRYCOUNT の値を増やします(158 ページの「NETDELAY および NETRETRYCOUNT の設定」を参照してください)。</p> <p>インデックス・キャッシュ・サイズ、データ・キャッシュ・サイズおよびデータ・ブロック・サイズを確認し、それらが推奨される範囲内であることを確認します。</p>

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1042013	ネットワーク・エラー message: データを受信できません	Essbase で TCP/IP 接続を使用してデータを受信できません。	<p>NETDELAY と NETRETRYCOUNT の値を増やします(158 ページの「NETDELAY および NETRETRYCOUNT の設定」を参照してください)。</p> <p>Essbase サーバーとクライアントが動作していることを確認します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● Essbase サーバーがこのメッセージを受信した場合、接続先のクライアントが動作していることを確認します。</li> <li>● クライアントがこのメッセージを受信した場合、接続先の Essbase サーバーが動作していることを確認します。</li> <li>● Essbase サーバーがフリーズしている場合は、Essbase サーバーを停止して異常シャットダウンのための手順を実行します。標準の方法で Essbase サーバーを停止できない場合は、タスクを終了します(158 ページの「サーバー・タスクの終了」を参照してください)。</li> </ul> <p>データベースが破損しているかどうかを確認します(156 ページの「データベース破損の確認」を参照してください)。</p>
1042015	ネットワーク・エラー: APICommand の接続情報を検索できません	アクティブなアプリケーションとデータベースが設定されていません。	<p>C API を使用している場合は、EssSetActive 関数を使用してアクティブなアプリケーションとデータベースを設定します。</p> <p>Visual Basic API を使用している場合は、EsbSetActive 関数を使用してアクティブなアプリケーションとデータベースを設定します。</p>

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1042017	ネットワーク・エラー: TCP/IP によるデータの受信待機中にクライアントまたはサーバーがタイム・アウトしました。ネットワーク接続を確認してください。essbase.cfg ファイルの NetRetryCount または NetDelay あるいはその両方の値を大きくしてください。このファイルはクライアントとサーバーの両方で更新してください。クライアントを再起動して、もう一度実行してください。	サーバー・コンピュータまたはクライアント・コンピュータは TCP/IP ネットワーク接続を使用してデータを受信できません。	<p>NETDELAY と NETRETRYCOUNT の値を増やします(158 ページの「NETDELAY および NETRETRYCOUNT の設定」を参照してください)。</p> <p>Essbase サーバーとクライアントが動作していることを確認します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● Essbase サーバーがこのメッセージを受信した場合、接続先のクライアントが動作していることを確認します。</li> <li>● クライアントがこのメッセージを受信した場合、接続先の Essbase サーバーが動作していることを確認します。</li> <li>● Essbase サーバーがフリーズしている場合は、Essbase サーバーを停止して異常シャットダウンのための手順を実行します。標準の方法で Essbase サーバーを停止できない場合は、タスクを終了します(158 ページの「サーバー・タスクの終了」を参照してください)。</li> </ul> <p>ディスク・ボリュームのスパンを行っている場合は、十分なスペースがあることを確認します。</p> <p>セキュリティ・ファイルが破損しているかどうかを確認します。</p> <p>データベースが破損しているかどうかを確認します(156 ページの「データベース破損の確認」を参照してください)。</p>
1042018	ネットワーク・エラー: メッセージの送信待機中にタイム・アウトしました	タイム・アウトする前に Essbase ですべてのデータを送信できません。	NETDELAY と NETRETRYCOUNT の値を増やします(158 ページの「NETDELAY および NETRETRYCOUNT の設定」を参照してください)。
1042019	ネットワーク・エラー message: Windows ソケットを初期化できません	Essbase で Windows ソケットを初期化できません。	これは Essbase エラー・メッセージではありません。オペレーティング・システムのドキュメンテーションを参照してください。
1042020	ネットワーク・エラー message: Windows ソケットを初期化できません	Essbase で Windows 3.0 ソケットを初期化できません。	これは Essbase エラー・メッセージではありません。オペレーティング・システムのドキュメンテーションを参照してください。

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1042022	ネットワーク・エラー message: ホスト名を取得できません	Essbase でローカル・ホスト名が見つかりません。	これは Essbase エラー・メッセージではありません。ネットワークのドキュメンテーションまたはオペレーティング・システムのドキュメンテーションを参照してください。  戻された名前を保管するバッファが有効なアドレスであることを確認します。バッファ・サイズが正数であることを確認します。
1042023	ネットワーク・エラー: 1 プロセス当たりのファイル記述子の制限値に達しました	Essbase でファイル記述子の制限値に達しました。ファイル記述子の制限値によって、アプリケーションで同時に開くことができるファイルの数が決まります。	ファイル記述子の制限値(157 ページの「ユーザー制限プロファイルの確認」を参照してください)を 1024 ファイルに設定することをお勧めします。
1042024	ネットワーク・エラー: システムのファイル記述子の制限値に達しました	Essbase でファイル記述子の制限値に達しました。ファイル記述子の制限値によって、アプリケーションで同時に開くことができるファイルの数が決まります。	ファイル記述子の制限値(157 ページの「ユーザー制限プロファイルの確認」を参照してください)を 1024 ファイルに設定することをお勧めします。
1042025	ネットワーク・エラー errorCode: ホスト・アドレスを取得できません	getpeername ネットワーク・システム呼出しが失敗しました。	ネットワークのドキュメンテーションを参照して、リストされたエラー・コードの原因を判断してください。



## 11

## 1051002 - 1055041: エージェント・メッセージ

表 11 にエージェントのエラー・メッセージと情報メッセージを示します。

表 11 エージェント・メッセージ 1051002 - 1055041

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1051002	認識できないコマンド: command name	ほとんどの場合、Essbase サーバーとクライアントのバージョンの不一致を示します。	Essbase サーバーとクライアントのバージョンに互換性があることを確認します。
1051003	エラー error number が要求 name of failed request の処理中に発生しました。--切断中です	失敗した要求。 要求は通常、要求が発行される前から存在するエラー状態が原因で失敗します。	ログを確認し、失敗した要求の前に発生したエラーを見つけ、修正します。
1051004	ログインは現在許可されていません	メンテナンスがデータベースで実行されています。メンテナンスの実行中はログインできません。	後でログインしなおすか、Essbase システム管理者にご相談ください。
1051006	ユーザー user name をアプリケーション appName から切断しています	ユーザーがアプリケーションを終了しました。 通常、これは別のアプリケーションにログオンしたときに発生します。	
1051009	アプリケーション appName をユーザー user name に対してアクティブに設定しています	ユーザーがアプリケーションにログオンしました。	
1051011	システムがタイム・アウトしました(エラー error number)	多くの場合、システム上のユーザー数が多すぎるか、他のリソースに制約があります。	後でログインしなおすか、Essbase システム管理者にご相談ください。
1051012	ユーザー user name は存在しません。	存在しないユーザーに対して維持プロセスまたは管理プロセスを実行しようとしています。 無効なユーザー ID でログインしようとしています。	ユーザー名を確認します。
1051013	ユーザー/グループ user name/ group name は存在しません	存在しないユーザーに対して維持プロセスまたは管理プロセスを実行しようとしています。	ユーザー名またはグループ名を確認します。

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1051014	ユーザー/グループ user name/ group name はすでに存在します	作成しようとしているユーザーまたはグループと同じ名前を持つユーザーまたはグループが、すでに存在します。	別のユーザー名またはグループ名を使用します。
1051016	自分の名前を変更できません!	権限不足のため自分の名前を変更できません。	Essbase システム管理者にご相談ください。
1051017	自分自身を削除できません!	権限不足のため自分自身を削除できません。	Essbase システム管理者にご相談ください。
1051018	同じ名前への変更はできません!	ユーザー名を、現在と同じ名前に変更しようとしています。	別のユーザー名を使用します。
1051019	自分自身のアクセス・レベルを変更できません	権限不足のため自分自身のアクセス・レベルを変更できません。	Essbase システム管理者にご相談ください。
1051020	ログアウトできません!	管理者に対するメッセージ。 権限不足のためログアウトできません。	Essbase システム管理者にご相談ください。
1051021	アクティブでないためか、明示的にスーパーバイザによってか、いずれかでログアウトさせられました。	長時間アクティブでないため、ログオフされました。 システム管理者またはスーパーバイザによってログアウトさせられました。	システムにログインして、プロセスを再開してください。 システム管理者またはスーパーバイザにご相談ください。
1051022	パスワードが短すぎます。-- number 文字以上にする必要があります	作成したパスワードが文字の最小数を満たしていません。この数はシステム管理者によって設定されます。デフォルト値は6です。	より多くの文字を使用してパスワードを作成します。



メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1052001 <b>関連トピック</b> <a href="#">1006010</a> <a href="#">1052002</a>	サーバーからの読取り中にエラーが発生しました	Essbase で Essbase サーバーを読み取れません。おそらく、Essbase サーバーが不適切に停止したことが原因です。	<p>Essbase サーバーが実行中であるかどうかを確認します:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● Essbase サーバーが動作していない場合は、Essbase サーバーを再起動します。</li> <li>● Essbase サーバーがクラッシュしている場合は、異常シャットダウンのための手順を実行します。</li> <li>● Essbase サーバーがフリーズしている場合は、Essbase サーバーを停止して異常シャットダウンのための手順を実行します。標準の方法で Essbase サーバーを停止できない場合は、タスクを終了します(<a href="#">158 ページの「サーバー・タスクの終了」</a>を参照してください)。</li> </ul> <p>次の環境変数が正しく設定されていることを確認します(<a href="#">155 ページの「環境変数の設定」</a>を参照してください):</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ESSBASEPATH (PC および UNIX)</li> <li>● PATH (PC および UNIX)</li> <li>● LD_LIBRARY_PATH (UNIX のみ)</li> </ul> <p>Essbase サーバーと Essbase クライアントが正しくインストールされていることを確認します。</p> <p>移行直後の場合、移行情報に正しく従っていることを確認します。『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System インストールおよび構成ガイド』を確認してください。</p> <p>NETDELAY と NETRETRYCOUNT の値を増やします(<a href="#">158 ページの「NETDELAY および NETRETRYCOUNT の設定」</a>を参照してください)。</p> <p>セキュリティ・ファイルが破損しているかどうかを確認します。</p> <p>UNIX コンピュータの場合、ユーザー制限プロファイルを確認します(<a href="#">157 ページの「ユーザー制限プロファイルの確認」</a>を参照してください)。</p> <p>データベースが破損しているかどうかを確認します(<a href="#">156 ページの「データベース破損の確認」</a>を参照してください)。</p>

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1052002 <b>関連トピック</b> <a href="#">1052001</a>	サーバーへの書き込み中にエラーが発生しました	Essbase から Essbase サーバーに書き込めません。おそらく、Essbase サーバーが不適切に停止したことが原因です。	Essbase サーバーが実行中であるかどうかを確認します： <ul style="list-style-type: none"> <li>● Essbase サーバーが動作していない場合は、Essbase サーバーを再起動します。</li> <li>● Essbase サーバーがクラッシュしている場合は、異常シャットダウンのための手順を実行します。</li> <li>● Essbase サーバーがフリーズしている場合は、Essbase サーバーを停止して異常シャットダウンのための手順を実行します。標準の方法で Essbase サーバーを停止できない場合は、タスクを終了します(<a href="#">158 ページの「サーバー・タスクの終了」</a>を参照してください)。</li> </ul> <p>ブロック・サイズが推奨される範囲内であることを確認します。</p> <p>移行直後の場合、移行情報に正しく従っていることを確認します。『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System インストールおよび構成ガイド』を確認してください。</p> <p>セキュリティ・ファイルが破損しているかどうかを確認します。</p> <p>十分なディスク・スペースがあることを確認します。</p> <p>データベースが破損しているかどうかを確認します(<a href="#">156 ページの「データベース破損の確認」</a>を参照してください)。</p>

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1052003	サーバーからの読取りがタイム・アウトしました	Essbase はサーバーから読み取る前にタイム・アウトしました。	<p>ブロック・サイズが推奨される範囲内であることを確認します。</p> <p>次の環境変数が正しく設定されていることを確認します(155 ページの「<a href="#">環境変数の設定</a>」を参照してください):</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ESSBASEPATH (PC および UNIX)</li> <li>● PATH (PC および UNIX)</li> <li>● LD_LIBRARY_PATH (UNIX のみ)</li> </ul> <p>ネットワークが正常に機能していることを確認します。アプリケーション・ログの前のメッセージを確認して、ネットワーク・エラー・メッセージを調べます(第 10 章「<a href="#">1040002 - 1042025: ネットワーク・メッセージ</a>」を参照してください)。</p> <p>Essbase サーバーを停止して再起動します。</p> <p>NETDELAY と NETRETRYCOUNT の値を増やします(158 ページの「<a href="#">NETDELAY および NETRETRYCOUNT の設定</a>」を参照してください)。</p> <p>AGENTDELAY の値を大きくしてください。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ESSBASEPATH/bin/essbase.cfg がサーバー・コンピュータに存在しない場合、テキスト・エディタを使用してそのファイルを作成します。</li> <li>2. サーバー・コンピュータ上の ESSBASEPATH/bin/essbase.cfg で、AGENTDELAY の値を追加するか、または大きくします。</li> <li>3. Essbase サーバーを停止して再起動します。</li> </ol> <p>Essbase サーバーと Essbase クライアントが正しくインストールされていることを確認します。</p> <p>データベースが破損しているかどうかを確認します(156 ページの「<a href="#">データベース破損の確認</a>」を参照してください)。</p>

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1052004	サーバーへの書き込みがタイムアウトしました	Essbase はサーバーに書き込む前にタイムアウトしました。	<p>ブロック・サイズが推奨される範囲内であることを確認します。</p> <p>次の環境変数が正しく設定されていることを確認します(155 ページの「<a href="#">環境変数の設定</a>」を参照してください):</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ESSBASEPATH (PC および UNIX)</li> <li>● PATH (PC および UNIX)</li> <li>● LD_LIBRARY_PATH (UNIX のみ)</li> </ul> <p>ネットワークが正常に機能していることを確認します。アプリケーション・ログの前のメッセージを確認して、ネットワーク・エラー・メッセージを調べます(第 10 章「<a href="#">1040002 - 1042025: ネットワーク・メッセージ</a>」を参照してください)。</p> <p>Essbase サーバーを停止して再起動します。</p> <p>NETDELAY と NETRETRYCOUNT の値を増やします(158 ページの「<a href="#">NETDELAY および NETRETRYCOUNT の設定</a>」を参照してください)。</p> <p>AGENTDELAY の値を大きくしてください。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ESSBASEPATH/bin/essbase.cfg がサーバー・コンピュータに存在しない場合、テキスト・エディタを使用してそのファイルを作成します。</li> <li>2. サーバー・コンピュータ上の ESSBASEPATH/bin/essbase.cfg で、AGENTDELAY の値を追加するか、または大きくします。</li> <li>3. Essbase サーバーを停止して再起動します。</li> </ol> <p>Essbase サーバーと Essbase クライアントが正しくインストールされていることを確認します。</p> <p>データベースが破損しているかどうかを確認します(156 ページの「<a href="#">データベース破損の確認</a>」を参照してください)。</p>
1052005	選択したアプリケーションから強制的に切断されます	Essbase は選択したアプリケーションに接続していません。	<p>タイムアウトしたか、管理者によってログアウトされたか、またはアプリケーションが停止したために切断されました。選択したアプリケーションに再び接続します。</p>

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1053001 <b>関連トピック</b> <a href="#">1003022</a>	オブジェクト・ファイル fileName を開けません	Essbase でリストされた ファイルを開けません。	<p>リストされたファイルとディレクトリに対するオペレーティング・システム権限が正しいことを確認します。</p> <p>アプリケーションを、ファイル・システム・コントロール(Windows エクスプローラまたは <code>cp</code> あるいは <code>rm</code> コマンド)を使用してコピーまたは削除した場合は、元の名前でダミー・アプリケーションを作成し、Essbase を使用してアプリケーションを正しくコピーまたは削除します。</p> <p>ブロック・サイズが推奨される範囲内であることを確認します。</p> <p>ファイル名(パス全体を含む)が 256 文字以下であることを確認します。長さが 256 文字を超えている場合、ファイル名はエラー・メッセージで切り捨てられます。</p> <p>他のユーザーがファイルをロックしていないかどうかを確認します(<a href="#">158 ページの「オブジェクトのロック解除」</a>を参照してください)。</p> <p>ファイルが存在することを確認します。存在しない場合、バックアップから復元します。</p> <p>十分なメモリーがあることを確認します。</p> <p>リストされたファイルが <code>essbase.sec</code> の場合:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● セキュリティ・ファイルがオペレーティング・システム・レベルで読み取り専用でないことを確認します。</li> <li>● セキュリティ・ファイルが破損していないことを確認します。</li> </ul> <p>BEGINARCHIVE コマンドを使用している場合は、アーカイブのディレクトリを指定します。</p> <p>Essbase サーバーを停止して再起動します。</p>

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1053002	アプリケーション・ディレクトリ <code>directoryName</code> <code>operatingSystemErrorCode</code> を作成できません	Essbase でリストされたアプリケーション・ディレクトリを作成できません。	<p>リストされたファイルとディレクトリに対するオペレーティング・システム権限が正しいことを確認します。</p> <p>十分なディスク・スペースがあることを確認します。</p> <p>次の環境変数が正しく設定されていることを確認します(155 ページの「<a href="#">環境変数の設定</a>」を参照してください):</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <code>ESSBASEPATH</code> (PC および UNIX)</li> <li>● <code>PATH</code> (PC および UNIX)</li> <li>● <code>LD_LIBRARY_PATH</code> (UNIX のみ)</li> </ul>
1053003	アプリケーション・ディレクトリ <code>directoryName</code> は存在しません	Essbase で、リストされたアプリケーション・ディレクトリが見つかりません。	<p>アプリケーションを、ファイル・システム・コントロール(Windows エクスプローラまたは <code>cp</code> あるいは <code>rm</code> コマンド)を使用してコピーまたは削除した場合は、元の名前でダミー・アプリケーションを作成し、Essbase を使用してアプリケーションを正しくコピーまたは削除します。</p> <p>ディレクトリが正しい場所にあることを確認します。</p> <p>リストされたディレクトリに対するオペレーティング・システム権限が正しいことを確認します。</p> <p>他のユーザーがディレクトリをロックしていないかどうかを確認します(158 ページの「<a href="#">オブジェクトのロック解除</a>」を参照してください)。</p> <p>次の環境変数が正しく設定されていることを確認します(155 ページの「<a href="#">環境変数の設定</a>」を参照してください):</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <code>ESSBASEPATH</code> (PC および UNIX)</li> <li>● <code>PATH</code> (PC および UNIX)</li> <li>● <code>LD_LIBRARY_PATH</code> (UNIX のみ)</li> </ul> <p>セキュリティ・ファイルが破損していないことを確認します。</p> <p>ESSCMD を使用している場合は、ESSCMD コマンドに正しいアプリケーション・ディレクトリを指定していることを確認します。</p>

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1053004	データベース・ディレクトリ directoryName operatingSystemErrorCode を作成できません	Essbase でリストされたデータベース・ディレクトリを作成できません。	<p>リストされたファイルとディレクトリに対するオペレーティング・システム権限が正しいことを確認します。</p> <p>十分なディスク・スペースがあることを確認します。</p> <p>次の環境変数が正しく設定されていることを確認します(155 ページの「<a href="#">環境変数の設定</a>」を参照してください):</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ESSBASEPATH (PC および UNIX)</li> <li>● PATH (PC および UNIX)</li> <li>● LD_LIBRARY_PATH (UNIX のみ)</li> </ul>
1053005	データベース・ディレクトリ directoryName は存在しません	Essbase で、リストされたデータベース・ディレクトリが見つかりません。	<p>アプリケーションを、ファイル・システム・コントロール(Windows エクスプローラまたは cp あるいは rm コマンド)を使用してコピーまたは削除した場合は、元の名前でダミー・アプリケーションを作成し、Essbase を使用してアプリケーションを正しくコピーまたは削除します。</p> <p>ディレクトリが正しい場所にあることを確認します。</p> <p>リストされたディレクトリに対するオペレーティング・システム権限が正しいことを確認します。</p> <p>他のユーザーがディレクトリをロックしていないかどうかを確認します(158 ページの「<a href="#">オブジェクトのロック解除</a>」を参照してください)。</p> <p>次の環境変数が正しく設定されていることを確認します(155 ページの「<a href="#">環境変数の設定</a>」を参照してください):</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ESSBASEPATH (PC および UNIX)</li> <li>● PATH (PC および UNIX)</li> <li>● LD_LIBRARY_PATH (UNIX のみ)</li> </ul> <p>セキュリティ・ファイルが破損していないことを確認します。</p> <p>ESSCMD を使用している場合は、ESSCMD コマンドに正しいアプリケーション・ディレクトリを指定していることを確認します。</p>

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1053006	オブジェクト・タイプが無効です	オブジェクトは認識されないタイプのため、Essbase でそのオブジェクトを開けません。Essbase では、アプリケーション、アウトライン、データベース・ファイル、別名テーブル、ルール・ファイル、リンク・レポート・オブジェクトなどの Essbase オブジェクトを認識します。Essbase では、スプレッドシート・ファイルなどの一部の外部オブジェクトも認識します。	Essbase サーバーとクライアント (Spreadsheet Add-in など) が同じリリース・レベルであることを確認します。
1053007	オブジェクト originalName の名前を newName に変更できません	Essbase でリストされたオブジェクトの名前を変更できません。	リストされたオブジェクトに対するオペレーティング・システム権限が正しいことを確認します。  新しい名前が有効であることを確認します。  新しい名前を使用するオブジェクトが他に存在しないことを確認します。
1053008	オブジェクト objectName を作成できません	Essbase でリストされたオブジェクトを作成することがオペレーティング・システムによって許可されていません。	リストされたオブジェクトに対するオペレーティング・システム権限が正しいことを確認します。  オブジェクト名が有効であることを確認します。  オブジェクト名(パス全体を含む)が 256 文字以下であることを確認します。256 文字を超えている場合、オブジェクト名はエラー・メッセージで切り捨てられます。
1053009	オブジェクト objectName を削除できません	Essbase でリストされたオブジェクトを削除することがオペレーティング・システムによって許可されていません。	リストされたオブジェクトに対するオペレーティング・システム権限が正しいことを確認します。  オブジェクト名が有効であることを確認します。
1053010	オブジェクト objectName はユーザー userName によってすでにロックされています	ロックしようとしたオブジェクトは、リストされたユーザーによってロックされています。	他のアクティブ・ユーザーのプロセスが終了するまで数分待つてから、操作を再試行してください。  必要に応じて、ファイルのロックを解除します(158 ページの「オブジェクトのロック解除」を参照してください)。  このエラーが頻繁に発生する場合は、ユーザーが Essbase から正しくログオフしていることを確認します。  Essbase サーバーを停止して再起動します。



メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1053011	オブジェクト objectName はユーザー userName によってロックされていません	リストされたオブジェクトはロックされていないので、Essbase でそのオブジェクトのロックを解除できません。	他のユーザーがファイルをロックしていないかどうかを確認します(158 ページの「オブジェクトのロック解除」を参照してください)。  Essbase サーバーを停止して再起動します。  データベースが破損しているかどうかを確認します(156 ページの「データベース破損の確認」を参照してください)。
1053012	オブジェクト objectName はユーザー userName によってロックされています	リストされたオブジェクトは、リストされたユーザーによってロックされています。	他のアクティブ・ユーザーのプロセスが終了するまで数分待ってから、操作を再試行してください。  必要に応じて、ファイルのロックを解除します(158 ページの「オブジェクトのロック解除」を参照してください)。  このエラーが頻繁に発生する場合は、ユーザーが Essbase から正しくログオフしていることを確認します。  Essbase サーバーを停止して再起動します。
1053013	オブジェクト objectName はユーザー userName によってロックを解除されています	リストされたオブジェクトはリストされたユーザーによってロック解除されています。	該当なし
1053014	オブジェクト objectName は存在しません	Essbase で、リストされたオブジェクトが見つかりません。	アプリケーションを、ファイル・システム・コントロール(Windows のエクスプローラまたは cp あるいは rm コマンド)を使用してコピーまたは削除した場合は、元の名前でダミー・アプリケーションを作成し、Essbase を使用してアプリケーションを正しくコピーまたは削除します。  パーティションを使用している場合は、リストされたファイルがソースおよびターゲットに存在していることを確認します。  セキュリティ・ファイルが破損しているかどうかを確認します。  十分なディスク・スペースがあることを確認します。
1053015	オブジェクト objectName はすでに存在します	リストされたオブジェクトはすでに存在するので、Essbase でそのオブジェクトを作成できません。	アプリケーションを、ファイル・システム・コントロール(Windows のエクスプローラまたは cp あるいは rm コマンド)を使用してコピーまたは削除した場合は、元の名前でダミー・アプリケーションを作成し、Essbase を使用してアプリケーションを正しくコピーまたは削除します。

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1053016	一時ファイルを開けません	Essbase でセキュリティ・ファイルを保存するために一時ファイルを開けません。	十分なディスク・スペースがあることを確認します。 オペレーティング・システム権限が正しいことを確認します。
1053017	アプリケーション <code>appName</code> のログ・ファイルを開けません	Essbase でリストされたアプリケーションのアプリケーション・ログ・ファイルを開けません。	リストされたアプリケーションに対するオペレーティング・システム権限が正しいことを確認します。 リストされたファイルに対する Essbase 権限が正しいことを確認します。 十分なディスク・スペースがあることを確認します。 アプリケーションを、ファイル・システム・コントロール(Windows のエクスプローラまたは <code>cp</code> あるいは <code>rm</code> コマンド)を使用してコピーまたは削除した場合は、元の名前でダミー・アプリケーションを作成し、Essbase を使用してアプリケーションを正しくコピーまたは削除します。
1053018	アウトライン・オブジェクトにおける操作は許可されていません	Essbase でアウトライン・オブジェクトに対する操作を実行できません。	アウトラインの削除、コピーまたは名前変更を実行できません。データベースの削除、コピーまたは名前変更を実行する必要があります。

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1053019	ディレクトリ oldDirectoryName operatingSystemErrorCode の名前を変更できません	Essbase でリストされたディレクトリの名前を変更できません。	<p>他のユーザーがファイルをロックしていないかどうかを確認します(158 ページの「オブジェクトのロック解除」を参照してください)。</p> <p>新しいディレクトリ名が既存のディレクトリ名と同じでないことを確認します。</p> <p>古いディレクトリと新しいディレクトリに対するオペレーティング・システム権限を正しいものにします。</p> <p>リストされた古いディレクトリに対する Essbase 権限が正しいことを確認します。</p> <p>セキュリティ・ファイルが破損しているかどうかを確認します。</p> <p>アプリケーションを停止して再起動します。それでも解決しない場合は、Essbase サーバーを停止して再起動します。</p> <p>十分なディスク・スペースがあることを確認します。</p> <p>Windows エクスプローラを閉じます。エクスプローラでディレクトリが開かれたままである場合、エラーの原因となることがあります。</p> <p>提案した解決策で問題を解決できない場合は、新しいアプリケーションとデータベースを作成し、アウトラインとその他のオブジェクトを新しいアプリケーションとデータベースにコピーします。操作が終了したら、新しいアプリケーションとデータベースが破損していないことを確認します(156 ページの「データベース破損の確認」を参照してください)。</p> <p>OLAP サーバーが動作していることを確認します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● Essbase サーバーが動作していない場合は、Essbase サーバーを再起動します。</li> <li>● Essbase サーバーがクラッシュしている場合は、異常シャットダウンのための手順を実行します。</li> <li>● Essbase サーバーがフリーズしている場合は、Essbase サーバーを停止して異常シャットダウンのための手順を実行します。標準の方法で Essbase サーバーを停止できない場合は、タスクを終了します(158 ページの「サーバー・タスクの終了」を参照してください)。</li> </ul>

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1053020	ファイル書込みエラー: fileName	Essbase でリストされた ファイルを書き込めませ ん。	十分なディスク・スペースがあることを確認します。ディスク・スペースが不十分な場合、ディスク・ボリュームのスパンについて検討してください。  仮想メモリのサイズが物理メモリの2-3倍であることを確認します。  リストされたファイルが <code>essbase.sec</code> の場合、セキュリティ・ファイルが破損しているかどうかを確認します。
1053021	オブジェクト <code>objectName</code> はそれ自体にコピーできません	Essbase で、リストされたオブジェクトをそのオブジェクト自体にコピーすることはできません。	ESSCMD コマンドの構文を確認します。
1053022	データベース <code>databaseName</code> はバックアップのために読取り専用モードに設定されています	リストされたデータベースは、管理者がデータベースをバックアップする目的で BEGINARCHIVE コマンドを発行したために、読取り専用モードになっています。	BEGINARCHIVE コマンドで始まり、ENDARCHIVE コマンドで終わるアーカイブ・プロセスが終了するまで待ちます。アーカイブ・プロセスが終了したら、必ず ENDARCHIVE コマンドを発行してください。
1053023	ユーザーのログ・メッセージ: <code>messageText</code>	ユーザーがこのメッセージを <code>EssWriteToLogFile</code> を使用して作成しました。	該当なし
1053024	一時ファイルを作成できません	Essbase で一時ファイルを開けません。Essbase では、ルール・ファイルなどのオブジェクトをリモート Essbase サーバー・コンピュータに保存する前に、一時ファイルを開いてそのオブジェクトを作成する必要があります。	十分なディスク・スペースがあることを確認します。  一時ファイルを作成するための正しいオペレーティング・システム権限があることを確認します。  UNIX コンピュータで <code>TMPDIR</code> 環境変数を使用している場合は、 <code>TMPDIR</code> ディレクトリへの絶対パスが15文字以下であることを確認します。

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1054001	アプリケーション appName をロードできません(エラー番号 number) - サーバー・ログ・ファイルを参照してください	リストされたエラーが原因で、Essbase でリストされたアプリケーションをロードできません。	<p>リストされたエラーの詳細は、Essbase サーバーのログを確認してください。</p> <p>リストされたアプリケーションが破損しているかどうかを確認します(156 ページの「データベース破損の確認」を参照してください)。</p> <p>NETDELAY と NETRETRYCOUNT の値を増やします(158 ページの「NETDELAY および NETRETRYCOUNT の設定」を参照してください)。</p> <p>ブロック・サイズが推奨される範囲内であることを確認します。</p> <p>次の環境変数が正しく設定されていることを確認します(155 ページの「環境変数の設定」を参照してください):</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ESSBASEPATH (PC および UNIX)</li> <li>● PATH (PC および UNIX)</li> <li>● LD_LIBRARY_PATH (UNIX のみ)</li> </ul> <p>Essbase サーバーと Essbase クライアントが正しくインストールされていることを確認します。</p> <p>REGISTER.EXE を再び実行して、ポートがアクティブであることを確認します。『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System インストールおよび構成ガイド』を確認してください。</p> <p>アプリケーションを、ファイル・システム・コントロール(Windows のエクスプローラまたは cp あるいは rm コマンド)を使用してコピーまたは削除した場合は、元の名前でダミー・アプリケーションを作成し、Essbase を使用してアプリケーションを正しくコピーまたは削除します。</p>
1054002 関連トピック 1054009 1054011	アプリケーション appName のロードは現在許可されていません	Essbase でリストされたアプリケーションをロードできません。	<p>Administration Services で、「アプリケーションの開始をユーザーに許可」が選択されていることを確認します。</p> <p>ARBORPATH/app/appName/databaseName ディレクトリにあるすべての essXXXX.tmp ファイルを削除します。</p> <p>データベースが破損しているかどうかを確認します(156 ページの「データベース破損の確認」を参照してください)。</p>

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1054003	エラー number がアプリケーション appName のロード中に発生しました	Essbase でリストされたアプリケーションをロードできません。	Essbase サーバーを停止して再起動します。  ARBORPATH/app/appName/ databaseName/databaseName.dbb ファイルを ARBORPATH/app/appName/ databaseName/databaseName.db にコピーします。  データベースが破損しているかどうかを確認します(156 ページの「データベース破損の確認」を参照してください)。  一度に 1 つのアプリケーションのみを実行してください。  ARBORPATH/app/appName/ databaseName/databaseName.esm ファイルを削除してから、Essbase サーバーを停止して再起動し、アプリケーションを再度開いてみます。
1054004	アプリケーション appName はロードされていません	Essbase でリストされたアプリケーションに対して操作を実行しましたが、そのアプリケーションはロードされていませんでした。	アプリケーションを使用する前に必ずアプリケーションをロードしておきます。
1054005	アプリケーション appName をシャット・ダウンします	Essbase によってリストされたアプリケーションをシャットダウンします。	該当なし
1054006	アプリケーション appName を終了できません	Essbase でリストされたアプリケーションを停止できません。	Essbase サーバーが動作していることを確認します。  <ul style="list-style-type: none"> <li>● Essbase サーバーが動作していない場合は、Essbase サーバーを再起動します。</li> <li>● Essbase サーバーがクラッシュしている場合は、異常シャットダウンのための手順を実行します。</li> <li>● Essbase サーバーがフリーズしている場合は、Essbase サーバーを停止して異常シャットダウンのための手順を実行します。標準の方法で Essbase サーバーを停止できない場合は、タスクを終了します(158 ページの「サーバー・タスクの終了」を参照してください)。</li> </ul>

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1054007	アプリケーション appName からの応答がありません	Essbase はリストされたアプリケーションに接続できません。	<p>Essbase が正しくインストールされていることを確認します。必要な場合は、Essbase を再インストールします。</p> <p>次の環境変数が正しく設定されていることを確認します(155 ページの「<a href="#">環境変数の設定</a>」を参照してください):</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ESSBASEPATH (PC および UNIX)</li> <li>● PATH (PC および UNIX)</li> <li>● LD_LIBRARY_PATH (UNIX のみ)</li> </ul> <p>Essbase サーバーを停止して再起動します。</p> <p>ブロック・サイズが推奨される範囲内であることを確認します。</p> <p>データ・キャッシュ・サイズを少なくとも 100 ブロックまで増やします。</p> <p>NETDELAY と NETRETRYCOUNT の値を増やします(158 ページの「<a href="#">NETDELAY および NETRETRYCOUNT の設定</a>」を参照してください)。</p> <p>ARBORPATH/app/appName/ databaseName/databaseName.db ファイルが存在するかどうかを調べます。databaseName.db が存在しない場合は、databaseName.dbb ファイルの名前を databaseName.db に変更します。</p> <p>ARBORPATH/app/appName/ databaseName/databaseName.app ファイルが存在するかどうかを調べます。databaseName.app ファイルが存在しない場合は、databaseName.apb ファイルの名前を databaseName.app に変更します。</p> <p>データベースが破損しているかどうかを確認します(156 ページの「<a href="#">データベース破損の確認</a>」を参照してください)。</p>
1054009 <a href="#">関連トピック</a> <a href="#">1054002</a> <a href="#">1054011</a>	アプリケーション appName は現在接続を受け付けていません。	ユーザーはリストされたアプリケーションにログインできません。	<p>Administration Services で、接続を許可が選択されていることを確認します。</p> <p>ESSCMD で、ENABLELOGIN コマンドを正しく使用していることを確認します。</p>
1054010	アプリケーション appName は現在ユーザー・コマンドを受け付けていません	リストされたアプリケーションによって、計算などの排他制御が必要である操作が実行されていません。	該当なし

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1054011 関連トピック 1054002 1054009	データベース databaseName のロードは現在許可されていません	Essbase でリストされたデータベースをロードできません。	Administration Services で、「データベースの開始を許可」が選択されていることを確認します。
1054012 関連トピック 1054013	フィルタの incorrectFilter 行目の構文が無効です	セキュリティ・フィルタに構文エラーがあります。	フィルタが正しく作成されていることを確認します。
1054013 関連トピック 1054012	ロード・フィルタの構文エラーです-操作は取り消されました	Essbase でセキュリティ・フィルタをロードできません。	フィルタが正しく作成されていることを確認します。
1054014	データベース databaseName がロードされました	リストされたデータベースは正しくロードされました。	該当なし
1054016	ファイル名 fileName が無効です。operation は中止されました	Essbase でリストされたインデックスまたはページ・ファイルを作成できません。このエラーは、Essbase でアプリケーションの n 番目のインデックスまたはページ・ファイルを作成しようとしたときに発生します。n は 5 桁を超えます。つまり、99999 よりも大きい数字です。	Oracle サポートに連絡してください。
1054017	ハンドル number でファイルを読み取れません。operation は失敗しました	Essbase でリストされた操作を実行できません。	データベースが破損しているかどうかを確認します(156 ページの「データベース破損の確認」を参照してください)。



メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1054018	RECEIVED ABNORMAL SHUTDOWN COMMAND - ESSBASE TERMINATING	Essbase は無効なシャット ダウン・コマンドを受信 したため、シャットダウ ンします。	タイトル・バーの「X」をクリックして Essbase サーバーのウィンドウを閉じな いでください。  Essbase コンピュータに十分なリソース があることを確認します。システム要 件については『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System インス トール概要』を確認してください。リ レーショナル・データベースなどのリ ソース集中型のアプリケーションを同 じコンピュータで実行している場合、 そのリソース集中型のアプリケーショ ンが Essbase に必要なリソースを使用 している可能性があります。  Essbase サーバーを再起動した後で、 データベースが破損しているかどうか を確認します(156 ページの「データ ベース破損の確認」を参照してくださ い)。
1054019	アプリケーションがロードさ れ、その設定を変更したユー ザーがログインしている間 は、アプリケーション appName の設定を変更できま せん	Essbase でリストされたア プリケーションの設定を 変更できません。	1. 他のユーザーをログオフします。 2. アプリケーションをアンロードしま す。 3. アプリケーションを再ロードしま す。 4. 設定を変更します。SETAPPSTATE コ マンドを正しく使用していることを 確認します。
1054020	***コマンド・ライン・パス ワードが欠落しています!	コマンド・ライン・パス ワードが発行されていない ので Essbase を開始でき ません。	-b スイッチを使用して Essbase をバッ クグラウンドで開始する場合は、コマ ンド・ラインに必ずシステム・パスワ ードを入力します。
1054021	アプリケーション appName の設定を変更できません。詳 細はサーバー・ログを参照し てください	リストされたアプリケー ションはロードされてい ません。	ENABLELOGIN コマンドの前に UNLOADAPP コマンドと LOADAPP コマ ンドを発行します。  appName.log を参照してください。
1054022	アプリケーション appName はデータベース databaseName がアーカイブまたは読取り専 用モードに設定されている間 はコピーできません	他のユーザーがデータ ベースをアーカイブして いたため、データベース は読取り専用モードに設 定されていました。	BEGINARCHIVE コマンドで始まり、 ENDARCHIVE コマンドで終わるアーカイ ブ・プロセスが終了するまで待ちま す。アーカイブ・プロセスが終了した ら、必ず ENDARCHIVE コマンドを発行し てください。
1054023	アプリケーション appName の設定はデータベース databaseName がアーカイブま たは読取り専用モードに設定 されている間は変更できま せん	他のユーザーがデータ ベースをアーカイブして いたため、データベース は読取り専用モードに設 定されていました。	BEGINARCHIVE コマンドで始まり、 ENDARCHIVE コマンドで終わるアーカイ ブ・プロセスが終了するまで待ちま す。アーカイブ・プロセスが終了した ら、必ず ENDARCHIVE コマンドを発行し てください。

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1054025	アプリケーション appName の名前はデータベース databaseName がアーカイブまたは読取り専用モードに設定されている間は変更できません	他のユーザーがデータベースをアーカイブしていたため、データベースは読取り専用モードに設定されていました。	BEGINARCHIVE コマンドで始まり、ENDARCHIVE コマンドで終わるアーカイブ・プロセスが終了するまで待ちます。アーカイブ・プロセスが終了したら、必ず ENDARCHIVE コマンドを発行してください。
1054026	アプリケーション appName への新規データベースの作成はデータベース databaseName がアーカイブまたは読取り専用モードに設定されている間は実行できません	他のユーザーがデータベースをアーカイブしていたため、データベースは読取り専用モードに設定されていました。	BEGINARCHIVE コマンドで始まり、ENDARCHIVE コマンドで終わるアーカイブ・プロセスが終了するまで待ちます。アーカイブ・プロセスが終了したら、必ず ENDARCHIVE コマンドを発行してください。
1054027	アプリケーション appName はプロセス ID number で開始されました	オペレーティング・システムによってリストされたアプリケーションに割り当てられたプロセス ID。	該当なし
1054029	データベース・ファイル情報要求のパラメータ値が無効です。	API または ESSCMD コマンドに Essbase データベースに関する十分な情報がありません。	各 ESSCMD コマンドまたは API コマンドに、正しい情報が指定されていることを確認します。 各 ESSCMD コマンドまたは API コマンドに、必要なパラメータがすべて指定されていることを確認します。
1054030	アプリケーション appName の選択に失敗しました。エラー number	Essbase でリストされたアプリケーションを選択できません。	SELECT コマンドを正しく使用していることを確認します。 リストされたアプリケーションが実行中で、Oracle Essbase Administration Services からそのアプリケーションを選択できることを確認します。選択できない場合、Essbase サーバーがリストされたコンピュータで実行されていることを確認します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>● Essbase サーバーが動作していない場合は、Essbase サーバーを再起動します。</li> <li>● Essbase サーバーがクラッシュしている場合は、異常シャットダウンのための手順を実行します。</li> <li>● Essbase サーバーがフリーズしている場合は、Essbase サーバーを停止して異常シャットダウンのための手順を実行します。標準の方法で Essbase サーバーを停止できない場合は、タスクを終了します(158 ページの「サーバー・タスクの終了」を参照してください)。</li> </ul>

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1055041	デーモン・スレッドを作成できません。	<p>エージェントが、デーモン・スレッドまたはその内部スレッドの1つを初期化できません。</p> <p>使用可能なメモリーが足りないため、プロセスを初期化できません。</p>	プロセスを再起動してください。



---

# 12

## 1120000 - 1120002: CのグリッドAPIメッセージ

---

表 12 に C のグリッド API のエラー・メッセージと情報メッセージを示します。

表 12 C のグリッド API メッセージ 1120000 - 1120002

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1120000	ファイル fileName をロックできません。	そこで操作を行うためにリストされたファイルを、Essbase でロックできません。通常これは、Essbase でファイルが見つからないとき、またはユーザーにファイルへの書き込み権限がないときに発生します。	<p>Essbase で、リストされたファイルが見つかることを確認します。</p> <p>リストされたファイル名とパス名が正しいことを確認します。スペルに間違いがないか確認します。</p> <p>ESSCMD を使用している場合は、リストされたファイルの大文字/小文字とスペルが正しいことを確認します。</p> <p>IMPORT ESSCMD を使用している場合は、IMPORT コマンドを正しく使用していることを確認します。IMPORT コマンドを発行する場合は、データ・ファイルの場所を選択するための 4 つのオプションがあります。</p> <p><b>1 (ローカル/クライアント・オブジェクト):</b> データ・ファイルがクライアント・フォルダ内にあることを確認します。データ・ファイルに対する読取りアクセス権があることを確認します。UNIX では、ファイル名は大文字と小文字が区別されるため、大文字と小文字を確認します。</p> <p><b>2 (リモート・サーバー・オブジェクト):</b> データ・ファイルに対する読取りアクセス権があることを確認します。UNIX では、ファイル名は大文字と小文字が区別されるため、大文字と小文字を確認します。</p> <p><b>3 (ファイル):</b> 完全なパス名と完全なファイル名(ファイルのタイプを示す拡張子も含める)を指定したことを確認します。</p> <p><b>4 (SQL):</b> ODBC 接続を確認します。Essbase サーバーが適切に構成されていることを確認します。</p> <p>Essbase で、リストされたファイルを使用できることを確認します。</p> <p>ファイルがロックされているかどうかを確認します(158 ページの「オブジェクトのロック解除」を参照してください)。</p> <p>リストされたファイルに対する正しい Essbase 権限があることを確認します。</p> <p>リストされたファイルと書き込み先のドライブに対する正しいオペレーティング・システム権限があることを確認します。</p> <p>十分なディスク・スペースがあることを確認します。</p> <p>リストされたファイルが破損していないことを確認します(156 ページの「データベース破損の確認」を参照してください)。</p> <p>セキュリティ・ファイルが破損しているかどうかを確認します。</p> <p>操作が完了しなかった場合は、回復手順を実行します。その後、データベースが破損していないかどうかを確認します。</p> <p>アプリケーションを、ファイル・システム・コントロール(Windows のエクスプローラまたは cp あるいは rm コマンド)を使用してコピーまたは削除した場合は、元の名前でダミー・アプリケーションを作成し、Essbase を</p>

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
			<p>使用してアプリケーションを正しくコピーまたは削除します。</p>
1120000 続き			<p>ディスク・ボリュームを使用している場合は、次の点を確認します:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ESSBASEPATH/bin/essbase.cfg ファイルの DISKVOLUMES 設定が正しいか。</li> <li>● ディスク・ボリュームをスパンしたユーザーがドライブに対する正しいオペレーティング・システム権限を持っているかどうかを確認します。</li> <li>● DISKVOLUMES 設定を変更した後、Essbase サーバーを停止してから再起動します。Essbase サーバーの停止および再起動なしで DISKVOLUMES 設定を変更した場合は、データベースが破損しているかどうかを確認します。</li> </ul> <p>Essbase Server が UNIX を実行しているコンピュータ上にある場合は、次の点を確認します:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ファイル記述子の制限(157 ページの「<a href="#">ユーザー制限プロファイルの確認</a>」を参照してください)が正しく設定されているか。</li> <li>● ルート・パーティションのスペースが十分であるか。</li> <li>● リストされたファイルの大文字と小文字が正しいか。</li> </ul>
1120001	Essbase カーネルによりデータベース databaseName に割り当てられた物理メモリのロックを解除できません。	Essbase で、Essbase カーネルによりリストされたデータベースに対して割り当てられた物理メモリのロックを解除できません。	<p>キャッシュ・メモリのロックをオフにします。問題が解決されない場合は、Oracle サポートに問い合わせてください。</p>
1120002	データベース databaseName がバックアップのため読取り専用モードになっている間は、データを消去できません。	データベースが読取り専用になっているため、Essbase でデータベースを消去できません。	<p>BEGINARCHIVE コマンドで始まり、ENDARCHIVE コマンドで終わるアーカイブ・プロセスが終了するまで待ちます。アーカイブ・プロセスが終了したら、管理者は必ず ENDARCHIVE コマンドを発行してください。</p> <p>ESSCMD を使用している場合は、アーカイブ・プロセスが完了してから次のプロセスが開始されるようにするため、スリープ・コマンドを追加する必要があります。</p>





# 13

## 1130203 - 1130613: その他のメッセージ

表 13 にその他のエラー・メッセージと情報メッセージを示します。

表 13 その他のメッセージ 1130203 - 1130613

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1130203 関連トピック 1006006 1006010 1006015 1006023	Essbase でメモリーを割り当てることができません。		<p>問題を解決するには、次の提案のいずれかを試みてください。問題を解決した後、データベースが破損していないかどうかを確認します(156 ページの「データベース破損の確認」を参照してください)。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● サーバー・コンピュータ上の物理メモリーを確認します。Windows 環境の場合、1 つのデータベースに推奨される最小メモリーは 64 MB です。UNIX 環境の場合、1 つのデータベースに推奨される最小メモリーは 128 MB です。引き続きエラーが発生する場合は、サーバー・コンピュータにより多くのメモリーを追加します。</li> <li>● UNIX コンピュータの場合、ユーザー制限プロファイルを確認します(157 ページの「ユーザー制限プロファイルの確認」を参照してください)。</li> <li>● データベースのブロック・サイズを確認します。必要に応じて、ブロック・サイズを小さくします。</li> <li>● データ・キャッシュとデータ・ファイル・キャッシュの設定を確認します。必要に応じて、データ・キャッシュとデータ・ファイル・キャッシュのサイズを小さくします。</li> <li>● Essbase コンピュータに十分なリソースがあることを確認します。システム要件については『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System インストール概要』を確認してください。リレーショナル・データベースなどのリソース集中型のアプリケーションを同じコンピュータで実行している場合、そのリソース集中型のアプリケーションが Essbase に必要なリソースを使用している可能性があります。</li> </ul>

メッセージ番号	メッセージ	考えられる原因	考えられる解決策
1130404 関連トピック 1042006 1042017	操作の実行中に Essbase がタイム・アウトになりました。		最初に、このメッセージの直前に表示されたメッセージを確認して他の問題がないかどうかを確認します。その後、次のことを試みてください: <ul style="list-style-type: none"> <li>NETDELAY と NETRETRYCOUNT の値を増やします(158 ページの「NETDELAY および NETRETRYCOUNT の設定」を参照してください)。</li> <li>Essbase サーバーを停止して再起動します。</li> <li>データベースが破損しているかどうかを確認します(156 ページの「データベース破損の確認」を参照してください)。</li> <li>タイトル・バーの「X」をクリックして Essbase サーバーのウィンドウを閉じないでください。</li> <li>Essbase コンピュータに十分なリソースがあることを確認します。システム要件については『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System インストール概要』を確認してください。リレーショナル・データベースなどのリソース集中型のアプリケーションを同じコンピュータで実行している場合、そのリソース集中型のアプリケーションが Essbase に必要なリソースを使用している可能性があります。</li> <li>再度 REGISTER.EXE を実行して、ポートがアクティブ化されていることを確認します。『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System インストールおよび構成ガイド』を確認してください。</li> </ul>
1130409	これは内部エラーです。		Oracle サポートに連絡してください。
1130410	これは内部エラーです。		Oracle サポートに連絡してください。
1130610 関連トピック 1003022	Essbase でファイルを開けません。	ESSCMD IMPORT コマンドを正しく使用していることを確認します。	ESSCMD スクリプトで必要とされるすべてのファイルを ARBORPATH/app/appName/databaseName ディレクトリに保管します。 ARBORPATH/app/appName/databaseName ディレクトリから ESSCMD スクリプトを実行します。 ESSCMD スクリプトに無効なパスがないか確認します。スクリプトが指しているすべてのフォルダが存在していることを確認します。 エラー・ファイルを使用している場合は、エラー・ファイルが存在するディレクトリで作成されていることを確認します。
1130612	Essbase でファイルを閉じられませんでした。		Essbase サーバーを停止して再起動します。
1130613 関連トピック 1003022	Essbase でファイルを読み取れません。		IMPORT コマンドなど、リモート・サーバー上のファイルにアクセスする ESSCMD コマンドの構文を確認します。 ファイルが破損していないことを確認します。



# 参照手順

## この付録の内容

環境変数の設定 .....	155
データベース破損の確認.....	156
データベース破損の修復.....	156
バックアップを使用したデータベース・ファイルの置換 .....	157
ユーザー制限プロファイルの確認.....	157
NETDELAY および NETRETRYCOUNT の設定 .....	158
サーバー・タスクの終了.....	158
オブジェクトのロック解除.....	158
オペレーティング・システム権限の判別.....	159

## 環境変数の設定

次の環境変数が正しく設定されていることを確認します:

- ARBORPATH (PC および UNIX)
- ESSBASEPATH (PC および UNIX)
- PATH (PC および UNIX)
- LD\_LIBRARY\_PATH (UNIX のみ)

Essbase をデフォルトの場所にインストールしている場合、次の変数設定を使用します:

- **Windows:**

```
PATH=C:/Hyperion/products/Essbase/EssbaseServer/bin
ARBORPATH=C:/Hyperion/products/Essbase/EssbaseServer/app
ESSBASEPATH=C:/Hyperion/products/Essbase/EssbaseServer
```

- **UNIX:**

```
path=/home/hyperion/products/essbase/essbaseserver/binARBORPATH=/home/
hyperion/products/essbase/essbaseserver/appESSBASEPATH=/home/hyperion/products/
essbase/essbaseserverLD_LIBRARY_PATH=$ARBORPATH/bin:$ARBORPATH/dlls:$ARBORPATH/
api/lib
arbormsgpath=/home/hyperion/essbase/bin
```

他の環境変数については、『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System インストール概要』を参照してください。

## データベース破損の確認

- ▶ データベースが破損しているかどうかを確認するには、次の手順を実行します:
  - 1 ESSCMD で VALIDATE コマンドを発行します。
  - 2 VALIDATE コマンドでエラーが発生した場合、破損しているデータベースを修復します(156 ページの「データベース破損の修復」を参照してください)。
  - 3 VALIDATE コマンドにエラーがない場合は、アプリケーション・ログに無効なブロック・ヘッダーと AVL-Tree エラーがないかを確認します。
  - 4 アプリケーション・ログに無効なブロック・ヘッダーまたは AVL-Tree エラーがある場合は、データベースは破損しています。破損しているデータベースを修復します(156 ページの「データベース破損の修復」を参照してください)。
  - 5 無効なブロック・ヘッダーも AVL-Tree エラーもない場合は、データベースは破損していません。データベースをバックアップします。

## データベース破損の修復

- ▶ 破損しているデータベースを修復するには、次の手順を実行します:
  - 1 データベースを消去します。
  - 2 バックアップから再ロードします。
  - 3 データを再計算します。
  - 4 ESSCMD で VALIDATE コマンドを発行します。
- ▶ それでもデータベースが修復されない場合は、次の手順を実行してください:
  - 1 Essbase サーバーを停止します。
  - 2 次のファイルを削除します:
    - ARBORPATH/app/appName/databaseName/databaseName.esm
    - ARBORPATH/app/appName/databaseName/databaseName.ind
    - ARBORPATH/app/appName/databaseName/databaseName.tct
    - ARBORPATH/app/appName/databaseName/essXXXXXX.ind
    - ARBORPATH/app/appName/databaseName/essXXXXXX.pag
  - 3 次の一時ファイルが存在する場合は、そのファイルを削除します:
    - ARBORPATH/app/appName/databaseName/databaseName.esn
    - ARBORPATH/app/appName/databaseName/databaseName.inn

- ARBORPATH/app/appName/databaseName/databaseName.otn
- ARBORPATH/app/appName/databaseName/databaseName.otn
- ARBORPATH/app/appName/databaseName/databaseName.tcu
- ARBORPATH/app/appName/databaseName/essXXXXX.inn
- ARBORPATH/app/appName/databaseName/essXXXXX.pan
- ARBORPATH/app/appName/databaseName/essXXXXX.tmp

- 4 新規アプリケーションとデータベースを作成します。
- 5 バックアップから再ロードします。
- 6 新規データベースを再計算します。
- 7 Essbase サーバーを再起動します。

## バックアップを使用したデータベース・ファイルの置換

▶ データベース・ファイルをバックアップで置き換えるには、次の手順を実行します:

- 1 Essbase サーバーを停止します。
- 2 databaseName.db を databaseNamedb.old に、databaseName.dbb を databaseName.db に名前変更します。
- 3 Essbase サーバーを再起動します。

## ユーザー制限プロファイルの確認

UNIX コンピュータで Korn シェルを使用している場合は、ulimit -a コマンドを使用してユーザー制限プロファイルを確認します。別のシェルを使用している場合は、man limit または man ulimit を入力して、limit コマンドのフラグを確認します。

- ulimit -d unlimited コマンドを使用して、データを **unlimited** に設定します。
- ulimit -v unlimited コマンドを使用して、仮想メモリーを **unlimited** に設定します。
- ulimit -n 1024 コマンドを使用して、ファイル記述子の制限値を少なくとも 1024 に設定します。可能な場合、ファイル記述子の制限値を **unlimited** に設定します。
- これらのステートメントを .profile または .cshrc ファイルに追加します。

## NETDELAY および NETRETRYCOUNT の設定

NETDELAY および NETRETRYCOUNT の値を増やすと、ネットワークに関する問題が解決することがあります。

- ▶ NETDELAY および NETRETRYCOUNT を設定するには、次の手順を実行します。
- 1 サーバー・コンピュータとクライアント・コンピュータ上に `ESSBASEPATH/bin/essbase.cfg` が存在しない場合、テキスト・エディタを使用してそのファイルを作成します。
- 2 サーバー・コンピュータとクライアント・コンピュータ上の `ESSBASEPATH/bin/essbase.cfg` ファイルで、NETDELAY を少なくとも 800 に設定します。
- 3 サーバー・コンピュータとクライアント・コンピュータ上の `ESSBASEPATH/bin/essbase.cfg` ファイルで、NETRETRYCOUNT を少なくとも 1000 に設定します。
- 4 Essbase サーバーを停止して再起動します。

## サーバー・タスクの終了

標準の方法で Essbase サーバーを停止できない場合:

- Windows- タスク・マネージャを使用して、Essbase サーバー・タスクを終了します。Windows のドキュメンテーションを参照してください。
- UNIX- 次のコマンドを使用して、ESSSVR プロセスを確認します:

```
ps -ef |grep ESS
```

次のコマンドを使用して、プロセスを強制終了します:

```
kill -9  
process id
```

オペレーティング・システムのドキュメンテーションを参照してください。

サーバー・タスクを終了した後、異常シャットダウンのための手順を実行します。

## オブジェクトのロック解除

ユーザーは、オブジェクト上でなんらかの操作を実行する間、そのオブジェクトをロックします。

必要とするオブジェクトがロックされている場合は、次の手順を実行してみてください。

1. ユーザーの要求が正常に終了するまで待ちます。
2. 要求を実行しているユーザーを確認します。必要に応じて、その要求を終了します。

3. オブジェクトをロックしているユーザーを確認します。必要に応じて、クライアントでそのオブジェクトのロックを解除します。
4. それでも問題が解決しない場合は、次の手順に従って、サーバーでオブジェクトのロックを解除します。
  1. エージェント・ウィンドウで、DUMP コマンドを使用してロックされているオブジェクトのリストを取得します。UNIX プラットフォームでは、フォアグラウンドで Essbase を実行する必要があります。
  2. DUMP コマンドによって生成されたテキスト・ファイルを開きます。ロックに関する情報は、ファイルの最後のロック済オブジェクトのセクションにあります。
  3. 現在使用されていないオブジェクトのロックを解除します。
5. それでもオブジェクトがロックされたままである場合は、Essbase サーバーを停止して再起動します。

## オペレーティング・システム権限の判別

Essbase Agent には、エージェントを起動するユーザーの権限に関係なく、エージェントを実行するための正しいオペレーティング・システム権限が割り当てられている必要があります。

エージェントに正しい権限が割り当てられていない場合は、オペレーティング・システムを使用して権限を変更するか、または正しい権限を使用して Essbase を再インストールします。

### UNIX:

Essbase を UNIX コンピュータで実行している場合は、エージェントは ESSSVR プロセスとして動作します。ESSSVR プロセスには root 権限が必要です。

- ▶ 権限を確認するには、ESSBASEPATH/bin ディレクトリで `ls -l ESSBASE` を入力します。

ファイルには、次の読取り、書込みおよび実行の各権限がなければなりません:

```
159749 -rwxr-xr-x 1 essbase staff 730168 Aug 31 05:06 ESSBASE
```

### Windows:

Oracle Essbase を Windows コンピュータにインストールしている場合、エージェントは `essbase.exe` プロセスとして動作します。このプロセスには管理者権限が必要です。

- ▶ 権限を確認するには、次の手順を実行します:
  - 1 ESSBASEPATH/bin で、`essbase.exe` を選択して右クリックし、「プロパティ」を選択して「`essbase.exe`」ダイアログ・ボックスを開きます。
  - 2 「`essbase.exe`」ダイアログ・ボックスで、「セキュリティ」をクリックします。

- 3 「セキュリティ」で、「詳細設定」をクリックして、「アクセス制御設定」を開きます。
- 4 「アクセス制御設定」で、「所有者」をクリックします。
- 5 「所有者」が「管理者」に設定されていることを確認します。



# 索引

## 記号

1002112, 11	1006004, 40
1002122, 11	1006006, 40
1003000, 24	1006010, 41
1003001, 25	1006015, 41
1003003, 26	1006016, 41
1003004, 26	1006023, 42
1003005, 26	1006025, 42
1003006, 26	1006026, 42
1003007, 27	1006027, 42
1003008, 27	1006028, 42
1003010, 27	1006029, 42
1003011, 28	1006030, 42
1003012, 28	1006031, 43
1003013, 28	1006032, 43
1003014, 29	1006034, 43
1003015, 30	1006035, 43
1003022, 31	1006036, 43
1003023, 32	1006037, 43
1003024, 32	1006039, 43
1003025, 32	1006040, 44
1003027, 33	1006041, 44
1003028, 34	1006042, 44
1003029, 34	1006043, 44
1003030, 35	1006044, 44
1003031, 36	1006045, 44
1003032, 36	1006046, 44
1003034, 37	1006047, 45
1003035, 37	1006048, 45
1003036, 37	1006049, 45
1003037, 37	1006050, 45
1003038, 38	1006051, 45
1003039, 38	1006052, 45
1003040, 38	1006053, 45
1003041, 38	1006054, 45
1003048, 38	1006055, 45
1003055, 11	1006056, 46
1006002, 39	1006057, 46
	1008001, 47

## A-Z あ行 さ行 た行 な行 や行 ら行 わ行

1008006, 48	1008130, 58
1008009, 48	1008131, 58
1008010, 48	1008132, 58
1008021, 48	1008133, 59
1008022, 48	1008134, 59
1008023, 48	1008135, 60
1008024, 48	1008136, 60
1008025, 48	1008137, 60
1008028, 48	1008138, 60
1008029, 49	1008139, 60
1008030, 49	1008140, 60
1008031, 49	1008141, 61
1008036, 49	1008142, 61
1008037, 49	1008143, 61
1008039, 49	1008144, 61
1008089, 49	1008145, 61
1008090, 50	1008146, 61
1008091, 50	1008147, 61
1008092, 50	1008148, 61
1008093, 50	1008149, 62
1008099, 50	1008150, 62
1008100, 50	1008151, 62
1008101, 50	1008152, 62
1008106, 51	1012000, 63
1008107, 52	1012001, 63
1008108, 53	1012004, 64
1008109, 53	1012005, 64
1008110, 54	1012009, 64
1008111, 54	1012010, 64
1008112, 54	1012011, 65
1008113, 55	1012012, 65
1008114, 55	1012013, 65
1008115, 55	1012015, 65
1008116, 55	1012016, 65
1008117, 55	1012017, 66
1008118, 55	1012018, 66
1008119, 55	1012019, 66
1008120, 55	1012021, 66
1008121, 55	1012023, 66
1008122, 56	1012024, 66
1008123, 56	1012025, 67
1008124, 56	1012026, 67
1008125, 56	1012027, 67
1008126, 57	1012028, 67
1008127, 57	1012029, 67
1008128, 57	1012030, 68
1008129, 57	1012031, 68

A-Z あ行 さ行 た行 な行 や行 ら行 わ行

1012032, 68	1012558, 75
1012033, 68	1012559, 75
1012034, 68	1012560, 75
1012035, 68	1012561, 75
1012036, 68	1012562, 75
1012037, 68	1012563, 76
1012038, 69	1012564, 76
1012039, 69	1012566, 77
1012040, 69	1012567, 77
1012041, 69	1012568, 77
1012042, 69	1012569, 77
1012043, 70	1012570, 77
1012044, 70	1012571, 77
1012045, 70	1012600, 77
1012046, 70	1012667, 77
1012047, 70	1012668, 77
1012048, 70	1012669, 77
1012049, 70	1012670, 78
1012050, 70	1012671, 78
1012051, 71	1012672, 78
1012052, 71	1012674, 78
1012053, 71	1012675, 78
1012054, 71	1012676, 78
1012055, 71	1012677, 78
1012061, 71	1012678, 79
1012062, 71	1012679, 79
1012063, 72	1012680, 79
1012106, 72	1012681, 79
1012121, 72	1012682, 79
1012134, 72	1012683, 80
1012135, 72	1012684, 80
1012136, 72	1012700, 80
1012137, 72	1012701, 80
1012139, 73	1012702, 80
1012141, 73	1012703, 81
1012142, 73	1012704, 81
1012143, 73	1012706, 81
1012500, 74	1012708, 81
1012501, 74	1012709, 82
1012550, 74	1012710, 82
1012551, 74	1012711, 82
1012552, 74	1012712, 82
1012553, 74	1012713, 82
1012554, 74	1012714, 82
1012555, 75	1012715, 83
1012556, 75	1012716, 83
1012557, 75	1012717, 83

A-Z あ行 さ行 た行 な行 や行 ら行 わ行

1012718, 83	1019015, 104
1012727, 83	1019017, 104
1012733, 84	1019018, 104
1012734, 84	1019019, 104
1012735, 85	1019020, 105
1012736, 85	1019021, 105
1012737, 86	1019022, 105
1012738, 86	1019024, 105
1012739, 87	1019025, 105
1012740, 88	1019026, 105
1012741, 88	1019028, 106
1012742, 88	1019031, 106
1012750, 88	1019032, 106
1013009, 89	1019034, 106
1013101, 12	1019035, 107
1013136, 89	1019036, 107
1013294, 12	1019037, 107
1014004, 91	1019038, 107
1014018, 91	1019039, 107
1014025, 91	1019040, 108
1014026, 92	1019041, 109
1014027, 92	1019042, 110
1014028, 92	1019043, 110
1014031, 93	1019044, 110
1014032, 94	1019045, 110
1014033, 94	1019046, 110
1014034, 94	1019047, 110
1014035, 95	1019048, 110
1014036, 95	1019049, 110
1014039, 95	1019050, 110
1014040, 95	1019051, 110
1014041, 95	1019052, 111
1014042, 95	1019053, 111
1014043, 95	1019054, 111
1019002, 98	1019056, 111
1019003, 100	1023057, 11
1019004, 102	1040002, 113
1019005, 103	1040003, 113
1019006, 103	1040004, 113
1019007, 103	1040006, 113
1019008, 104	1040007, 113
1019009, 104	1040008, 114
1019010, 104	1040010, 114
1019011, 104	1040011, 114
1019012, 104	1040012, 114
1019013, 104	1040013, 114
1019014, 104	1040014, 114

1040015, 114	1051016, 128
1040016, 114	1051017, 128
1040017, 114	1051018, 128
1040018, 114	1051019, 128
1040019, 114	1051020, 128
1041000, 115	1051021, 128
1041002, 115	1051022, 128
1041003, 115	1052001, 129
1041004, 115	1052002, 130
1041005, 116	1052003, 131
1041006, 116	1052004, 132
1041007, 116	1052005, 132
1041008, 116	1053001, 133
1041009, 116	1053002, 134
1041011, 117	1053003, 134
1041012, 117	1053004, 135
1041013, 117	1053005, 135
1041014, 117	1053006, 136
1042002, 117	1053007, 136
1042003, 118	1053008, 136
1042004, 119	1053009, 136
1042006, 120	1053010, 136
1042007, 120	1053011, 137
1042008, 121	1053012, 137
1042009, 121	1053013, 137
1042010, 122	1053014, 137
1042011, 122	1053015, 137
1042012, 122	1053016, 138
1042013, 123	1053017, 138
1042015, 123	1053018, 138
1042017, 124	1053019, 139
1042018, 124	1053020, 140
1042019, 124	1053021, 140
1042020, 124	1053022, 140
1042022, 125	1053023, 140
1042023, 125	1053024, 140
1042024, 125	1054001, 141
1042025, 125	1054002, 141
1051002, 127	1054003, 142
1051003, 127	1054004, 142
1051004, 127	1054005, 142
1051006, 127	1054006, 142
1051009, 127	1054007, 143
1051011, 127	1054009, 143
1051012, 127	1054010, 143
1051013, 127	1054011, 144
1051014, 128	1054012, 144

1054013, 144  
1054014, 144  
1054016, 144  
1054017, 144  
1054018, 145  
1054019, 145  
1054020, 145  
1054021, 145  
1054022, 145  
1054023, 145  
1054025, 146  
1054026, 146  
1054027, 146  
1054029, 146  
1054030, 146  
1055041, 147  
1060145, 12  
1060147, 12  
1060149, 12  
1060172, 12  
1060175, 13  
1060180, 13  
1120000, 150  
1120001, 151  
1120002, 151  
1130203, 153  
1130404, 154  
1130409, 154  
1130410, 154  
1130610, 154  
1130612, 154  
1130613, 154  
1150085, 13  
1150086, 13  
1150090, 13  
1150091, 13  
1241164, 13  
1270001, 14  
1270004, 14  
1270005, 14  
1270006, 15  
1270009, 15  
1270011, 15  
1270018, 15  
1270022, 16  
1270024, 16  
1270030, 16

1270032, 16  
1270035, 16  
1270036, 16  
1270039, 17  
1270040, 17  
1270041, 17  
1270044, 17  
1270047, 17  
1270049, 17  
1270052, 17  
1270054, 18  
1270057, 18  
1270058, 18  
1270059, 18  
1270060, 19  
1270063, 19  
1270069, 19  
1270070, 20  
1270071, 21  
1270082, 21  
1270506, 21  
1270517, 21  
1270526, 22  
1270527, 22

## A - Z

C のグリッド API メッセージ, 149

Essbase サーバー

エラー, 7

Essbase サーバー・ログ

メッセージのカテゴリ, 7

NETDELAY、設定, 158

NETRETRYCOUNT、設定, 158

## あ行

アプリケーション・ログ

メッセージのカテゴリ, 7

エラー・コードおよび番号, 7

エラー・メッセージのカテゴリ, 7

エージェント・メッセージ, 127

オブジェクト、ロック解除, 158

オブジェクトのロック解除, 158

オペレーティング・システム権限、判別, 159

オペレーティング・システム権限の判別, 159

## さ行

その他のメッセージ, 153

サーバー・タスク、終了, 158

サーバー・タスクの終了, 158

システム・エラー

    カテゴリ, 7

システム呼出しのメッセージ, 47

システム権限、オペレーティング、判別, 159

環境変数, 155

集約ストレージ・メッセージ, 11

## た行

データベース・オブジェクト・メッセージ, 97

データベース破損

    修復, 156

    確認, 156

データベース破損の修復, 156

データ・キャッシュのメッセージ, 39

データ・ロード・メッセージ, 23

## な行

ネットワーク・メッセージ, 113

## や行

ユーザー制限プロファイル、確認, 157

## ら行

リクエスト・メッセージ, 89

ロックされたオブジェクト, 158

ロック・マネージャ・メッセージ, 91

## わ行

参照手順, 155

変数、環境、設定, 155

手順、参照, 155

概要, 7

権限、オペレーティング・システム、判別,  
159

環境変数、設定, 155

破損、データベース

    修復, 156

    確認, 156

確認

    データベース破損, 156

    ユーザー制限プロファイル, 157

計算メッセージ, 63

設定

    NETDELAY と NETRETRYCOUNT, 158

